

技能五輪国際大会誘致に向けた検討会報告書

平成 29 年9月

目次

第1部 2023年技能五輪国際大会の誘致について	2
1. 技能五輪国際大会とは	
2. 検討の経緯	
3. 2023年国際大会誘致の意義	
4. 愛知県を国際大会の候補地とする意義	
5. 国際大会のテーマ及び方向性	
6. 国際大会の開催効果	
7. 国際大会の具体的な取組イメージ	
第2部 2023年国際大会の開催に係る検証について	6
1. 開催場所	
2. 開催時期	
3. 輸送、宿泊計画	
4. その他	
5. 今後のスケジュール	
第3部 結び	7
技能五輪国際大会誘致に向けた検討会設置要綱	9
技能五輪国際大会誘致に向けた検討会構成員名簿	10
技能五輪国際大会誘致に向けた検討会 開催経過	11
日本再興戦略における技能五輪国際大会の招致に関する記述	12
技能五輪国際大会 過去の開催実績	13
別添資料1 2023年技能五輪国際大会基本構想	
別添資料2 技能五輪国際大会誘致に向けた検討会ワーキンググループ報告書	

第1部 2023年技能五輪国際大会の誘致について

1. 技能五輪国際大会とは

技能五輪国際大会(以下「国際大会」という。)は、国際的に技能を競うことにより、参加国・地域の職業訓練の振興及び技能水準の向上を図るとともに、22歳以下の若年技能労働者の国際交流と親善を図ることを目的とする大会である。1950年にスペインのマドリッドで第1回国際大会が開催されたことをきっかけに、昨今では2年に1回の頻度で開催されている。日本は1962年の第11回国際大会から参加しており、これまでに、1970年の第19回大会を千葉で、1985年の第28回大会を大阪で、2007年の第39回大会を静岡で開催した。

2. 検討の経緯

平成28年6月に閣議決定された「日本再興戦略2016」において、多面的アプローチによる人材の育成・確保を推進し、第4次産業革命という大変革を見据え、未来投資である人材力の強化の観点から新たな取組を進めていく必要があるとされた。この取組の一つとして、技能五輪国際大会の日本への誘致に向けた具体的な方策を検討し、本年度年央までに結論を得ることとされたところである。

これを踏まえ、平成29年1月に本検討会を設置し、国際大会を日本に誘致する際の意義やコンセプトについて議論を行った。3月に開催した第2回検討会では愛知県が策定した「2023年技能五輪国際大会基本構想」(以下「基本構想」という。)の提案を受け、開催候補地を愛知県に仮決定した。本年4月にはワーキンググループ(以下「WG」という。)を設置し、基本構想に基づき、ワールドスキルズインターナショナル(以下「WSI」という。)が設定する開催のための諸条件を満たすことができるかについて検証を行った。

本報告書はこれらの議論を総括して取りまとめたものである。

3. 2023年国際大会誘致の意義

2023年に開催予定の第47回国際大会を日本に誘致する意義は、以下のとおり「レベルアップ」「発信」「盛り上げる」の3つの視点から整理できる。

(1) 日本をレベルアップする

<大会参加者をレベルアップ>

- ・全国大会で金メダルを獲得した若者が、世界を相手に更に腕を上げる機会であり、企業の支援や地元からの応援を背に、地の利も活かしつつ、能力を最大限に発揮することが期待できる。国際大会で優秀な成績を収めることにより、一人一人の今後の自信となる。また、世界のレベルを知ることで自分自身の将来へのビジョンも構築できる。

<若者をレベルアップ>

- ・国際大会に参加できなかった若年技能者も、世界トップレベルの技能を直接見て、体感することにより、自らの技能を高める努力のインセンティブとなるとともに、今後の目標を高める機会となる。

<企業をレベルアップ>

- ・代表権獲得意識の高まりにより企業で働く技能者が切磋琢磨して技能を磨き、企業の技能レベル全体が向上することで、企業の競争力が高まり、企業活動の拡大につながる。

<働く人々をレベルアップ>

- ・少子高齢化や人口減少の流れの中で、成長と分配の好循環を拡大していくためには、働き方改革の実行に加えて人材への投資を通じた労働生産性の向上が必要とされ、「経済財政運営の基本方針 2017」において「人材への投資を通じた生産性の向上」が副題であり課題とされた。我が国での国際大会開催は社会全体で人材投資を抜本強化する契機となる。

<次世代をレベルアップ>

- ・小中学生の子どもたちが、国際的な技能競技大会を観戦することにより、ものづくり分野での活躍を将来の夢として描く契機となる。

<人的ネットワークをレベルアップ>

- ・ものづくり分野の若者たちが、技能を通じて世界の若者と交流することにより、グローバルな視点を持ち、これからの産業活動に役立つ人的ネットワークが構築される。

(2) 日本を発信する

<技能・技術を発信>

- ・我が国製造業の労働生産性は国際的に見ても高く、歴史的・伝統的な分野から AI やロボットなどの最先端分野まで、日本の産業を支える技術・技能を幅広く紹介すること等により、人的能力と技術力が融合した新たな姿を世界に発信し、これらを基盤とした我が国の高い経済的ポテンシャルに対する評価を確立する。

<オリジナリティを発信>

- ・歴史的に日本の産業活動の基礎を支えてきた伝統的な技能が、現代においても有効であることを示し、効率のみを重視する世界的スタンダードに一石を

投じるとともに、技術・技能分野における日本独自の価値観や人材育成の取組を積極的に発信する。

- ・おもてなしに代表されるような「和の心」は日本の技能に深く根付いており、高品質な財を作り出す源泉となっている。日本において国際大会を開催することで、この「和の心」を体感するきっかけとなる。
- ・日本のものづくりは多くの中小企業に支えられており、独創的で優れた技能を有している。技能への関心の高まりを背景に、中小企業の国際大会への参画を推進し、自社の技能を発信する機会とする。

<取組を発信>

- ・今後、工業化を進めようとする開発途上国に、戦後の高度成長を支えてきた「日本のものづくり分野」で働く技能者の育成の歴史を紹介する。
- ・世界でも有数の高齢化が進む社会において、次世代への技能の伝承や若い人材の育成に向けた積極的な取組を紹介し、今後先進国を中心に加速する高齢化への対応をリードする。

<魅力を発信>

- ・様々な国から多くの人々が来日する機会になることから、我が国の文化や伝統的な技能に触れ、直接日本の魅力を感じてもらうことができる。

<運営力を発信>

- ・国際大会への参加国が増え、大会規模が拡大する中、開催経費も拡大の一途をたどっている。将来における国際大会の持続的な開催についての懸念を払拭できるよう、効率的でコンパクトな大会を計画し、我が国の運営力の高さを世界に示す。

(3) 日本を盛り上げる

<社会を盛り上げる>

- ・我が国で国際大会を開催することにより、ものづくり分野の若者が国際的な舞台上で活躍する姿に、多くの国民が注目することとなり、技能に対する社会的な評価を高め、技能尊重の機運が醸成されるとともに、日本社会の将来の発展に対する希望を高める。

<国際化を盛り上げる>

- ・日本を訪れる参加者や大会関係者と、地元を中心とした様々な人々が交流ができる機会を積極的に設けることにより、人々が国際的なつながりの楽しさを実感する機会となり、我が国社会の国際化への貢献につながる。

＜東京 2020～愛知 2023～大阪 2025 を盛り上げる＞

・2020 年東京オリンピック・パラリンピック、2023 年愛知技能五輪国際大会、2025 年大阪万国博覧会（招致中）の3つの大会の有機的な連携を図り、スポーツ、技能・技術、産業活動というそれぞれの側面から、人間の能力や働くという人の根源的な営みとその未来を考えるきっかけとする。これらの3つの一連のイベントで、包括的に現在の日本の姿を世界に発信し、我が国の国際的なステータスを確立するとともに、21 世紀の最初の四半世紀の集大成として、我が国社会の活力を向上させる。

4. 愛知県を国際大会の候補地とする意義

愛知県は、古くからものづくり産業が発展し、第3次産業革命による産業構造の転換にも対応した地域であり、今も日本の製造業を牽引している。また、愛知県は技能士の数が日本一であり、毎年開催される技能五輪全国大会でも愛知県が選出した選手団は非常に優れた成績を残しており、日本の技能の中心地と言っても過言ではない。このような地域性に加え、2019 年、2020 年に技能五輪全国大会を愛知県で開催した上で国際大会を開催することは、参加選手強化の面で有利であることから、より効果的に日本全国へ技能の重要性や魅力を力強く発信することが期待される。

さらに、愛知県は 2005 年日本国際博覧会（愛・地球博）を開催した実績もあり、国際的なイベントを運営する十分な能力を有していると考えられる。

5. 国際大会のテーマ及び方向性

我が国で開催する国際大会は、技能分野が抱える課題の解決策を提示し、次代を担う若者に夢と希望を抱かせる機会とするとともに、産業構造の転換期を乗り越えた新しい姿を示す場とすることが重要である。

このため、国際大会のテーマは「技能が拓く世界の未来」を候補としつつ、「技能をめぐる対話」を通じて解決策を模索し、提示する等の具体的な方向性も含め、引き続き検討するべきである。

6. 国際大会の開催効果

国際大会の開催効果としては、以下のものが見込まれる。

- ① 国際大会を通じて、国際競争力を持つ人材の育成が進み、国内産業の持続的な発展につながる。また、人材投資、技能への関心が高まることで労働生産性の向上、海外進出先国も含めた産業を支える人材の育成・確保が図られる。
- ② 世界各国のトップレベルの技能者と、日本企業や日本人労働者との交流が生まれ、新たな人脈の形成や事業展開につながる。
- ③ 初等・中等教育段階の子どもたちが国際大会に身近に接し、ものづくりに触れるきっかけを提供することで、ものづくりへの興味関心を喚起し、職業教育の充実が図られる。

- ④ 技能への理解が深まることで、技能者の社会的・経済的地位の向上を促し、日本のものづくりの発展に寄与する。
- ⑤ 世界中から選手、企業関係者、学校関係者、観客が集まるため、経済活動が活性化化する。

7. 国際大会の具体的な取組イメージ

国際大会の意義や見込まれる効果を踏まえ、以下のような取組が考えられる。

- ① 国際大会の会場内外において、競技内容や技能の「見える化」を図るとともに、参加型のプログラムを用意する等、普段は技能に関わっていない来場者であっても技能の奥深さや魅力が理解できるような仕掛けをつくる。
- ② 企業や経済団体等への働きかけを通じて、国際大会への関心を高め、積極的な参加を促すとともに、我が国の伝統文化、先端技術を体験できる機会を設ける。
- ③ 国際大会の場を活用し、関係省庁の連携のもと、産業人材育成に係る施策や職業教育に係る施策の充実を図る。
- ④ 参加者同士の交流を促進する機会を設けるほか、参加者が楽しめる大会となるよう、地域産業や地元の人々との連携を重視し、愛知県の魅力を発信するイベント等を準備する。
- ⑤ 国内外の技能競技大会との有機的な連携を推進するとともに、多様なメディアを活用した積極的な広報活動により認知度の向上を図る。

第2部 2023年国際大会の開催に係る検証について

1. 開催場所

国際大会の開催地は、人口や経済規模が国際大会を開催するにふさわしい規模であり、かつ、技能を尊重し技能を楽しむ地域性を持っていることが望ましい。愛知県は上記の要件を満たすとともに、技能士の数が日本で最も多く、日本有数の産業の集積地となっており、国際大会を盛り上げる素地がある。

基本構想においては、国際大会の会場候補を中部国際空港に隣接して設置される予定の国際展示場としている。この国際展示場は、敷地面積 28.7ha、建築面積 8.6 万㎡となっており、仮設建築物を活用することで、国際大会に必要なとされる会場規模の要件は満たすものと考えられる。

2. 開催時期

基本構想に基づき、温度、湿度ともに快適で、比較的天候が安定している 2023 年の 10～11 月とすることが適当である。

3. 輸送、宿泊計画

愛知県は中部国際空港を有している。この空港はソウル、香港、シンガポール経由でアジアや欧米の主要ハブ空港からアクセスが容易であり、東京や大阪からは新幹線等の公共交通機関を使用することが可能である。また、名古屋を中心に宿泊施設も充実している。愛知県は、これまでも2005年日本国際博覧会を開催するなど、国際イベントを開催した実績が多数あり、輸送・宿泊インフラに支障はないと考えられる。ただし、宿泊場所から競技会場への移動手段は原則としてバスを使うことを見込んでおり、選手等の到着は一定の時間に集中することが予想されるため、円滑な移動が可能となるよう、乗降場所の設定や交通整理の方法については、詳細な検討が必要である。

4. その他

国際大会の開催に当たっては、産業の集積地であるという愛知県の立地を活かし、テーマに沿った独自性のある併催イベントやエクスカージョンを提供するとともに、積極的な広報活動を行う必要がある。

また、国際大会で生まれたムーブメントを一過性のものとしないう、持続可能な仕組みづくりを行うことが重要である。

5. 今後のスケジュール

2023年に開催予定の第47回国際大会については、開催要綱が明らかになっておらず、詳細な日程は不明であるが、例年のスケジュールに基づく以下のとおり。

- ・2018年秋頃のWSI総会において国際大会を主催する意思を表明
- ・2019年初頭にWSI事務局へプロポーザルシートを提出
- ・2019年夏にロシア連邦のカザンで行われるWSI総会において第47回国際大会の開催地を決定

第3部 結び

ものづくりは長年日本の経済成長を牽引してきた。我が国の製造業の労働生産性は国際的に見ても高く、その上昇率も依然として大きい。人口減少、少子高齢化の中で、今後の日本経済を更に発展させるためには、労働生産性の向上が不可欠である。このため、低生産性部門の改善だけでなく、第4次産業革命、Society5.0を見据え、製造現場等でのこれまでの強みを更に発展させていく必要がある。そのカギとなるのが未来への先行投資たる人材への投資であり、これを社会全体として強化していかなければならない。

しかしながら、企業による教育訓練投資は減少を続けている。新たな技術は、普遍的な価値を持つ技能が基盤に存在してこそ、実現できる。国際大会は、世界のトップレベルの若者が技能を競う大会であり、若手技能者が己の技を磨く意欲を高める機会というだけでなく、それを通じて人を育てること、企業が人材への投資の重要性を再認識する機会となる。また、少子高齢化やサービス業の拡大等を背景に、ものづくり分野でも

後継者不足が深刻となっている。これまで我が国が培った高い技能を次世代に確実に継承し、一層の高度化を目指すため、若者の技術・技能への関心を高めるとともに、切磋琢磨して技を磨く環境を充実させることが重要である。

さらに、国際大会を我が国で開催することは、国際的な注目度を高め、日本の魅力を強く発信するとともに、日本人にとっても国際意識を高める機会となる。

上記を踏まえ、愛知県や関係労使の協力を前提に2023年の国際大会を我が国で開催することを求めたい。

技能五輪国際大会誘致に向けた検討会設置要綱

(開催目的)

第1条 2023年(平成35年)以降に開催される技能五輪国際大会(以下「国際大会」という。)の誘致に向けて、基本方針、運営の在り方等について検討を行うため、「技能五輪国際大会誘致に向けた検討会」(以下「検討会」という。)を開催する。

(検討事項)

第2条 検討会は、国際大会の運営に関する次の事項について、専門的見地から検討を行い、誘致について助言を行う。

- 一 基本方針、運営、広報等の在り方に関する事
- 二 開催候補地に関する事
- 三 その他大会の運営等に関する重要な事項

(参集者)

第3条 構成員は、国際的なイベントの開催、ものづくり、技能等の各分野について専門的な見識を有する者のうちから職業能力開発局長(※1)が参集する。

※1 平成29年7月の組織再編により現在は人材開発統括官。

(スケジュール)

第4条 平成29年1月から検討を開始し、平成29年度年央を目処に最終的なとりまとめを行う。なお、必要に応じ中間的なとりまとめを行う。

(座長)

第5条 座長は構成員の互選により選任する。

- 2 座長は会議を主宰する。
- 3 座長に事故のあるときは、座長があらかじめ指名する構成員がその職務を代理する。

(招集)

第6条 座長は必要に応じて、構成員以外の者を招聘し、意見の陳述を行わせることができる。

(守秘義務)

第7条 構成員及び構成員であった者は国家公務員法(昭和22年法律第120号)に準拠し、その職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。

(庶務)

第8条 検討会の庶務は職業能力開発局能力評価課(※2)において処理する。

※2 平成29年7月の組織再編により現在は人材開発統括官付能力評価担当参事官室。

(補則)

第9条 この要綱に定めるものの他、検討会の運営に必要な事項は座長が定める。

技能五輪国際大会誘致に向けた検討会構成員名簿

【学識者】

- ◎ あかまつ あきら
赤松 明 ものづくり大学 学長
- かきもと あきら
垣本 映 職業能力開発総合大学校 教授

【使用者団体】

- あいづ たけし
会津 健 東京都塗装工業協同組合 理事長
- たかの ひろゆき
高野 浩幸 キヤノン（株）人事本部 ヒューマンリレーションズ
推進センター ヒューマンリレーションズ推進部長

【労働者団体】

- おぐら のりゆき
小倉 範之 全国建設労働組合総連合 技術対策部 部長
- たかくら あきら
高倉 明 全日産・一般業種労働組合連合会 会長

【技能五輪参加企業】

- えとう しんじ
江藤 伸二 日産自動車(株) 人事本部 人財開発／HR
プロセスマネジメント部 人財開発グループ 課長

【イベント企画・メディア広報専門関係】

- さわだ ゆうじ
澤田 裕二 (株)SD 代表取締役
- みずの なおき
水野 直樹 (株)NHK エンタープライズ グローバル事業本部事業
開発センター イベント・映像展開 担当部長
- むらかみ ようすけ
村上 洋介 NHK 制作局科学環境番組部 チーフ・プロデューサー

【技能五輪関係者】

- いまい ゆうた
今井 悠太 (株)デンソー技研センター 移動式ロボット職種エキスパート
- やまだ りょう
山田 亮 中央職業能力開発協会 理事

(五十音順・◎座長)

技能五輪国際大会誘致に向けた検討会 開催経過

第1回 2017年1月19日(木)

- (1) 国際大会の誘致について
 - ・大会開催のメリット
 - ・大会運営の在り方等
- (2) 我が国で開催する場合のコンセプト等について
- (3) その他

第2回 2017年3月24日(金)

- (1) 開催希望自治体からのヒアリング
 - ・愛知県
- (2) 今後の議論の進め方について

第3回 2017年7月27日(木)

- (1) 技能五輪国際大会誘致に向けた検討会ワーキンググループ報告書及び検討会報告書(案)について
- (2) 今後の誘致活動の進め方について

※ 議事概要等の掲載 URL はこちら↓

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-syokunou.html?tid=408767>

日本再興戦略における技能五輪国際大会の招致に関する記述

日本再興戦略2016（平成28年6月2日閣議決定）〔抄〕

Ⅲ イノベーション・ベンチャー創出力の強化、チャレンジ精神にあふれる人材の創出等

2. 多面的アプローチによる人材の育成・確保等

2-1. 人材力の強化

(2) 新たに講ずべき具体的施策

iii) 企業の人材管理の促進

③ 未来を創る若者の雇用・育成のための総合的対策の加速化（「セルフ・キャリアドック」の導入・促進等）

未来を担う若者が、職業生活において自身の能力や個性を発揮できる環境の実現を目指す。

～中略～

また、生産性の高いものづくり分野の人材育成のため、若者の技能検定の受検料の減免を速やかに検討し本年内に結論を得るとともに、技能五輪国際大会の日本への誘致に向けた具体的な方策を検討し、来年度年央までに結論を得る。

技能五輪国際大会 過去の開催実績

(単位：国、人、個)

回数	開催年(和暦)	開催国・地域	参加国 地域数	総参加 選手数	日本派遣 選手数	日本選手成績		
						金	銀	銅
第1回大会	1950年(昭和25年)	スペイン・マドリード	2	24				
第2回大会	1952年(昭和27年)	スペイン・マドリード	2	16				
第3回大会	1953年(昭和28年)	スペイン・マドリード	6	65				
第4回大会	1955年(昭和30年)	スペイン・マドリード	6	82				
第5回大会	1956年(昭和31年)	スペイン・マドリード	8	88				
第6回大会	1957年(昭和32年)	スペイン・マドリード	8	128				
第7回大会	1958年(昭和33年)	ベルギー・ブリュッセル	10	144				
第8回大会	1959年(昭和34年)	イタリア・モデナ	9	150				
第9回大会	1960年(昭和35年)	スペイン・バルセロナ	7	173				
第10回大会	1961年(昭和36年)	西ドイツ・デュイスブルグ	11	182				
第11回大会	1962年(昭和37年)	スペイン・ヒホン	10	199	8	5	1	0
第12回大会	1963年(昭和38年)	アイルランド・ダブリン	12	227	14	10	0	2
第13回大会	1964年(昭和39年)	ポルトガル・リスボン	12	199	17	12	4	0
第14回大会	1965年(昭和40年)	イギリス・グラスゴー	11	200	19	6	5	2
第15回大会	1966年(昭和41年)	オランダ・ユトレヒト	11	212	20	9	3	2
第16回大会	1967年(昭和42年)	スペイン・マドリード	11	218	20	5	7	2
第17回大会	1968年(昭和43年)	スイス・ベルン	14	246	20	6	2	5
第18回大会	1969年(昭和44年)	ベルギー・ブリュッセル	15	260	23	9	2	4
第19回大会	1970年(昭和45年)	日本・千葉	15	274	30	17	4	3
第20回大会	1971年(昭和46年)	スペイン・ヒホン	15	273	26	10	3	5
第21回大会	1973年(昭和48年)	西ドイツ・ミュンヘン	15	281	27	5	5	8
第22回大会	1975年(昭和50年)	スペイン・マドリード	17	291	26	4	7	5
第23回大会	1977年(昭和52年)	オランダ・ユトレヒト	16	267	26	7	4	3
第24回大会	1978年(昭和53年)	韓国・釜山	14	239	27	1	5	6
第25回大会	1979年(昭和54年)	アイルランド・コーク	14	276	28	7	8	1
第26回大会	1981年(昭和56年)	アメリカ合衆国・アトランタ	14	266	28	5	8	4
第27回大会	1983年(昭和58年)	オーストリア・リンツ	18	309	28	4	5	4
第28回大会	1985年(昭和60年)	日本・大阪	18	307	34	11	8	4
第29回大会	1988年(昭和63年)	オーストラリア・シドニー	19	354	30	6	0	3
第30回大会	1989年(平成元年)	イギリス・バーミンガム	21	382	27	3	6	1
第31回大会	1991年(平成3年)	オランダ・アムステルダム	21	411	26	4	2	2
第32回大会	1993年(平成5年)	チャイニーズタイペイ・台北	25	434	27	2	6	5
第33回大会	1995年(平成7年)	フランス・リヨン	28	474	28	4	3	1
第34回大会	1997年(平成9年)	スイス・ザンクトガレン	30	549	29	2	0	4
第35回大会	1999年(平成11年)	カナダ・モントリオール	33	625	34	6	3	2
第36回大会	2001年(平成13年)	韓国・ソウル	35	616	33	4	2	4
第37回大会	2003年(平成15年)	スイス・ザンクトガレン	37	585	34	6	2	4
第38回大会	2005年(平成17年)	フィンランド・ヘルシンキ	38	696	36	5	1	2
第39回大会	2007年(平成19年)	日本・静岡	46	812	51	16	5	3
第40回大会	2009年(平成21年)	カナダ・カルガリー	46	845	45	6	3	5
第41回大会	2011年(平成23年)	イギリス・ロンドン	52	944	44	11	4	4
第42回大会	2013年(平成25年)	ドイツ・ライプツィヒ	53	986	45	5	4	3
第43回大会	2015年(平成27年)	ブラジル・サンパウロ	59	1189	45	5	3	5
第44回大会	2017年(平成29年)	アラブ首長国連邦・アブダビ						
第45回大会	2019年(平成31年)	ロシア・カザン						

2023年技能五輪国際大会 基本構想

2017年3月



はじめに

技能五輪国際大会は、22歳以下の青年技能者が約50職種の競技で卓越した技能を競い合う技能の祭典であり、約60カ国・地域から約1,200名もの若者が参加しています。

本県では、2014年度に開催した「技能五輪・アビリンピックあいち大会」の成果と感動を踏まえ、次代の若者にもものづくり技能を継承し、技能尊重機運をさらに高めるため、2019年度の技能五輪全国大会、2020年度の技能五輪全国大会・全国アビリンピックを本県で連続開催いたしますが、さらに、こうした取組を大きなムーブメントとするため、2023年技能五輪国際大会を本県に招致したいと考えています。

愛知県は、製造品出荷額等が38年連続全国一のものづくり県であり、技能検定合格者は延べ33万人を超え、技能五輪全国大会では12年連続で最優秀技能選手団賞を獲得しています。しかし、経済のグローバル化や少子高齢化が進む中、本県の産業競争力を一層強化していくために、ものづくり愛知を支える産業人材の育成・確保は、大きな課題であると考えています。

技能五輪国際大会は、技能や職業教育の重要性を知らしめるムーブメントでもあり、主催者であるWSI(ワールドスキルズインターナショナル)では、「技能の力で世界を発展させる」というビジョンを掲げています。ものづくりで日本をリードする産業首都あいちが、国際大会の開催を通じて、技能を普及・発展させるムーブメントを起こしていくことは、本県の産業と人財力を成長させ、世界にアピールするまたとない機会になるものと思います。

このたび策定した基本構想では、テーマを「技能をめぐる対話(Dialogue over Skills)～創造性あふれる技能と多様な人々が協力し合うことによる、世界の持続的発展～」と掲げ、国際大会にふさわしい競技環境と参加者の思い出に残るおもてなしを提供するとともに、観客の皆様競技を分かりやすく伝える工夫をするなど、参加体験価値の拡大と技能競技大会の社会的価値の拡大に貢献したいと考えております。

日本及び愛知における「ものづくり」と「技能の価値」の発展のため、関係者の皆様と一緒に、2023年の技能五輪国際大会の招致を実現させたいと心から願っています。

2017年3月

愛知県知事
大村秀章



目 次

1	日本及び愛知に招致する理由、意義	02
2	大会基本コンセプト	07
3	開催時期	11
4	開催場所	12
5	事業構成	14
6	技能競技(Skills Competition)	17
7	公式行事(Official Event)	18
8	併催イベント(Special Event)	20
9	大会運営	22
10	広報コミュニケーション	24
11	ムーブメントとレガシー	28
12	推進組織	29
13	今後のスケジュール	30

<参考資料>

- 1 技能五輪国際大会
- 2 愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会

1 日本及び愛知に招致する理由、意義

(1) WSI(ワールドスキルズ・インターナショナル)のビジョン

WSIとは

WSIは技能の卓越性と能力開発の世界拠点です。産業界、政府、団体、(教育訓練)機関の国際的な協力と開発を通じ、また草の根コミュニティプロジェクト、技能競技大会、知識交換を通じて、熟練技能者の恩恵と必要性を促進しています。世界の若年技能者たちに最高を競う場を設けることにより、若者、産業界、社会に技能教育訓練の重要性を示しています。

WSIは、世界中で職業教育や、技術、サービス指向の進路における技能の卓越性と開発のために代表して声を上げています。1950年以来、若者とその親、教師、雇用主に対し、未来は効果的な技能訓練制度にかかっているという意識を啓発してきました。現在、WSIは75を超える国と地域で45種類以上の技能を代表しています。若者、教育者、産業界と協力しながら、明日の職業のために、今日の人材育成に努めています。

技能競技大会は単なる競技大会ではありません。一つのムーブメントです。技能振興、キャリア形成、技能競技大会、教育訓練、国際協力と開発、調査研究という6つの主要分野で取組を行うことにより、技能の卓越性と能力開発の世界拠点となることを目指しています。現在、国、地域、世界レベルで様々な活動が進行中です。ワールドスキルズ財団は自立した活動を支援し、構築するため、革新やパートナーとの協力の可能性を明らかにするプロジェクトや構想に協力しています。

WSIの理念と使命

ビジョン

技能の力で私たちの世界を発展させる。

使命

技能者への注目と認知を高め、経済的成長と個人的成功の達成における技能の重要性を示すこと。

ポジション

技能の卓越性と能力開発の世界拠点。

WSIの事業領域

技能振興

教育者、政策立案者、産業や他の機関が価値を再定義し、技能の魅力を向上させる技能の権威ある拠点や情報資産の宝庫。

キャリア形成

若い腕の良い技能者達が成功を積み重ね、次世代の技能労働者が、技能の可能性や重要性を発見するよう応援するための知恵と手段にアクセス出来るネットワークを提供。

技能競技大会

国際レベルの技能の卓越性を紹介し、活気を与えるために、技能競技大会は、世界中で開催され、多様な熟練を要する仕事を若者に紹介する。

教育訓練

未来の労働人口に需要の高い技能を獲得させる、新しく革新的な教育訓練方法を開発する教育者や産業のための手段。

国際協力と開発

若者や教育者、産業、政府が出会い、学び、共に技能を開拓出来る世界的なプラットフォーム。

調査研究

世界の技能についての最新情報や、事実、統計、ニュース。

(2)日本及び愛知に招致する理由、意義

①ものづくり王国・愛知(受け継がれてきた創造の歴史)

日本は、「ものづくり」を通じて高度成長を実現してきました。付加価値の高いものづくりと、その背景にある技術力は、日本の大きな特色として世界に広く認知、評価されており、今も日本経済の活力の源泉となっています。

中でも愛知県は、その中心地であり、窯業、木工、発酵・醸造、織物など古くから多彩な産業が発展し、形を変えながら現代まで継承されています。近代に入ると繊維産業を中心に発展し、続いて工作機械や一般機械、航空機産業も発展を遂げました。戦後は、自動車産業が興隆し、基幹産業へと成長したほか、国産ジェット旅客機(MRJ)、ロケット等の航空宇宙産業、ロボット産業、炭素繊維を始めとした素材産業など、世界最先端の産業を生み出し続けています。

2013年度の愛知県の経済規模(GDP)は世界28位に相当し、デンマークと同規模の水準を誇っています。また、2014年の愛知県の製造品出荷額等は43兆8,313億円と第2位の神奈川県(17兆7,211億円)を大きく引き離し、1977年から38年連続して全国1位となっており、日本のものづくりを牽引しています。

②職業訓練と国際貢献の実績

日本の高度なものづくりと技術力を支えているのは、独自の企業内職業訓練システムと言っても過言ではありません。愛知県は、企業等による職業訓練の先進地でもあります。

認定職業訓練校はおよそ100校あり、技能検定合格者は延べ33万人を超え、技能五輪全国大会では12年連続して最優秀技能選手団賞を獲得しています。

また、2016年4月に開校した愛知県立愛知総合工科高等学校では、3年制の本科に加え、全国初となる公設民営による2年制の専攻科を併設し、企業や大学と連携した職業教育訓練に取り組んでいます。

さらに日本は、職業訓練を通じた国際貢献にも取り組んでいます。JICAを中心とした人材派遣、退職した技能者による職業訓練等は、特にアジア圏の技能レベルの向上に貢献しており、WSIが提唱する職業訓練を通じた人材育成と国際協力のモデルを実践しています。

③あいちの産業観光

産業集積を生かした産業観光も愛知県の魅力の一つです。繊維機械と自動車の技術の変遷を通して日本の産業技術史を紹介する「トヨタ産業技術記念館」や、近代陶業発祥の地であるノリタケ本社敷地内に設置された「ノリタケの森」、東海道新幹線を中心に、蒸気機関車から超電導リニアまでの展示を通して高速鉄道技術の進歩を紹介する「リニア・鉄道館」などの産業観光施設が大きな人気を集めているほか、インバウンド向けの産業観光プログラムが積極的に開発されています。

また、世界で8番目となる「レゴランド」が2017年4月にオープン予定となっているほか、隣接する岐阜県と三重県との観光連携に加え、中部北陸9県の自治体、観光関係団体、観光事業者等が協働して推進する「昇龍道プロジェクト」も展開されており、愛知県の観光の魅力はさらに高まりつつあります。

④国際イベントの開催実績

(安全・安心・快適なイベント運営、多様性と持続可能性のメッセージ)

日本及び愛知県は、国際イベントの開催で大きな実績を有しています。特に愛知県では、世界デザイン博覧会、世界インダストリアル・デザイン博覧会、2005年日本国際博覧会(愛・地球博)、生物多様性条約第10回締結国会議(COP10)、持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議など、様々な国際イベントを開催し、成功させてきました。

愛・地球博では、海外39か国の国家元首・首相等を含む世界139か国からの貴賓を、安全・安心・快適にお迎えしており、2016年のG7伊勢志摩サミットでも、テロの脅威が叫ばれる中、その玄関口としての役割を無事果たしました。

「自然の叡智」をテーマに開催された愛・地球博は、21世紀における国際博覧会の意義を再定義した博覧会として、博覧会国際事務局からも高く評価されたほか、COP10やESD世界会議では、現代のグローバル社会で大きな課題となっている地球環境問題に対し、「多様性の保全」や「持続可能な社会」という視点でメッセージを発信しました。

また、これらの国際イベントを通して培われた展示演出、コミュニケーションの技術も日本及び愛知県の大きな特色となっており、2010年のミラノ万博でも日本館が展示デザイン部門で金賞を受賞するなど、国際的な評価を得ています。

⑤MICEへの対応力

日本は、グローバルな都市間競争に対応し、MICE誘致力の向上に取り組んでいます。そして、愛知県の県庁所在地である名古屋市は、日本政府が推進するグローバルMICE戦略・強化都市に選定されています。

愛知県は日本のほぼ中心に位置し、24時間運行可能な中部国際空港、東京・大阪を結ぶ新幹線などの充実した交通インフラが整備されています。中心都市である名古屋市には国際レベルのホテルが集積しており、「なごやめし」と称される食文化、名古屋城などに代表される観光資源も国際的な評価を受けています。さらに愛知県では、中部国際空港に隣接する愛知県国際展示場の整備にも取り組んでおり、愛知県のMICE対応力はますます高まりつつあります。

⑥技能五輪全国大会の連続開催

愛知県では、2019年度は技能五輪全国大会を、2020年度は技能五輪全国大会・全国アビリンピックを開催することが内定しています。また、今後の全国大会についても、定期的に愛知県で開催することを提唱しています。

技能五輪国際大会を単発の国際イベントとして招致するのではなく、全国大会を連続して開催し、その相乗効果により国内外におけるムーブメントの形成に継続的に取り組むことは、技能五輪の発祥地であるスペインを除くと最多(4回目)となる日本開催への理解と共感の獲得につながるものと思われます。

開催年度	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)
技能五輪 全国大会	第52回	第53回	第54回	第55回	第56回	第57回	第58回
開催地	愛知県	中央 (千葉県)	山形県	栃木県	沖縄県	愛知県	愛知県

2 大会基本コンセプト

(1)大会基本コンセプトの考え方

■WSIのビジョン

技能の力で私たちの世界を発展させる

技能はどのように世界を発展させるのか

技能を大切にすることで私たちはどのような社会を実現しようとしているのか

■日本及び愛知県に招致する理由、意義

愛知県に受け継がれてきた「技能」を尊重するDNAと「創造」の精神

様々な国際イベントで愛知県が発信してきた「多様性の保全」や「持続可能な社会」へのメッセージ

単なる競技大会でなく、一つのムーブメント

技能競技大会の知名度や関心をどのように高めていくのか

技能の力で世界を発展させるためのムーブメントに参加する関係者をどのように拡大していくのか

豊富な国際イベントで培ってきた展示演出やコミュニケーションの技術と安心・安全で快適なおもてなし

技能五輪全国大会の連続開催との連携による継続的、持続的な取組の可能性

■2023年技能五輪国際大会の方向性

技能の価値に対する理解と共感を獲得する、国際的な対話と交流の場

産業都市・職業訓練先進地としての特色と、国際イベントの開催実績を生かし、技能競技大会の「参加体験価値」と「社会的価値」の拡大に挑戦する。

■対話と交流のテーマ

創造性

愛知がものづくりの歴史の中で育ててきた果てしない創造の取組に着目しながら、創造の基盤となる「技能」の重要性を再認識するとともに、新たな時代の「ものづくり」と「技能」の関係性を探求する。

多様性

国籍、年齢、性別、障害の有無などを超え、多様な人々が「技能」を共通言語として協力し合うことの価値を共有するとともに、そこから生まれる新たなイノベーションの可能性を追求する。

持続可能性

地球温暖化、経済格差の拡大など、現代社会の持続可能性を脅かしている様々な課題に対し、「技能」は何をなし得るのか考察し、発信するとともに、技能競技大会の持続的な発展に貢献する。

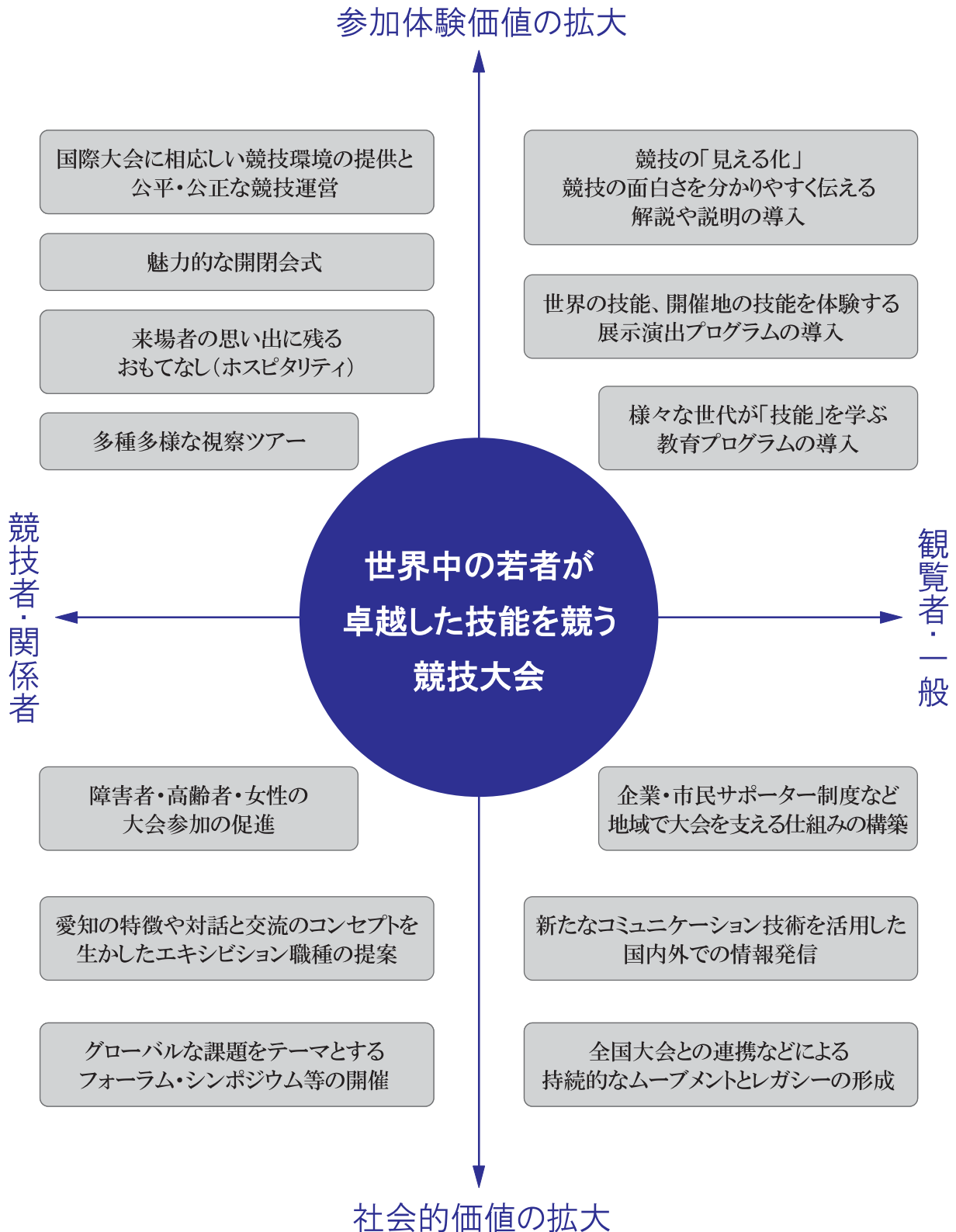
(2)大会基本コンセプト

「技能をめぐる対話 Dialogue over Skills」

創造性あふれる技能と多様な人々が協力し合うことによる、世界の持続的発展

- WSIの「技能の力で私たちの世界を発展させる」というビジョンのもと、技能五輪国際大会は若手技能者がその卓越した技能を披露する場として、大きな成果を上げてきました。職業訓練の重要性、技能者のキャリア形成、国際的な協調と開発などを推進するWSIの取組は、グローバリズムが進展し、地域間の経済格差、若年層の就業機会の確保等が大きな社会課題となるなか、さらに重要性を増すものと予想されます。
- 日本は、高度な技能に裏付けられた付加価値の高いものづくりにより、高度成長を実現してきました。そして、愛知県は、日本・アジアを代表する産業都市であると同時に、職業訓練の先進地であると言っても過言ではありません。日本の高度な技術力を支えてきた企業内訓練システムが国内外で大きな成果を上げているほか、新しいタイプの工業高等学校である愛知県立愛知総合工科高等学校を開設するなど、公的職業教育の充実にも取り組んでおり、WSIが提唱する職業教育訓練制度と国際的協調の先駆的モデルを形成してきました。さらに愛知県は、国際イベントの開催にも豊富な経験を有しています。日本政府と協力しながらMICEへの対応力強化に取り組んでおり、「多様性の保全」や「持続可能な社会の発展」など、技能とも関わりの深い今日的かつグローバルなテーマを世界に発信し続けてきました。
- 愛知県は、こうした産業都市・職業訓練先進地としての特色と国際イベントの開催実績、全国大会の連続開催への取組を生かし、2023年の技能五輪国際大会開催地に立候補いたします。特に、「単なる競技大会ではなく、一つのムーブメントである」ことを志向するWSIのビジョンと呼応しながら、技能五輪国際大会を、「技能の価値に対する理解と共感を獲得する、国際的な対話と交流の場」へと進化させることを目指します。
- 愛知県は、ものづくりの歴史の中で受け継がれてきた「技能」を大切にすることで、時代を牽引する創造的な産業や技術を生み出してきました。「技能」はこれまでも、そしてこれからも、多様化する国際社会において共通言語であり続けます。創造性あふれる技能と、技能を媒介として多様な人々が協力し合うことにより、私たちの世界の持続的な発展を目指します。
- 日本及び愛知県は、世界中の若者達が卓越した技能を競い合う競技大会という技能五輪国際大会の中心的価値を尊重するとともに、その価値を、競技者・関係者はもちろん、観覧者や一般社会にも積極的に開いていくことで、技能競技の「参加体験価値」と「社会的価値」を拡大することに挑戦します。「技能をめぐる対話」というコンセプトのもと、新たな技能競技大会のモデルを提示し、WSIのビジョンの実現に貢献するとともに、その成果を広く国際社会と共有していきます。

(3)新たな技能競技大会モデルのイメージ



(4)大会基本方針

- ① 国際大会にふさわしい競技環境と公平・公正な競技運営を実現するとともに、産・学・行政・市民の連携により、競技者・関係者の思い出に残るおもてなしを提供します。
- ② 競技の見どころを分かりやすく伝える解説プログラム、世界の技能、日本・愛知の技能を体験する展示プログラム、誰もが楽しくものづくりに参加体験できる教育プログラムの導入により、観覧者の技能競技大会への参加体験価値を拡大します。
- ③ 「創造性」、「多様性」、「持続可能性」など、今日のかつグローバルな課題をテーマとする国際会議やエキシビション職種を実施することで、技能競技大会の社会的価値を拡大します。
- ④ 技能の価値を広く社会と共有するために、多様な主体による大会への参加機会を設けるとともに、放送と通信を融合する新たなコミュニケーション技術等を活用し、国内外に向けて大会の情報発信に取り組みます。
- ⑤ 愛知県が連続して開催する技能五輪全国大会とも連携しつつ、技能尊重機運の醸成に持続的・継続的に取り組むとともに、国内外に継承されるレガシーを追求します。

3 開催時期

2023年10月から11月の10数日間



<設定における留意点>

1 気候が競技環境に最適な時期

温度、湿度ともに快適で、天候も比較的安定している4月～5月、10月～11月が望ましい。

2 技能検定及び技能五輪全国大会と重ならない時期

技能検定(例年6月～8月(前期)、11月下旬～2月(後期))や技能五輪全国大会(恒例的に11月後半)に重ならない時期が望ましい。

3 旅客系(ホテル、エアライン)稼働率の高くない時期

7月～8月など、旅客系の稼働率が高い時期は避けることが望ましい。

4 学生・生徒の参加可能な時期

課外授業の一環として、見学・参加が可能な時期が望ましい。(試験などの考査時期を除く。)

5 利用会場の活用可能な時期

大会会場候補の空港島の愛知県国際展示場は予定が決まっていないが、開閉会式会場の候補となる「ナゴヤドーム」及び「ポートメッセなごや」については、恒例行事(プロ野球など)と重ならない時期が望ましい。

4 開催場所

競技会場:「愛知県国際展示場」

開閉会式・パーティー会場:「ナゴヤドーム」又は「ポートメッセなごや」

< 競技会場 >

愛知県国際展示場(空港島)

開業予定: 2019年秋

敷地面積: 28.7ha

施設面積: 建築面積8.6万㎡(内展示面積6万㎡)

屋外駐車場8.7万㎡ 約3,400台

多目的利用地4.4万㎡

アクセス: [鉄道]名古屋駅から乗換え無し28分

中部国際空港駅から連絡通路で直結

[車] 中部国際空港連絡道路・セントレア東ICから約1分



※イメージ図は、株式会社竹中工務店名古屋支店からの提案に基づく現時点でのイメージであり、今後、設計により変更される場合があります

- 競技会場: 常設展示ホール60,000㎡+屋外仮設建築物約40,000㎡
 - 会議場・併催イベント・レストラン他: 常設会議室、エントランスホール+屋外仮設建築物
- ※ 常設展示場だけでは大会会場として面積が不足するため、屋外敷地に仮設建築物を設置

< 開閉会式・パーティー会場 >

ナゴヤドーム

施設面積: 48,169㎡(内グランド面積13,400㎡)

収容人数: 40,500人(スタンド)

アクセス: [鉄道]名古屋駅からナゴヤドーム前矢田駅(約20分)

[車] 東名高速・名古屋ICより約20分



(写真出典)「ナゴヤドーム」ウェブサイト(<http://www.nagoya-dome.co.jp>)より

ポートメッセなごや

施設面積: 36,282㎡(内展示面積33,946㎡)

収容人数: 第3展示館・式典 約8,000人可能(着席)

第2展示館・パーティー 約3,600人可能(立食)

アクセス: [鉄道]名古屋駅から金城ふ頭駅(24分)

[車] 伊勢湾岸自動車道・名港中央ICより約5分

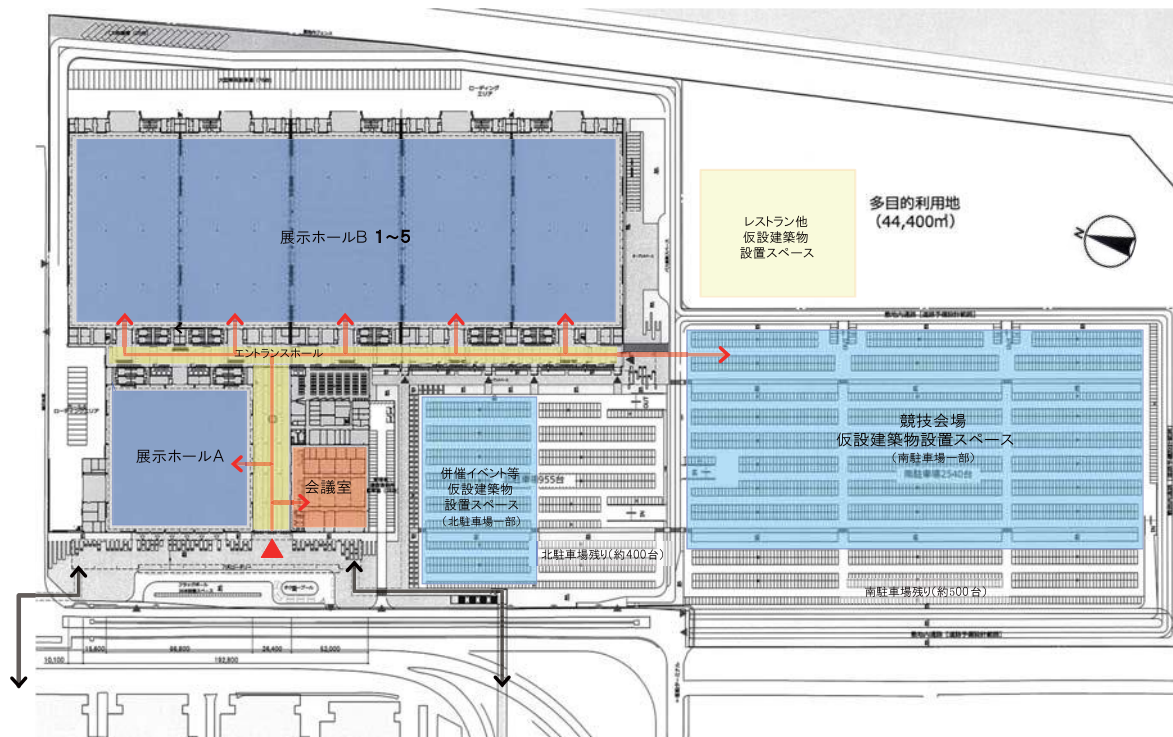


(写真出典)「ポートメッセなごや」ウェブサイト(<http://portmesse.com>)より

<会場利用イメージ>



(C) 2017 Google



(出典) 愛知県振興部地域政策課大規模展示場準備室資料から作成

- 競技会場 ①: 展示ホールA(10,000㎡)
- 競技会場 ②: 展示ホールB1~5(計50,000㎡)
- 競技会場 ③: 仮設建築物(南駐車場:約40,000㎡)
- 国際会議等 : 会議室(大中小18室)
- 併催イベント等: 仮設建築物、エントランスホール他
- レストラン他 : 多目的利用地
- 駐車場 : 北駐車場残り(約400台分/約13,000㎡)
南駐車場残り(約500台分/約10,000㎡)

5 事業構成

2023年技能五輪国際大会(以下、本構想では「愛知大会」という。)は、以下の事業で構成するものとします。

1) 技能競技 Skills Competition

- WSIの「大会組織に関する規定」に則り、愛知大会で実施する公式職種、デモンストレーション職種等を選定
- 愛知大会の対話と交流のテーマ(創造性・多様性・持続可能性)に基づくユニークなエキシビション職種の提案

公式職種・デモンストレーション職種

エキシビション職種

(競技会場イメージ)



2) 公式行事 Official Event

- 大会のテーマや地域の魅力を発信する開閉会式
- WSIの総会、理事会などに加え、創造性・多様性・持続可能性の観点から技能の未来を展望する国際会議を開催
- 世界中の競技者、関係者に、「あいちの産業観光」を満喫してもらい視察ツアーを提供

開閉会式(Opening and Closing Ceremony)

国際会議(Conference)

視察ツアー(Skills Tour)

(開会式イメージ)



3) 併催イベント Special Event

- 技能競技の面白さを伝えるとともに、様々な来場者が技能の魅力に参加体験できる対話形式のプログラムを展開
- 競技内容の面白さを伝える解説プログラム、世界、日本及び愛知の技能を体験する展示プログラム、様々な人が技能の価値を学ぶ教育プログラムを実施

解説プログラム(Skills Guide)

展示プログラム(Global Skills Village, Aichi&Japan Skills Showcase)

教育プログラム(Skills Labo, Junior Skills, Careers Advice, Open Skills)

(展示プログラム会場イメージ)



6 技能競技(Skills Competition)

(1) 基本的な考え方

国際大会にふさわしい公平・公正な競技運営を実現するとともに、創造性・多様性・持続可能性をテーマとするユニークな職種を愛知から提案します。

- 国際大会に相応しい競技環境の提供と、公平・公正な競技運営に努めます。
- WSIでは、「大会組織に関する規定」を定めており、愛知大会においても、同規定を踏まえた公式職種、デモンストレーション職種等の選定を行うとともに、「創造性」、「多様性」、「持続可能性」という3つのテーマを踏まえたエキシビション職種等を愛知から提案していきます。

(2) 公式職種・デモンストレーション職種

公式職種、デモンストレーション職種については、過去の技能五輪国際大会における公式職種を踏まえつつ、WSIとの連携のもとに選定します。

新たな時代を捉えた新規職種の導入についても前向きに検討します。

(3) エキシビション職種

技能五輪国際大会では、公式職種に加え、公式評価対象外となるプレゼンテーション職種、エキシビション職種などが実施されています。

愛知大会では、「創造性」、「多様性」、「持続可能性」という3つのテーマを踏まえ、愛知の特徴を生かしたユニークなエキシビション職種の検討・提案を行います。

創造性

- AI(人工知能)や3Dプリンターなど、次世代のものづくりにイノベーションを起こすことが期待されている技術分野に関する職種
- ロボット、航空宇宙など、愛知の特徴である先端技術に関する職種

多様性

- 障害者と健常者が協働して取り組む職種
- 国際アビリンピックを併催する場合には、国際アビリンピックとの連携による相乗効果にも配慮

持続可能性

- ソーラー発電、蓄電技術、水素燃料、炭素繊維、壁面緑化、水耕栽培など、地球環境の持続可能性に関連する職種
- 陶芸、絞り、盆栽など、愛知及び日本の伝統的ものづくり等に関する職種

7 公式行事(Official Event)

(1) 基本的な考え方

大会テーマや地域の魅力を発信する開閉会式に加え、技能の普遍的価値と未来像を展望する国際会議、あいちの産業観光を体験する視察ツアーを開催します。

- 開閉会式は、大会のテーマ、メッセージを発信する重要な機会となります。愛知大会では、開閉会式において、それぞれにテーマを設定し、「技能をめぐる対話」という大会コンセプトとともに地域の魅力を積極的に発信します。
- 併せて、「技能をめぐる対話」を体現する公式行事として、WSIの総会、理事会を始め、技能の未来を展望する多彩な国際会議を開催するほか、世界中から集まる競技者、関係者にあいちの産業観光を体験していただく多彩な視察ツアーを提供します。

(2) 開会式(Opening Ceremony)

ユネスコ無形文化遺産に登録された「山・鉾・屋台行事」で使われる「山車」を起点に、愛知(日本)に受け継がれてきた技能の粋を表現

- 開会式については、「愛知に受け継がれてきたものづくりの伝統」を、ユネスコ無形文化遺産に登録された「山車」を起点に演出することを想定します。
- からくり、自動織機、自動車、ロボットなど、時代とともに進化してきた「愛知のものづくり」を発信するとともに、その背景にある「技能」をアピールします。

(3) 閉会式(Closing Ceremony)

世界中の参加者が互いの健闘を讃えあい、友好を深める機会とするとともに、ダイバーシティ・コンセプトを表現するアトラクションを展開

- 閉会式については、世界中から集まった競技者や関係者が、互いの健闘を讃え、技能を認め合う、明るく友好的な、参加型のセレモニーとして開催します。
- 世界の技能の多様性を賞賛するとともに、全ての人々が就業機会を得て、生き生きと活躍できるダイバーシティ社会の実現をテーマとしたアトラクションを実施することで、次回の技能五輪国際大会へバトンを渡していくことを想定します。

(4)国際会議(Conference)

WSIの総会、理事会等に加え、 技能のこれまでとこれからを展望する多彩な国際会議を開催

- WSIの総会、理事会のほか、技能のこれまでとこれからを展望するディスカッションなど、多彩な国際会議を開催します。
- 特に、世界の技能者が自らの経験などを語るショートプレゼンテーション(Skills Talk)などを実施することで、「技能をめぐる対話」という大会コンセプトを積極的に追求します。

創造性

- ものづくりに関連する革新的な技術の登場と、それによる技能の今後の動向
- 技能者の創造性を生かす社会とは など

多様性

- 世界の技能の多様性とその価値の発見(世界中の技能者によるショートプレゼンテーション)
- 多様な個性のコラボレーションによるイノベーション実践例 など

持続可能性

- 新しい時代の環境技術と技能競技(新規職種の提案に向けて)
- 技能競技大会の持続可能な発展に向けた国際協調 など

(5)視察ツアー(Skills Tour)

愛知の先端的な産業や職業訓練、 日本のものづくりの奥行きを体感する多彩な視察ツアーを提供

- 世界中から集まる競技者、関係者などに、あいちの産業観光を体験していただく視察ツアーを提供します。
- 愛知のものづくりの現場を見学できる工場見学のほか、日本建築の粋を集めた名古屋城本丸御殿や、トヨタ産業技術記念館、ノリタケの森、リニア・鉄道館など、愛知県内の各種ミュージアムを巡るツアーを造成します。
- 併せて、隣接する岐阜県と三重県、日本の古都・京都を訪ねるツアー、昇龍道プロジェクトとの連携等による中部北陸地域に広がるツアーなど、日本のものづくりの奥行きを感じられるツアーを計画します。

8 併催イベント(Special Event)

(1) 基本的な考え方

愛知大会の特色として「競技の見える化」に取り組むとともに、技能の価値と未来に感動的に出会う多彩な対話形式のプログラムを展開します。

- 「技能をめぐる対話」というコンセプトを踏まえ、技能競技の面白さ、技能の持つ価値、技能の未来を幅広い人々と共有する対話形式のプログラムを積極的に展開します。
- 併催イベントは、一般の人には伝わりにくい技能競技のポイントや見所を分かりやすく伝える「解説プログラム」、世界の多様な技能と愛知が受け継いできた技能を体験する「展示プログラム」、そして、ものづくりの面白さを多くの人々、特に次代を担う子どもたちに伝える「教育プログラム」により構成します。

(2) 解説プログラム

競技解説 (Skills Guide)

- 技能競技の解説を行うガイド・プログラムを開発します。
- ガイド・プログラムでは、技能者による対面式の解説を重視すると同時に、スマートフォンやタブレットで利用できるセルフガイドも準備します。
- セルフガイドの開発にあたっては、情報関連企業等の協力を得ることも想定します。

(3) 展示プログラム

世界の技能 (Global Skills Village)

- これまでの技能五輪国際大会においても継続して実施されてきている「グローバル・スキルズ・ヴィレッジ」を愛知大会でも実施します。
- 「創造性」、「多様性」、「持続可能性」という3つのテーマに即し、世界の参加国・地域が自国の技能を紹介するプレゼンテーション・ブースや、グローバルパートナー・ブースなどの設置も検討します。

日本・愛知の技能 (Aichi&Japan Skills Showcase)

- 日本及び愛知に受け継がれてきた技能を展示紹介します。
- 特に、愛知を中心とした中部地域の伝統工芸分野に着目し、熟練技能者による実演などを行うほか、日本及び愛知を代表する企業によるブース出展なども検討します。

(4)教育プログラム

技能入門プログラム (Skills Labo)

- 幅広い人々、特に次代を担う子どもたちに、体験を通じてものづくりの面白さを伝え、ものづくりへの憧れを醸成する技能入門プログラム(スキルズ・ラボ)を開発します。
- 技能者など、技能競技で取り入れられている職種の専門家と、アーティストやファシリテーターなどの協働により、これまでにない体験プログラムの開発を目指すとともに、プログラム開発を支援する企業スポンサー制度を取り入れるなど、新たな企業参加システムとすることも検討します。

ジュニア・スキルズ (Junior Skills)

- 次代を担う子どもたちに、人と競い合うことを通じ、ものづくりの楽しさや難しさを体験してもらう技能競技大会(ジュニア・スキルズ)の開催を検討します。

キャリア相談 (Careers Advice)

- 技能競技を通して様々な職種に興味を抱いた青少年層を主な対象として、その職種の仕事に就くためには何をなすべきか、アドバイスを行います。
- 実施にあたっては、公的機関や各職種団体等の協力を得ることを想定します。

職業訓練施設の公開、企業見学等 (Open Skills)

- 愛知県内の企業内職業訓練施設、公共職業訓練施設に協力を呼びかけ、職業訓練の現場を見学できるオープン・キャンパスを実施します。競技大会に合わせ、職業訓練の現場を見学、体験できる機会を設けることで、技能及び技能者への関心を高めるとともに、職業訓練の重要性を広く発信していきます。
- 併せて、愛知県内で工場見学などを実施している企業などに、愛知大会開催期間中の特別プログラムの提供を呼びかけ、一体的な広報を行います。
- 競技会場に隣接する中部国際空港でのボーイング787の展示施設や、県営名古屋空港に隣接の日本初の国産ジェット旅客機(MRJ)の製造工場、あいち航空ミュージアムの見学ツアーなどを検討します。
- 自動走行や燃料電池自動車(FCV)、ロボットなどの最先端技術を体感できるプログラムを検討します。

9 大会運営

(1) 基本的な考え方

ISO20121(持続可能なイベント運営のためのマネジメントシステム)を取得し、安全・安心・快適な競技環境を提供するとともに、地域総参加で競技者・関係者の思い出に残る「おもてなし」を提供します。

(2) 宿泊施設

公式参加者には、主に名古屋市中心部のホテルを活用

公式参加者の宿泊は、食事及び公式行事への参加、交通を含めたパッケージプランとして提供するように大会規定で示されており、サンパウロ大会の実績から約3,600室が必要になります。また、部屋のランクも対象者に応じて概ねの目安があり、これらの条件に適した部屋数・ランクのホテルが多くある名古屋市中心部を主に活用します。

一般来場者(観覧者)数は、サンパウロ大会の実績から1日当たり65,000人程度と想定され、そのうちの1割が宿泊を伴う来場とした場合、約6,500室が必要になりますが、名古屋市も含めたホテル群で対応可能です。

(3) 交通輸送

公式参加者には、シャトルバスを活用

一般来場者には、公共交通機関での来場を推奨

学生来場者には、団体用バスの受入れ環境を整備

公式参加者の交通手段は、期間中利用可能な特別バスによる公共交通機関の利用が望ましいが、宿泊場所によっては、乗り換えを要するため、確実な移動の観点からシャトルバスを活用します。

なお、サンパウロ大会の実績から、シャトルバスを活用する招待者を含む公式参加者は約8,000人程度と想定され、バスは最大、1日およそ160台必要となることが予想されます。

一般来場者(サンパウロ大会の実績から約26万人)の交通手段は、愛知県国際展示場の駐車場の不足が予想されるため、鉄道(中部国際空港駅)利用を推奨しつつ、別途、臨時駐車場(会場とシャトルバスで結ぶ。)の確保を検討します。

小中高校生及び特別支援学校等の学生来場(サンパウロ大会の推定から約5万人)は、各学校と会場を結ぶ団体用バスでの来場が想定され、250台必要となることが予想されるバスの乗降、待機場などの環境を整備します。

(4)安全対策

安全衛生、救急・救護、災害、犯罪への万全な対策を実施

競技会場には、中央労働災害防止協会（JISHA）の安全衛生診断を受けて、万全な安全対策を行います。

大会参加者等の怪我や疾病に備えて、会場への救護所の設置や、緊急搬送先協力病院との連携、消防の全面的な協力の下、競技期間中においては救急車の配置を検討します。

火災や災害の緊急時に備え、自衛消防隊を組織するとともに、地元消防署職員の常駐巡回と緊急車両の出動態勢を整え、さらに保安・立入制限の管理のため、会場の主要箇所に警備員を24時間体制で配置し、手荷物検査・金属探知機等の導入を検討します。

(5)おもてなしプログラム

競技者等休憩・交流スペース

- 競技者、関係者のための休憩・交流スペースを設けます。
- 特に、ケータリング・サービスの充実を目指します。ハラルフードなど、多様な文化に対応するほか、愛知の魅力発信の一環として「なごやめし」の提供を検討します。

一校一国運動

- 愛・地球博でも実践され、過去の技能五輪国際大会でも実施されている一校一国運動を導入します。
- 大会の開催を契機として、愛知県の若者が世界の多様な文化に触れる機会を創出するとともに、大会後にも継承される国際交流事業とすることを目指します。

サポーター

- 大会運営をサポートするボランティア制度を構築します。
- これまでの各種国際イベントの開催経験を踏まえ、参加者の主体性を生かしたサポート事業を考案していきます。
- 地元の大学生を活用した通訳ボランティアの養成を検討します。

多言語対応観光システム

- 大会開催に合わせ、愛知県の国際観光対応力を強化することを目指し、多言語観光システムの構築に取り組むことを検討します。
- ホテル、飲食店などでも利用できるよう、スマートフォンなどの普及端末を利用したシステムとすることを想定し、AI(人工知能)翻訳の実践の場とすることで、民間事業者の協力を得ることも検討します。

10 広報コミュニケーション

(1) 基本的な考え方

招致活動期間、開催準備期間を通し、技能五輪国際大会の知名度向上と社会的価値の発信に努めるとともに、放送と通信を融合する新たなコミュニケーション技術などを活用し、国内外への情報発信に努めます。

(2) 広報戦略の推進ステップと活動内容

招致活動期 [2017年～2019年]

技能五輪国際大会の知名度向上を図るとともに、招致活動に対する産・学・行政・市民の参加を促進します。

広報戦略の専門家等が参加する広報コミッティによる広報戦略の策定、招致活動への連帯を象徴する招致シンボルマーク、マスコットキャラクター等を策定するほか、県民向けシンポジウム、招致期間中の技能五輪全国大会・全国アビリンピックなどの機会を捉え、県民及び関係者に国際大会招致に取り組むことを周知します。

併せて、2018年のディスティネーション・キャンペーン、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、同年愛知県で開催するワールドロボットサミット、2025年の大阪万博の招致など、日本全体のMICE招致戦略とも連携しながら、経済団体、企業等による招致活動への参加と協力を要請していきます。

海外に対しては、2017年のアブダビ大会等において、主にWSI関係者に対し、愛知大会のコンセプト、愛知の魅力をPRするなどの招致活動を展開していきます。

国内広報

- 広報コミッティの設置(有識者等による広報戦略策定)
- 招致シンボルマーク、マスコットキャラクター等の策定
- 県民向けシンポジウム等の開催
- 技能五輪全国大会・全国アビリンピック等でのPR
- 日本全体のグローバルMICE戦略と連携したPR(2018年ディスティネーション・キャンペーンなど)
- 経済団体、企業等へのPR
- 各種広報ツールの制作
- 招致ホームページ・SNS等の開設と運用 など

国際広報

- WSI関係者に対する愛知大会のコンセプト、愛知の魅力のPR
- 国、民間などとの協力による招致活動の展開 など

開催準備期 [2019年～2023年]

愛知大会の開催決定後は、大会の開催に向けた準備活動を支援する広報コミュニケーションを展開します。特に、技能競技の社会的価値の発信に取り組むことで、技能の力で世界を発展させるムーブメントに参加する企業、団体、学校、市民等を拡大していくことを目指します。

国内においては、競技紹介映像の制作などにより、技能競技の魅力発信に努めるほか、2019年度の技能五輪全国大会と2020年度の技能五輪全国大会・全国アビリンピックの愛知開催のタイミングを生かした広報活動を推進します。協賛スポンサー、市民ボランティアの募集などはもちろん、併催イベントとして計画している解説プログラムや教育プログラムの先行開発と全国大会での試行など、新たな参加の仕組みを提案し、多彩な関係者の大会参加を目指します。

国際社会においては、「技能をめぐる対話」というコンセプトを実践するために、国際シンポジウムなどの先行開催に取り組めます。

併せて、2019年度・2020年度に愛知県で開催する技能五輪全国大会にWSI関係者やアジア諸国の技能競技関係者を招待することを検討します。技能五輪全国大会を技能に関する国際的な対話と交流の場として積極的に活用し、技能振興における日本の国際貢献を明確にすることを目指します。

国内広報

- 技能競技紹介映像等の制作
- 2019年度技能五輪全国大会と2020年度技能五輪全国大会・全国アビリンピック(愛知開催)でのPR
- 2019年度技能五輪全国大会と2020年度技能五輪全国大会・全国アビリンピック(愛知開催)への企業等参加促進 [解説プログラム・教育プログラム等の先行開発と試行]
- 2019年ラグビーワールドカップとの連携
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックとの連携
- 2020年ワールドロボットサミットとの連携
- 各種広報・告知ツールの制作
- 大会ホームページ・SNS等の開設と運用 など

国際広報

- 国際シンポジウムの先行開催
- 技能五輪全国大会へのWSI関係者やアジア諸国の技能関係者等の招待 など

開催期間 [2023年]

開催年となる2023年からは、愛知大会への集客促進を目的とした広報コミュニケーションを展開します。国内においては、日帰り旅行圏、宿泊旅行圏などを設定し、それぞれのエリアにおいて効果的、効率的な広報、広告宣伝を実施するほか、旅行代理店などによるツアー販売なども展開します。併せて、愛知県を訪れる世界のゲストに歓迎を伝えるウェルカムバナーの設置なども検討します。

開催期間中には、マスコミの取材拠点となるメディアセンターを会場に設置することを検討するほか、海外メディアに対する情報配信サービスとして、ミラノ万博でも実施された動画等のクラウド配信サービスを実施することも検討します。日本での現地取材が困難な参加国に対する大会情報の新たな配信手法として有効に機能させ、国内外における大会の情報発信を活性化させるとともに、放送と通信を融合する新たな取組とすることで、通信関連、情報関連企業の大会サポートを実現していくことを目指します。

国内広報

- 集客圏に応じた広報、広告宣伝活動
- 旅行代理店等を通じたツアー商品販売
- 来場者用プログラム等の作成
- ウェルカムバナーの設置
- メディアセンターの設置 など

国際広報

- 動画クラウド配信サービス(Skills Cloud)の提供
- 国際シンポジウムの開催 など

成果伝達期 [2023年～]

大会開催後は、大会の成果を関係者、一般社会、国際社会と広く共有するための広報コミュニケーションを展開します。

大会の成果をまとめた記録集などを作成することはもちろん、大会後に継承されるレガシーの一つとして、解説・教育プログラムなどの継承と普及、国際シンポジウムの継続開催、技能振興に貢献した個人・団体等を表彰する顕彰制度の創設などを検討します。

国内広報

- 公式記録集、公式記録映像などの作成
- 大会ホームページを活用した、インターネット上における記録保存
- 解説プログラム・教育プログラムなどの継承と普及 など

国際広報

- 国際シンポジウムの継続開催
- 顕彰制度の創設 など

11 ムーブメントとレガシー

(1)ムーブメントの形成

技能五輪全国大会との連携を生かし、多彩な関係者に対し、技能の力で社会を発展させるムーブメントへの参加を促進します。

- 国際大会に先立ち、全国大会を連続開催することのメリットを最大限に生かし、WSIが目指す技能の力で世界を発展させるムーブメントの形成に努めていきます。
- 特に、技能競技大会を、技能をめぐる豊かな対話と交流の場へ成長させようとする愛知大会のコンセプトを踏まえ、併催イベントとして計画している解説プログラム・教育プログラムの先行開発と全国大会での試行、技能のこれまでとこれからを展望する国際シンポジウムの開催などに積極的に取り組みます。
- また、これらの具体的な行動を通して、行政、経済団体、企業、教育機関、NPO/NGO、市民など多彩な関係者に対し、技能の力で世界を発展させるムーブメントへの主体的な参加を呼びかけていきます。

(2)レガシーの形成

技能競技の中心地としてのステータスを獲得するとともに、国内及びアジアを始めとした国際社会におけるムーブメントの拡大に貢献します。

- 愛知県は、上記の取組を通して、ものづくり王国・愛知、職業訓練先進地・愛知、産業観光都市・愛知としての地位をこれまで以上に確かなものにすると同時に、技能競技及び技能教育の中心地となることを目指します。
- 国内においては、全国大会の定期開催、愛知大会で開発する解説プログラム、教育プログラムの継承と普及などにより、技能競技の持続的な発展に貢献することを目指します。
- 併せて、技能を通じた国際協力に貢献することを目指し、技能に関する国際会議の継続的な開催、技能振興に係る人材育成セミナーの開催や研修生の受け入れ、国際的な技能振興に貢献した個人・企業等を顕賞する制度の創設などを検討します。
- 日本のものづくりの中心地である愛知県が、技能競技においても中心地となることで、日本のものづくりと技能を改めて世界に発信するとともに、技能の力により私たちの世界を発展させるムーブメントを国内外で拡大していくことを目指します。

<愛知の視点から>

ものづくりの発展

職業訓練の発展

産業観光の発展

<国内の視点から>

全国大会の定期開催

解説プログラムの継承・普及

教育プログラムの継承・普及

<国際貢献の視点から>

国際会議等の継続開催

人材育成セミナー等の開催

顕賞制度の創設

12 推進組織

(1) 基本的な考え方

招致期間、開催準備・実施期間に、それぞれ活動の中心となる推進組織を設置します。

技能五輪国際大会の招致においては、国が主体となることが求められています。愛知県としては、本構想をもとに国に開催提案を行うとともに、国として招致に取り組むことが決定した場合には、国とともに、大会の招致、開催準備、運営に取り組むことを想定します。

(2) 推進組織と活動内容

2023年技能五輪国際大会招致委員会(仮称)

- 国による愛知大会招致決定を受け、招致活動の主体となる招致委員会を設置
- 国、愛知県と関係自治体、関係機関、経済団体等により構成
- プロポーザルシートの作成及び招致活動 など

2023年技能五輪国際大会組織委員会(仮称)

- WSI総会における日本開催決定を受け、招致委員会を改組し、大会の実施主体となる組織委員会を設置
- 国、愛知県と関係自治体、関係機関、経済団体等により構成
- 大会の実施準備、大会運営、成果継承 など

13 今後のスケジュール

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
国際大会		(2021年開催国決定) アブダビ		(2023年開催国決定) カザン		(2025年開催国決定) 未定		愛知 (目標)	
全国大会	山形	栃木	沖縄	愛知	愛知	未定	未定	未定	
招致活動		2023年技能五輪国際大会 招致委員会(仮称)			2023年技能五輪国際大会 組織委員会(仮称)				
	招致調査	基本構想(県)	国による検討・招致決定	基本構想(国)	プロポーザルシート作成・提出	開催決定	基本計画	実施計画	実施準備
		解説・教育プログラムの先行開発		解説・教育プログラムの先行開発	全国大会における解説・教育プログラムの試行		解説・教育プログラムの拡充		
			招致支援広報		開催準備広報		集客広報		

< 參考資料 >

1 技能五輪国際大会

(1) 技能五輪国際大会とは

「技能五輪国際大会」は、国際的に技能を競うことにより、参加国の職業訓練の振興及び技能水準の向上を図るとともに、青年技能労働者(満22歳以下)の国際交流と親善を目的に、2年ごとに開催されています。約60カ国・地域から約1,200名の選手が参加し、50職種程度の競技で技能を競う大会です。

(2) WSI(ワールドスキルズインターナショナル)とは

技能五輪国際大会の運営組織で、76カ国・地域の団体(2016年10月現在)が加盟しています。日本は、中央職業能力開発協会(JAVADA)がメンバーとなっています。

(3) 選手の参加資格

- 出場する競技大会の開催年に満22歳以下である者(一部競技職種を除く)
- 各国・地域1職種につき1名または1組
- 国際大会の日本代表選手の選考は、国際大会が開催される前の年に開催する技能五輪全国大会において行われ、参加資格を満たす優勝者(成績優秀者)が日本代表として選出され、技能五輪全国大会で実施されない一部の職種については、各業界団体等が選考会や推薦等により選出

(4) 技能五輪国際大会で実施する競技職種 [アブダビ大会]

ポリメカニクス	情報ネットワーク施工	製造チームチャレンジ	メカトロニクス
機械CAD	CNC旋盤	CNCフライス盤	石工
ビジネス業務用 ITソフトウェア・ソリューションズ	溶接	印刷	タイル張り
自動車板金	航空機整備	配管	電子機器組立て
ウェブデザイン	電工	工場電気設備	れんが積み
左官	広告美術	移動式ロボット	家具
建具	建築大工	貴金属装身具	フラワー装飾
美容/理容	ビューティーセラピー	洋裁	洋菓子製造
自動車工	西洋料理	レストランサービス	車体塗装
造園	冷凍空調技術	ITネットワークシステム管理	グラフィックデザイン
看護	構造物鉄工	プラスチック金型	ビジュアル販売促進
試作モデル製作	建設コンクリート施工	パン製造	産業機械組立て
重機メンテナンス	3Dデジタルゲームアート※	貨物輸送※	

WorldSkills Abu Dhabi 2017 公式HPより引用 ※ アブダビ大会からの新規職種

(5) 開催実績

回	開催年	開催国	開催都市	参加 国数	参加 選手	日本 選手	日本メダル獲得数			愛知県 選手	愛知県メダル獲得数			金メダル獲得上位3カ国	備 考	
							金	銀	銅		金	銀	銅			
1	1950	スペイン	マドリッド												初開催	
2	1952	スペイン	マドリッド												2年連続2回目	
3	1953	スペイン	マドリッド												3年連続3回目	
4	1954	スペイン	マドリッド												4年連続4回目	
5	1956	スペイン	マドリッド												5年連続5回目	
6	1957	スペイン	マドリッド												6年連続6回目	
7	1958	ベルギー	ブルッセル												初開催	
8	1959	イタリア	モデナ												初開催	
9	1960	スペイン	ヒホン												3年振り7回目	
10	1961	ドイツ	デュースブルグ												初開催	
11	1962	スペイン	ヒホン	10	199	8	5	1		1	1			①スペイン②日本	2年振り8回目	
12	1963	アイルランド	ダブリン	12	227	14	10		2					①日本②アイルランド③西ドイツ	初開催	
13	1964	ポルトガル	リスボン	12	199	17	12	4		1	1			①日本②イギリス③ポルトガル、スペイン	初開催	
14	1965	イギリス	グラスゴー	11	200	19	6	5	2	2		1		①イギリス②日本③スペイン	初開催	
15	1966	オランダ	ユトレヒト	11	212	20	9	3	2	2	2			①日本②オランダ③イギリス、イタリア	初開催	
16	1967	スペイン	マドリッド	11	218	20	5	7	2	2	1	1		①スペイン②日本③西ドイツ	5年振り9回目	
17	1968	スイス	ベルン	14	249	20	6	2	5					①スイス②日本③韓国	初開催	
18	1969	ベルギー	ブルッセル	15	260	23	9	2	4					①日本②スイス③西ドイツ	11年振り2回目	
19	1970	日本	東京	15	274	30	17	4	3	2	2			①日本②西ドイツ、韓国、スイス	初開催	
20	1971	スペイン	ヒホン	15	273	26	10	3	5	3	1	1		①日本②スペイン、スイス	4年振り10回目	
21	1973	ドイツ	ミュンヘン	15	281	27	5	5	8	3	1			①西ドイツ②韓国③日本、スイス	12年振り2回目	
22	1975	スペイン	マドリッド	17	291	26	4	7	5	3		2	1	①スイス②韓国③スペイン④日本	4年振り11回目	
23	1977	オランダ	ユトレヒト	16	267	26	7	4	3	3	1			①韓国②西ドイツ③日本	11年振り2回目	
24	1978	韓国	釜山	14	239	27	1	5	6	5		2	2	①韓国②スイス③オーストラリア他3カ国⑦日本	初開催	
25	1979	アイルランド	コーク	14	276	28	7	8	1	2	1			①韓国②日本③スイス	16年振り2回目	
26	1981	アメリカ	アトランタ	14	266	28	5	8	4	4	2	1		①韓国②日本③スイス、西ドイツ	初開催	
27	1983	オーストリア	リンツ	18	309	28	4	5	4	8	1	3	1	①韓国②台湾③オーストリア④日本	初開催	
28	1985	日本	大阪	18	307	34	11	8	4	8	5	2		①韓国②日本③台湾、スイス	15年振り2回目	
29	1988	オーストラリア	シドニー	19	354	30	6		3	9	4		3	①韓国②日本③台湾他2カ国	初開催	
30	1989	イギリス	バーミンガム	21	382	27	3	6	1	8	2	1	1	①韓国②台湾③オーストリア⑤日本	24年振り2回目	
31	1991	オランダ	アムステルダム	24	411	26	4	2	2	9	3	1	1	①韓国②台湾③オーストリア④日本	14年振り3回目	
32	1993	台湾	台北	25	434	27	2	6	5	9	2	3	2	①台湾②韓国③ドイツ④日本	初開催	
33	1995	フランス	リヨン	28	474	28	4	3	1	9	3	2		①韓国②台湾③日本、ドイツ、スイス	初開催	
34	1997	スイス	ザンクトガレン	30	519	29	2		4	8	2		3	①韓国②台湾、スイス⑧日本	29年振り2回目	
35	1999	カナダ	モントリオール	33	625	34	6	3	2	9	4	1		①台湾②韓国③日本	初開催	
36	2001	韓国	ソウル	35	616	33	4	2	4	7	3	1	2	①韓国②ドイツ③日本、オーストリア	23年振り2回目	
37	2003	スイス	ザンクトガレン	36	689	34	6	2	4	10	5	2	2	①韓国②ドイツ③日本、オーストリア	6年振り3回目	
38	2005	フィンランド	ヘルシンキ	37	660	36	5	1	2	6	1		1	①日本、スイス、南チロル(イタリア)④ドイツ、フィンランド	初開催	
39	2007	日本	静岡	46	812	51	16	5	3	13	5	2	1	①日本②韓国③フランス	22年振り3回目	
40	2009	カナダ	カルガリー	46	845	45	6	3	5	13	1	2	1	①韓国②スイス③日本	10年振り2回目	
41	2011	イギリス	ロンドン	48	925	45	11	4	4	13	5	2	1	①韓国②日本③スイス	22年振り3回目	
42	2013	ドイツ	ライプツィヒ	52	986	45	5	4	3	20	3	3	2	①韓国②スイス③台湾④日本	初開催	
43	2015	ブラジル	サンパウロ	59	1,189	45	5	3	5	16	4	2	2	①韓国②ブラジル③日本、中国、台湾、オーストリア、南チロル(イタリア)	初開催	
44	2017	アラブ首長国連邦	アブダビ												初開催	
45	2019	ロシア	カザン												初開催	
46	2021	未定														
合 計					14,468	956	218	125	108	208	66	34	27			

※第1回(1950年)～第10回(1961年)、日本は不参加・記録無し

2 愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会

(1) 愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会開催要領

(目的)

第1条 2023年の技能五輪国際大会の本県への開催招致に向けて、県としての技能五輪国際大会基本構想の策定について検討するとともに、国際アビリンピックについても、2023年頃の大会を招致することを念頭に、招致に向けた検討を行う、愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会(以下、「委員会」という。)を開催する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌するものとする。

- (1) 技能五輪国際大会基本構想及び国際アビリンピックの基本構想の策定のための検討に関すること。
- (2) その他、技能五輪国際大会及び国際アビリンピックの招致に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会の委員は、別表のとおりとする。

- 2 委員会に委員長を置く。
- 3 委員長は愛知県産業労働部労政局長が指名する。
- 4 委員長に事故がある時は、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。

(運営)

第4条 委員長は、委員会を招集し、主宰する。

- 2 委員は、やむを得ない理由により出席できないときは、自らが指名する者を代理として出席させることができる。
- 3 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、愛知県産業労働部労政局産業人材育成課(業務委託先:株式会社アサツーディ・ケイ)において処理する。

(その他)

第6条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要領は、2016年11月14日から施行する。

(2) 愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会委員名簿

区分	氏名	団体名役職
技能五輪 関係者	岡部 眞幸	職業能力開発総合大学校教授
	釜石 英雄	中央職業能力開発協会技能振興部長
	中西 義裕	一般社団法人愛知県専修学校各種学校連合会副会長
	西島 保	公益社団法人愛知県技能士会連合会理事長
	真下 和雄	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構愛知支部長
企画・広報 有識者	紫牟田 伸子	紫牟田伸子事務所代表
	福井 昌平	株式会社コミュニケーション・デザインング研究所代表取締役社長
	横山 陽二	名古屋外国語大学現代国際学部国際教養学科准教授
経済団体	柴山 忠範	愛知県経営者協会専務理事
	田中 豊	名古屋商工会議所企画振興部長
	森 浩英	一般社団法人中部経済連合会企画部長
行政機関	間所 陽一郎	愛知県産業労働部労政局長

(区分ごとに氏名五十音順、敬称略)

(3) 検討経緯

- 第1回委員会 [2016年12月12日] :基本コンセプト・基本方針に関する検討
 第2回委員会 [2017年1月20日] :大会開催概要や競技・式典、各プログラム等の検討
 第3回委員会 [2017年2月17日] :基本構想(案)についての検討

2023年技能五輪国際大会 基本構想

2017年(平成29年)3月

[発行]

愛知県産業労働部労政局産業人材育成課技能振興・技能五輪グループ
〒460-8501 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
TEL. 052-954-6375(ダイヤルイン)

[製作]

株式会社アサソーディ・ケイ
〒105-6312 東京都港区虎ノ門一丁目23番1号 虎ノ門ヒルズ森タワー
TEL. 03-6830-3811(代表)

技能五輪国際大会誘致に向けた検討会
ワーキンググループ報告書

平成 29 年 7 月

技能五輪国際大会誘致に向けた検討会ワーキンググループ

目 次

	ページ
はじめに	3
第 1 技能五輪国際大会について	4
1 開催概要	
2 近年の開催状況（過去 10 年程度）	
第 2 2023 年日本・愛知開催計画について	6
1 2023 年日本・愛知開催概要	
2 特徴（優位点）、課題とその対応	
3 開催効果と必要な施策	
4 2023 年日本・愛知開催経費	
第 3 誘致活動成功に必要な事項について	17
1 誘致に必要なポイント	
結論	19

関係資料

- 資料 1 技能五輪国際大会誘致に向けた検討会ワーキンググループ設置要綱及び委員名簿
- 資料 2 技能五輪国際大会の開催国の推移
- 資料 3 技能五輪国際大会における各国の成績状況
- 資料 4 2021 年技能五輪国際大会の提案に対する要求（和訳抜粋）
- 資料 5 2023 年技能五輪国際大会基本構想
- 資料 6 愛知県国際展示場フロアマップ／レイアウトイメージ
- 資料 7 第 44 回技能五輪国際大会（WSC2021）開催意思表示に伴う検証訪問（和訳）
- 資料 8 第 44 回技能五輪国際大会会場における仮設建設物の建築状況
- 資料 9 空港インフラの状況
- 資料 10 宿泊インフラの状況
- 資料 11 中部国際空港及び周辺地域の会議室等の状況
- 資料 12 技能五輪国際大会の主催国の決定のための投票の状況

はじめに

平成 28 年 6 月に閣議決定された「日本再興戦略 2016」において、「技能五輪国際大会の日本への誘致に向けた具体的な方策を検討し、来年度年央までに結論を得る。」とされたことを受け、厚生労働省では技能五輪国際大会（以下「国際大会」という。）誘致に向けた検討会（以下「検討会」という。）を設置し、誘致を実施するか否か等を検討しているところであり、平成 29 年 3 月には愛知県を日本における開催候補地として仮決定したところである。しかしながら、愛知県が開催候補地として適切かどうかを検討するためには国際大会の誘致に立候補した諸外国の現地調査等により誘致のための諸条件の調査を行い、愛知県がそれらの条件を満たしているかどうかを検討することが必要である。

このようなことから、中央職業能力開発協会が受託した平成 29 年度の厚生労働委託事業「各種技能競技大会等の推進事業」の一環として、検討会のワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置し、誘致のための諸条件の調査及び愛知県が条件を満たしているかどうか等を検討したものである（WG の設置要綱及び委員名簿は資料 1 参照）。

なお、WG の開催日及び検討事項は、次のとおりである。

第 1 回WG会合 平成 29 年 5 月 15 日

- (1) 国際大会の実施状況
- (2) 国際大会開催のための開催地の要件
- (3) 愛知県の基本構想説明及び内容の検証

第 2 回WG会合 平成 29 年 6 月 1 日

- (1) 国としての提案に盛り込むべき事項及び誘致成功に必要な事項
- (2) 国際大会開催地の要件、愛知県基本構想及び内容の検証
- (3) 開催経費の試算
- (4) 報告書骨子（案）

第 3 回WG会合 平成 29 年 6 月 19 日

- (1) 検討会及びワーキンググループ会合指摘事項と対応等
- (2) 報告書骨子（案）

第 4 回委員会 平成 29 年 7 月 10 日

- (1) 報告書案

第 1 技能五輪国際大会について

1 開催概要

(1) 国際組織

国際大会は、加盟国・地域の代表によって構成される国際大会国際組織委員会（WorldSkills International。以下「WSI」という。）によって運営されており、WSI の本部はオランダのアムステルダムにある。

WSI のビジョン等は、次のとおりである。

ビジョン：技能の力で世界を発展させること。

ミッション：技能者への注目度と認知度を高め、経済的成長と個人的成功の達成における技能の重要性を提示すること。

ポジション：技能の卓越性と能力開発の世界拠点。

活動領域：①技能の振興、②キャリア形成、③技能競技大会、
④教育と訓練、⑤国際協力と開発、⑥研究

(2) 開催目的

国際大会は、国際的に技能を競うことにより、参加国・地域の職業訓練の振興及び技能水準の向上を図るとともに、青年技能労働者（満 22 歳以下）の国際交流と親善を図ることを目的としている。

(3) 開催実績

国際大会は、1950（昭和 25）年にスペインのマドリードにおいてスペインとポルトガルの 2 カ国の選手が参加して開催されたのが始まりである。その後、順次参加国・地域は増加し、直近の 2015（平成 27）年のブラジル・サンパウロ大会には 59 カ国が参加している。

開催地は、第 1 回大会から第 6 回大会まではスペイン・マドリードで開催されたが、その後はヨーロッパを中心に各国・地域で開催されており、日本は、次のとおり国際大会を開催している。

1970（昭和 45）年 第 19 回大会 千葉

1985（昭和 60）年 第 28 回大会 大阪

2007（平成 19）年 第 39 回大会 静岡

（資料 2 「技能五輪国際大会の開催国の推移」を参照）

日本の成績については、初めて参加した1962（昭和37）年スペイン・ヒホンにおける第11回国際大会では8人の選手を派遣し、金メダル5個、銀メダル1個を獲得した。1960年代は日本が金メダル獲得数第1位となることが多かったが、1970年代以降は韓国が第1位となることが多くなっている（資料3「技能五輪国際大会における各国の成績状況」を参照）。

（4）開催地決定のプロセス

国際大会開催地の決定については、加盟国・地域の立候補により始まり、複数の立候補がある場合は、WSI 理事会が申請内容を検討し、基本的要件を満たしている場合は、WSI 総会で加盟国・地域の投票により決定される（詳細は、資料4「2021年技能五輪国際大会の提案に対する要求」の2「決定までのタイムテーブル」を参照）。

WSI 総会における投票は、正規加盟国・地域の公式代表が1票ずつの投票権を持ち、1回目の投票で過半数の票を得た立候補国・地域がない場合は上位2ヶ国による決選投票が実施される。

2 近年の開催状況

過去10年の国際大会の開催地は、2007年が日本・静岡、2009年がカナダ・カルガリー、2011年がイギリス・ロンドン、2013年がドイツ・ライプツィヒ、2015年がブラジル・サンパウロとなっている。

会場は、展示会場を使用することが多い。

その他のプログラムとしては、選手村やエクスカージョンの他、静岡大会から始まった1校1国サポートプログラムは、その後も継続して各大会で実施されている。

参加国は、静岡大会の46カ国から増加傾向にあり、サンパウロ大会では59カ国であった。

開催経費は、開催規模の拡大傾向に伴い増加傾向にある。

日本の成績は、静岡大会が金メダル数16個で国別順位でも1位だったが、国際大会と技能五輪全国大会（以下「全国大会」という。）の期間が空いていたロンドン大会を除くと金メダル数は5、6個となっている。

第2 2023年日本・愛知開催計画について

2023年国際大会を日本に誘致するに当たって、まず、なぜ日本で国際大会を開催すべきなのか、日本として誘致を希望する理由を次のとおり整理した。

第4次産業革命の進行に伴い、人の雇用機会の喪失への懸念が生じているが、コンピュータやAIが進歩しても、革新的なアイデアを具現化するためには人の技能が不可欠である。また、人口減少が進行する中で、生産性向上の取組を推進するとともに、我が国の産業基盤を支える技能分野の人材を確保することは喫緊の課題である。このため、従来以上に「技能尊重機運の醸成」を効果的に図る政策が求められているところである。

このような状況の下、新しい時代における人や技能の果たす役割・意義とは何かを、国内外の技能関係者をはじめとする多くの参加者・観客が集まる場である国際大会において強く打ち出すことは、国内外の高い注目を集めるとともに、次代を担う若者に夢と希望を抱かせる機会ともなる。愛知県は、古くからものづくり産業が発展し、産業構造の転換にも対応して、今も日本の製造業を牽引している地域である。また、全国大会でも、参加選手数割合は東海地域が最も高く、その中でも愛知県は入賞者数がトップとなっている。

このように、地域的に技能尊重の機運が高い地域において国際大会を開催することは、日本にとっても参加国にとっても大きな意義を有するものと考えられることから、2023年国際大会誘致への取組を進めるべきである。

1 2023年日本・愛知における開催計画の概要

国際大会の実施には、競技会場としての展示場（仮設建築物を含む。）、開閉会式会場、さよならパーティ会場、各種会議のための会議室といった施設や、交通インフラ、宿泊施設等が必要である。

これらの施設等について、愛知県が平成29年3月に策定した「2023年技能五輪国際大会基本構想」（資料5を参照。以下「基本構想」という。）を基に、国際大会を開催するために必要な要件を満たしているか等を検討した結果は、次のとおりである。

（1）開催場所

ア 会場

（ア）競技会場

競技会場は、愛知県常滑市の中部国際空港に隣接して設置される予定の愛知県国際展示場である。同会場は、現在設計中であり、2019年秋に完成予定であるが、敷地面積 28.7ha、建築面積 8.6 万㎡となっている（資料6「愛知県国際展示場フロアマップ／レイアウトイメージ」を参照）。WSIは、2021年国際大会では、最低9万～12万㎡が必要になるとの予測を示している（資料7「第44回技能五輪国際大会（WSC2021）開催意思表示に伴う検証訪問（和訳）」（以下、「検証訪問資料」という。）の4ページ目を参照）。このため、建築面積の8.6万㎡以外に会場設備が必要となるが、敷地内には、仮設建築物を建設予定であり（資料8「第44回技能五輪国際大会会場における仮設建築物の建築状況」を参照）、その面積は基本構想では6.5万㎡を予定しているが、参加選手数や併催イベントの種類や規模によっては拡大の必要があると考えられる。

誘致に際しては仮設建築物であっても機能としては常設の施設と遜色ないものであることをアピールすること、競技職種に応じて必要な競技環境を担保できるものとする、また、場合によっては飛行機の発着の際の防音対策を講じることが必要である。これらは、誘致が決定された後、開催計画を詳細検討していく際に改めて検討することが必要と考えられる。

愛知県国際展示場イメージ図



（出典）愛知県振興部地域政策課国際展示場準備室資料

（イ）開閉会式会場

基本構想では、「ナゴヤドーム」又は「ポートメッセなごや」とな

っているが、「ポートメッセなごや」を提案する。

開閉会式会場は、名古屋市港区金城ふ頭に位置する名古屋市国際展示場「ポートメッセなごや」の第1展示館である。検証訪問資料では、9,000人以上の収容規模が必要とされている（検証訪問資料の4ページ目を参照）が、現在13,870㎡の第1展示館は改築が予定されており、改築後は2万㎡となる予定であることから、着席しての9,000人以上の収容は可能であり、要件を満たしている。

（ウ）お別れパーティ会場

お別れパーティ会場は、ポートメッセなごやの第2展示館である。検証訪問資料では、3,500人以上の収容規模が必要とされている（検証訪問資料の4ページ目を参照）が、同館は6,576㎡あるため、立食で3,500人以上の収容が十二分に対応可能であり、要件を満たしている。

ポートメッセなごやの航空写真



（出典）「ポートメッセなごや」ウェブページ

イ アクセス

（ア）日本へのアクセス（到着場所）

中部国際空港には、世界39都市との間で週348便（2017年6月16日現在）が就航しており、特にアブダビ、バンコク、仁川、上海等アジアの主要なハブ空港から毎日の航空便がある。（資料9「空港インフラの状況」を参照）。一方、成田国際空港や関西国際空港へは、欧米の主要都市から多くの直行便が就航しているものの、特に成田便はその後の愛知県へのバス移動を考えた場合、かえって時間を要すると考えられる。このため、国際大会の際に来日する選手、エキスパート等の訪日にあたってはアジアのハブ空港を経由して中部国

際空港に来訪することにより、スムーズな会場来訪が可能となる可能性があるため、トランジットルートの実便性を調査する必要がある。関西空港を利用する場合は、空港から会場まではバス利用となるため、ルートに留意する必要がある。また、羽田空港や成田空港の利用も想定する必要があるが、この場合はこれらの空港から中部国際空港への乗継便を使用することになる。乗継便利用者が多く乗継便数が少ない場合は臨時便を出す調整も必要になると考えられる。

(イ) 宿泊場所から競技会場へのアクセス

基本構想では、選手や大会関係者の宿泊場所から競技会場への移動手段は、バスによることとされており、選手等の到着は一定の時間に集中することが予想される。そのため、会場に到着したバスが滞留しないよう降車方法の工夫を図る等の渋滞防止対策が必要と考えられる。

(ウ) 観客等の競技会場へのアクセス

競技会場へのアクセスは、鉄道又は自家用車が主となると考えられる。サンパウロ大会の実績の観客総数 26 万人をもとに 1 日当たり 65,000 人が来場すると考えると、過去に開催された空港島のイベントの最大来場者数 68,000 人でも深刻な渋滞が発生しなかったという実績から、大きな渋滞は発生しないと考えられる。しかしながら、名古屋市人口約 230 万人に加え、会場近隣市の人口をあわせて約 40 万人あり、更に多数の観客が訪問する可能性があることから、今後より具体的なシミュレーションを実施することが必要と考えられる。

ウ 宿泊

検証訪問資料では、最低 4,000 人分のパッケージの用意が必要、とされている他、アクセスの容易さ、距離、客室数、質、食事の提供について説明を求めることとされている。

事務局が旅行会社に委託して実施した調査（資料 10「宿泊インフラの状況」を参照）によると、選手がツインルームのツイン使用、エキスパート他がツインルーム又はダブルルームのシングル使用をすると仮定すると、会場から 1 時間以内の三つ星以上のホテルのツインルーム及びダブルルームの合計は 8,901 室であった。この他にシングルルームが 18,278 室あることから、選手がシングルルームを使うことを想定しても

十分な数を確保することができると考えられる。

なお、現時点では、検証訪問資料で求める宿泊者数に対応した朝食提供体制（例えば 300 人宿泊の場合、朝の 1 時間に 300 食を準備できること。）がないもの、イスラム教徒に対応したハラール食の提供体制がないものが多いというように宿泊客の要望に応える体制の点で課題があり、国際大会開催までにこれらの体制整備が必要となる。

エ 行催事

検証訪問資料では、職種競技以外の活動（会場内外）についてその方策の説明を求めることとされており、基本構想では、次の事項を実施することとしている。

（ア）会場内

- a グローバル・スキルズ・ビレッジ（世界の技能）
世界の参加国・地域が自国・地域の技能を紹介するブースを設置
- b アイチ&ジャパン・スキルズ・ショーケース（日本・愛知の技能）
日本及び愛知に受け継がれてきた技能を展示紹介
- c スキルズ・ラボ
技能入門プログラムを開発し、子どもを対象に技能入門体験を実施
- d ジュニア・スキルズ
小中学生による技能競技大会を実施
- e キャリア相談
青少年層を対象に技能競技職種関連の職業への就職についてアドバイスを実施

（イ）会場外

- オープン・スキルズ
職業訓練施設の公開、企業見学等を実施

オ 会議

（ア）会議施設

検証訪問資料では、会場内の会議施設（部屋の大きさ、部屋数、専用の会議施設）について説明を求めることとされている。

会議施設については、愛知県国際展示場は、大中小 18 室（合計面

積 2,110 m²) の会議室を有する予定である。そのうちの4室 (各 200 m²) はパーティションを外して 800 m²の会議室として利用可能であることから、国際大会開催時に開催される総会に使用することが可能である。

また、隣接、近隣施設の会議室等は次のとおりである。

中部国際空港：セントレアホール (340 m²)、会議用中小7室 (合計 496 m²)

空港島内のホテル：〔ホテル1〕区切り可能な会議室 (130 m²)
〔ホテル2〕大中小3室の会議室 (合計 285 m²)

空港島の対岸のりんくう地区のホテル：3室 (合計 116 m²)

りんくう地区のショッピングモール：2ホール (合計 298 m²)

(詳細は、資料 11「中部国際空港及び周辺地域の会議室等」を参照)。

(イ) 会議

上記(ア)の会議室を使用して実施する会議としては、WSI 総会、理事会の他、多彩な国際会議 (技能担当大臣会合、リーダーズフォーラム、ユースフォーラム、チャンピオンフォーラム等) が挙げられる。

(2) 日程

国際大会の開催時期は、基本構想では、2023年10月から11月の間の10数日間としている。愛知県はこの時期は、温度、湿度ともに快適で天候も安定している。また、ホテルや航空便の繁忙期 (7、8月等)、技能検定 (前期：6～8月、後期 11月下旬～2月)、ポートメッセなごやの恒例行事を避け、学生等の見学・参加が可能な時期 (夏休み等は不可能) となっている。

ただし、7月から10月にかけては台風シーズンであるため、それを想定した対策をあらかじめ検討し、整理しておく必要がある (なお、他の天災についても同様の対応が必要である)。

(3) テーマとその展開

基本構想は「技能をめぐる対話」を基本コンセプトとしているが、上記の第2冒頭に「なぜ日本で国際大会を開催すべきなのか」を整理したことを踏まえ、世界に日本のメッセージを打ち出す際のテーマの一案として「技能が拓く世界の未来」を提起する。

このテーマの趣旨は、次のとおりである。

第4次産業革命の進行に伴い、人の雇用機会の喪失への懸念が生じている。しかし、コンピュータやAIが進歩しても、革新的なアイデアを具現化するためには人の技能が不可欠であり、AI等と技能は協働関係にあると言え、新しい時代の人や技能の果たす役割・意義とは何かについて、積極的なメッセージを発信することが重要である。このメッセージを、古くからのものづくり産業が発展し、産業構造の転換にも対応して、今も日本の製造業を牽引している愛知県における国際大会で強く打ち出すことにより、世界に技能の将来の可能性を示し、次代を担う若者に夢と希望を抱かせたい。

なお、今後テーマを更に検討するに際しては、WGで出された以下のような委員の指摘も参考とされたい。

- 国際大会を開くことにより日本はどう国際社会に貢献できるのか、どういう社会を目指すのかということを経営ビジョンとして示すのが大事。
- 経済産業省が2025年万国博覧会のテーマを「いのち輝く未来社会のデザイン」で打ち出そうとしているので、「技は命を輝かせる」や「平和をつくる人の技」といった大きな理念を打ち立ててこれを国策として実施すべき。
- (理念について、) 東京(オリンピック)、愛知(技能五輪)、大阪(万博)とつながっているという大きな見方が必要。
- 世界的にコンピュータ制御の機械を利用する割合が高まっている中であっても、日本は汎用機で技能を高めることが不可欠だと考えられている。こういった基礎的スキルへのこだわりが、日本でやる意義の基本、中心的価値といえるのではないか。このような基礎的スキルが大事という確証を持ち、それを世界の人と共有しようという思いがあり、それが国内の問題、世界の問題を解決する非常に重要なテーマだということにつながっている。そういうふうには技に関する日本らしさから説き起こしてテーマを出し、それは人類の共通の課題を解決する大きな力である。
- 日本は「この方法が正しい」と思って信じてやっている場合でも、世界がなぜそれを重視しないのかをきちんと見て、本当に今のやり方が最善なのか改めて考えてもらいたいと思う。日本とは異なる方法を

とっている国々でも、優れた製品を作っている。日本の進め方を検証することも必要。

- 技術の進歩に対応して、近年、国際大会の競技課題もコンピュータ制御機を使ったものに変化してきているが、同じコンピュータ制御機を使った競技で優劣を決するのは、それを駆使する「人間の技能」に他ならない。日本で開催する国際大会においては、この「人間の技能」に焦点を当てるため、目の前で展開される「競技」に加えて各競技に込められた「人間の技能」とは何かについて、分かりやすく「動画配信」するとともに、各競技ブースで専門家が解説する等多面的な手法で「技能の見える化」を図り、観客の「技能への深い理解」を促すこととしてはどうか。日本の全国大会では、現在でも機械加工職種では汎用機による競技が行われているが、これは技術革新の下でもそれを支える人間の技能に重きを置く日本企業の考え方を反映したものだと思う。こうした土壌が「技能の見える化」の作業をより効果的にしてくれるのではないか。
- 愛知県が基本構想で掲げた基本コンセプト「技能をめぐる対話」については、より広がりのあるテーマが良いと考えられるため、「技能が拓く世界の未来」をテーマとしてはどうか。

(4) エクスカーション

エクスカーションについては、基本構想では、愛知県の先進的な産業や職業訓練の視察ツアーとしてスキルズ・ツアーを提案しており、例として、トヨタ産業技術記念館、ノリタケの森、リニア・鉄道館、名古屋城本丸御殿が挙げられている。

また、日本のものづくりの奥行きを体感できるツアーを隣接する岐阜県、三重県、京都、中部北陸地域に対して実施することが提案されている。

なお、世界的にも知名度の高い京都等へのアクセスが良いといったことは、各国へのアピールポイントになるのではないかと考えられる。

(5) 国際交流プログラム

国際交流プログラムとして基本構想では、1校1国運動（1校1国サポートプログラム）が掲げられている。

それに加えて、過去の国際大会で選手村が好評であったことを踏まえ、宿泊用ホテル近隣の公園に例えば「ワールドスキルズ・カフェ」を作って参加選手と地元の若者が交流するようにすると良いのではないかと考

えられる。

更に、地元との交流を更に活発化させるため、前年に開催されるあいちトリエンナーレ（これまでに3回（2010年、2013年、2016年）開催。2022年も開催が見込まれる。）に参加したアーティストが「ワールドスキルズ・カフェ」に参加するようにすると愛知で開催する意味が前に出てくるのではないかと考えられる。

（6）その他

基本構想では、競技解説を行うガイドプログラム（対面方式に加えタブレット等によるセルフガイド）を開発するほか、多言語観光システムの構築に取り組むことを検討するとしている。

また、基本構想では、新たな時代を捉えた新規職種の導入も前向きに検討するとともに、愛知の特徴を生かしたユニークなエキシビション職種を検討し、提案するとしている。

さらに、基本構想では、ISO20121（持続可能なイベント運営のためのマネジメントシステム）を取得するとともに、中央労働災害防止協会（JISHA）の安全衛生診断を受け、安全、安心、快適な競技環境を提供するとしている。

2 特徴（優位点）、課題とその対応

（1）開催地選定の評価点

WSIによる開催地選定の評価は、検証訪問資料に基づき実施されるが、2021年の検証訪問資料では、その項目数は18あり、質問事項数は合計で116にもものぼる。数値要件が示されている質問事項は、いずれが欠けても正式な入札に進むことができなくなる可能性があると考えられる。また、数値要件が示されていないものであってもできるだけ優れたものを提案する必要があると考えられる。

（2）基本構想の評価

上記1で検討したとおり、愛知県の基本構想は、WSIの検証訪問資料に示された国際大会を開催するのに必要な諸条件を満たしていると考えられる。

ただし、宿泊施設における朝食の提供体制、ハラル食の提供体制、中部国際空港へのアクセスなど更に検討すべき事項はあり、開催計画を詳細検討していく際に改めて検討していくことが必要と考えられる。

一方、これまでの国際大会主催実績及び全国大会の開催実績から①公平、公正な競技運営、②安全、安心、衛生的な大会を実現すること、また、③治安が良いことは他国に比べ優位にあるものと考えられる。さらに、附帯的事項ではあるが、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会も契機として日本文化や先進技術に関心が高まっていると考えられ、京都等へのエクスカージョンも魅力的ではないかと考えられる。

誘致が決定された後、WSI に対するヒアリングや国際大会参加経験者からの意見と評価を踏まえ、これらの優位点を大いに生かした魅力的な国際大会とするよう検討を深めていくことが期待される。

3 開催効果と必要な施策

(1) 国内の産業を支える人材育成と確保

国際大会の開催により技能職種への関心が高まり、産業を支える人材の確保が図られる効果が見込まれる。少子高齢化が進展する中で、若年者のものづくり離れを防ぎ、ものづくり人材を確保していくことが必要であり、国際大会の誘致を契機として、初等教育から中等教育における職業教育の充実を文部科学省と厚生労働省が協力して推進するとともに、全国大会や若年者ものづくり競技大会の周知広報を進め、技能に触れる機会の拡大を図ることが必要である。さらに、キッズ大会やジュニア・スキルズといった小中学生が技能を披露できる場をつくっていくことが必要である。

さらに、国際大会の誘致を契機として、経済産業省と厚生労働省が協力して先端技術を支えるものづくり人材の確保や中学生や高校生を対象とした産業人材育成施策を推進することについて検討することが必要である。

なお、技能職種への関心やものづくり人材の確保が国際大会の日本開催の時だけといった一過性のものとならないようにすることが必要であり、2023年以降も国際大会で継続的に勝てる人材づくりのための体制整備にも取り組む必要がある。

また、技能競技大会に会場した観客の技能への理解を促進し、次のアクションにつなげるためには、技能競技の見える化が必要であり、上記1(6)の新たなガイドプログラムの開発、日本の熟練技能者によるデモンストレーションの実施等を検討する必要がある。また、国際大会の機会だけでなく、その前から、例えば2019年度及び2020年度の全国大会のサイドイベントとして、上記1(1)エのオープン・スキルズ、1

(4) のスキルズ・ツアーといった体験型プログラムを実施することについても検討が必要である。

(2) 国内を中心に人生を支える職業能力への理解

国際大会の開催により広く国民の技能への関心が高まり、技能尊重機運の醸成が進む効果が見込まれる。これを確実にするためには、上記(1)のような各省連携の推進、周知広報の実施、視察プログラム等の検討が必要である。

(3) 国際社会に対するリーダーシップと貢献を発信

職業能力開発分野の開発途上国への技術協力は、国際協力機構(JICA)を通じた協力が長年実施されるとともに、厚生労働省の事業でもアジア諸国を中心とした協力が実施されているところである。一方で、国際大会の開催を契機として、他の地域の開発途上国から日本に対して技能の評価システムの構築や技能振興施策に係る技術協力の要請がなされる可能性があり、それにも積極的に応えていくことが必要である。その中の手法としては、全国大会への開発途上国の選手、エキスパートの招聘があり、これを進めることにより、日本のものづくりのノウハウの波及を通じ開発途上国の人づくりに積極的に取り組む姿勢を示していくことが必要である。

(4) おもてなしの体制の確立

2020年には、オリンピック・パラリンピック東京大会が開催される。2023年に愛知において国際大会が開催され、2025年に国際博覧会が大阪において開催されることが決まれば、諸外国の日本に対する関心が継続的に高まり、訪日外国人の数が継続的に増加し、さらに、高い水準を維持し続けることが予想される。これに対応するためには、観光庁とも連携して国際大会参加者のみならず幅広く外国人の受入体制を整備していくことが必要である。

4 2023年日本・愛知開催経費

国際大会開催経費については、仮設建築物のタイプをどう設定するか、どのような関係行事を実施するか等により金額が変動するため、誘致が決定的な後、開催計画を詳細検討していく際に試算することが必要と考えられる。

第3 誘致活動成功に必要な事項について

1 誘致に必要なポイント

投票により主催国を決定する方式は、2009年に開始され、過去4回の大会のうち2回は立候補が1カ国だった（資料12「技能五輪国際大会の主催国の決定のための投票の状況」を参照。）ことから、投票に有利となるポイントを絞ることは難しい。

WSIの幹部からは、「加盟国・地域は、自国・地域にとって良いと考えられる提案に投票するであろう。「良いと考えられる」ものとしての便利さには、航空運賃が安価なこと、アクセスが容易であること、交通の利便性が良いこと等が該当する。2021年大会の主催国がスイスになれば、いくつかの加盟国・地域は、2023年はヨーロッパの外でと感ずるかもしれない。もし中国が勝てば、いくつかの加盟国・地域は同じ地域内での開催は最善ではないと感ずる可能性があるため、中国と日本が大きく異なっていることを売り込む必要がある。日本はすでに最近（2007年）国際大会を主催したため、他の加盟国・地域に主催の機会を与えるべきと感ずる代表もいるかもしれない。ヨーロッパの国々は、技能五輪ヨーロッパ大会が2年毎にヨーロッパで開催されるために、国際大会がヨーロッパ以外で開催されることを好むかもしれない。」といった見解が示されている。

なお、参加する技能者は、次の3点を重視すると考えられる。

- ① 自国からのアクセスが容易であること。
- ② 空調等競技環境が快適であり、自国と同じような作業環境で競技できること。
- ③ 観光、交流等で良い思い出づくりができること。

これらの事項については、誘致が決定された後、開催計画を詳細検討していく際に改めて検討していくことが必要と考えられる。

2 誘致及び開催までのスケジュール、誘致活動

2023年国際大会の提案に対する要求は、来年WSIより発出されるが、大まかなスケジュールは、2019年大会の募集のスケジュールに準ずると考えると次のとおりである。

2018年10月 総会（オランダ・アムステルダム）で関心の表明を要請

2019年3月～4月 検証訪問受入れ

2019年8月 ロシア・カザン大会における総会においてプレゼンテーション、投票及び決定

2021年 第46回国際大会（開催地は本年10月に決定予定）

2023年 第47回国際大会（日本が誘致を検討）

上記を踏まえた誘致活動の方針及び具体的な実施事項については、誘致が決定された後、開催計画を詳細検討していく際に改めて検討していくことが必要と考えられる。

結 論

1 国際大会の日本開催について

第4次産業革命や人口減少が進行する中、新たな時代における人や技能の果たす役割・意義を国際大会で強く打ち出すことにより、国内外の高い注目を集め、若者に夢と希望を抱かせる。

国際大会の誘致は、日本を世界に発信するまたとない機会となるとともに、日本の発展にも資するものとなると考えられることから、国全体として総力を上げて積極的に誘致活動に取り組むべきである。

2 愛知県を開催候補地とすることについて

愛知県の基本構想は WSI の求める諸条件を満たしており、特に、愛知県は古くからものづくり産業が発展し、産業構造の転換にも対応して、今も日本の製造業を牽引している地であり、オープン・スキルズやスキルズ・ツアーを通じて来訪者に大きなインパクトを与えることが可能と考えられ、開催地として最適であると考えられる。

なお、近年の状況は複数国が立候補する状況が見られ、その中で日本への誘致が成功するためには、インフラや開催のコンセプト等を一層魅力的なものとするべく更なる検討を急ぐ必要がある。

これらについては、日本として誘致することが決定された後、開催計画を策定する過程で十分検討されることが期待される。

平成 29 年 5 月 15 日
中央職業能力開発協会

技能五輪国際大会誘致に向けた検討会ワーキンググループ設置要綱

1 趣旨・目的

平成 28 年 6 月に閣議決定された「日本再興戦略 2016」において、「技能五輪国際大会の日本への誘致に向けた具体的な方策を検討し、来年度年央までに結論を得る。」とされたことを受け、厚生労働省では技能五輪国際大会（以下「国際大会」という。）誘致に向けた検討会（以下「検討会」という。）を設置し、誘致を実施するか否か等を検討しているところであり、平成 29 年 3 月には愛知県を日本における開催候補地として仮決定したところである。しかしながら、愛知県が開催候補地として適切かどうかを検討するためには国際大会の誘致に立候補した諸外国の現地調査等により誘致のための諸条件の調査を行い、愛知県がそれらの条件を満たしているかどうかを検討することが必要である。

このようなことから、検討会のワーキンググループを設置し、誘致のための諸条件の調査及び愛知県が条件を満たしているかどうかを検討し、検討会に報告することとする。

なお、国が国際大会を誘致する旨決定した場合には、有識者会議を設置し、誘致活動に必要な事業計画の策定、効果的なプレゼンテーション資料の作成のための調査・研究等を行うこととする。

2 委員及び開催方法

(1) 委員

ワーキンググループは、中央職業能力開発協会（以下「中央協会」という。）理事長が次の者について、知見を有する教授等の所属する大学、関係団体等に参集を求め、参集した者により構成する。

- ア 学識経験者
- イ 都道府県関係者
- ウ 企業内技能競技大会関係者
- エ 学校関係者
- オ 団体関係者
- カ 選手経験者
- キ 大規模行事企画企業関係者
- ク 放送番組等作成企業関係者
- ケ 厚生労働省担当官
- コ 中央協会常務理事

サ その他必要な者

(2) 座長

ワーキンググループに座長を置く。座長は委員の互選により選任する。座長は、ワーキンググループの議事を整理する。

(3) 関係者からの聴取

ワーキンググループは、必要に応じ、委員以外の者に出席を求め、意見を聴取することができる。

(4) ワーキンググループの取扱い

ワーキンググループは、非公開とする。

(5) 事務局

事務局は、中央協会技能振興部振興課に置く。

3 調査検討事項

(1) 調査事項

ア 国際大会誘致国における国際大会の実施状況（目的、開催コンセプト、開催規模、実施時期、競技使用施設、宿泊施設、交通手段、運営体制、職種、併催行事、周知広報、開催経費等）

イ その他

(2) 検討事項

ア 開催予定県の提案内容の検証

WSI が求めている基準や過去の開催国との比較

イ 国としての提案を作成するための課題抽出

- ① 開催予定県の提案を踏まえ、国としての提案に盛り込むべき事項
- ② 誘致成功のために必要な事項（ウに記載する事項以外）

ウ 国際大会を誘致する場合に考えられる行動計画

エ 本検討会委員からの指摘を踏まえた事項

- ① 国際大会を誘致する意義
- ② 国内企業にとってのメリットになり得る点の確認

オ その他

(以上)

平成 29 年度「技能五輪国際大会誘致に向けた検討会
ワーキンググループ」委員名簿

氏 名	所 属 先・役 職 名
○ 岡部 眞幸	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 職業能力開発総合大学校 教授
藤田 昇義	愛知県 産業労働部 労政局長
田中 早人	トヨタ自動車株式会社 トヨタ工業学園 次長
多 忠貴	全国専修学校各種学校総連合会 総務委員会 委員 学校法人電子学園 日本電子専門学校 理事長
今井 悠太	株式会社デンソー技研センター 移動式ロボット職種エキスパート
澤田 裕二	株式会社SD 代表取締役社長
水野 直樹	株式会社NHKエンタープライズ グローバル事業本部 事業開発センター イベント・映像展開 担当部長
瀧原 章夫	厚生労働省 人材開発統括官付 能力評価担当参事官
山田 亮	中央職業能力開発協会 常務理事

○印は座長。

(敬称略、順不同)

技能五輪国際大会の開催国の推移

回数	開催年	開催国	開催地
1	1950年（昭和25年）	スペイン	マドリード
2	1951年（昭和26年）	スペイン	マドリード
3	1953年（昭和28年）	スペイン	マドリード
4	1955年（昭和30年）	スペイン	マドリード
5	1956年（昭和31年）	スペイン	マドリード
6	1957年（昭和32年）	スペイン	マドリード
7	1958年（昭和33年）	ベルギー	ブリュッセル
8	1959年（昭和34年）	イタリア	モデナ
9	1960年（昭和35年）	スペイン	バルセロナ
10	1961年（昭和36年）	ドイツ	デュイスブルク
11	1962年（昭和37年）	スペイン	ヒホン
12	1963年（昭和38年）	アイルランド	ダブリン
13	1964年（昭和39年）	ポルトガル	リスボン
14	1965年（昭和40年）	イギリス	グラスゴー
15	1966年（昭和41年）	オランダ	ユトレヒト
16	1967年（昭和42年）	スペイン	マドリード
17	1968年（昭和43年）	スイス	ベルン
18	1969年（昭和44年）	ベルギー	ブリュッセル
19	1970年（昭和45年）	日本	千葉
20	1971年（昭和46年）	スペイン	ヒホン
21	1973年（昭和48年）	ドイツ	ミュンヘン
22	1975年（昭和50年）	スペイン	マドリード
23	1977年（昭和52年）	オランダ	ユトレヒト
24	1978年（昭和53年）	韓国	釜山
25	1979年（昭和54年）	アイルランド	コーク
26	1981年（昭和56年）	アメリカ	アトランタ
27	1983年（昭和58年）	オーストリア	リンツ
28	1985年（昭和60年）	日本	大阪
29	1988年（昭和63年）	オーストラリア	シドニー
30	1989年（平成元年）	イギリス	バーミンガム
31	1991年（平成元年）	オランダ	アムステルダム
32	1993年（平成3年）	チャイニーズタイペイ	台北

回数	開催年	開催国	開催地
33	1995年（平成7年）	フランス	リヨン
34	1997年（平成9年）	スイス	ザンクトガレン
35	1999年（平成11年）	カナダ	モントリオール
36	2001年（平成13年）	韓国	ソウル
37	2003年（平成15年）	スイス	ザンクトガレン
38	2005年（平成17年）	フィンランド	ヘルシンキ
39	2007年（平成19年）	日本	静岡
40	2009年（平成21年）	カナダ	カルガリー
41	2011年（平成23年）	イギリス	ロンドン
42	2013年（平成25年）	ドイツ	ライプツィヒ
43	2015年（平成27年）	ブラジル	サンパウロ
44	2017年（平成29年）	アラブ首長国連邦	アブダビ

技能五輪国際大会における各国の成績状況

回	開催年	開催国 (開催都市)	出場 選手数	日本のメダル獲得数			金メダル獲得上位3カ国・地域名
				金	銀	銅	
第11回	1962	スペイン (ヒホン)	8	5	1	—	1位スペイン 2位日本
第12回	1963	アイルランド (ダブリン)	14	10	—	2	1位日本 2位アイルランド 3位西ドイツ
第13回	1964	ポルトガル (リスボン)	17	12	4	—	1位日本 2位イギリス 3位ポルトガル、スペイン
第14回	1965	イギリス (グラスゴー)	19	6	5	2	1位イギリス 2位日本 3位スペイン
第15回	1966	オランダ (ユトレヒト)	20	9	3	2	1位日本 2位オランダ 3位イギリス、イタリア
第16回	1967	スペイン (マドリード)	20	5	7	2	1位スペイン 2位日本 3位西ドイツ
第17回	1968	スイス (ベルン)	20	6	2	5	1位スイス 2位日本 3位韓国
第18回	1969	ベルギー (ブリュッセル)	23	9	2	4	1位日本 2位スイス 3位西ドイツ
第19回	1970	日本 (千葉)	30	17	4	3	1位日本 2位西ドイツ、韓国、スイス
第20回	1971	スペイン (ヒホン)	26	10	3	5	1位日本 2位スペイン、スイス
第21回	1973	ドイツ (ミュンヘン)	27	5	5	8	1位西ドイツ 2位韓国 3位日本 、スイス
第22回	1975	スペイン (マドリッド)	26	4	7	5	1位スイス 2位韓国 3位スペイン 4位日本
第23回	1977	オランダ (ユトレヒト)	26	7	4	3	1位韓国 2位西ドイツ 3位日本
第24回	1978	韓国 (釜山)	27	1	5	6	1位韓国 2位スイス 3位オーストリア他3カ国 7位日本
第25回	1979	アイルランド (コーク)	28	7	8	1	1位韓国 2位日本 3位スイス
第26回	1981	アメリカ (アトランタ)	28	5	8	4	1位韓国 2位日本 3位スイス、西ドイツ
第27回	1983	オーストリア (リンツ)	28	4	5	4	1位韓国 2位チャイニーズタイペイ 3位オーストリア 4位日本
第28回	1985	日本 (大阪)	34	11	8	4	1位韓国 2位日本 3位チャイニーズタイペイ、スイス
第29回	1988	オーストラリア (シドニー)	30	6	—	3	1位韓国 2位日本 3位チャイニーズタイペイ、他2カ国
第30回	1989	イギリス (バーミンガム)	27	3	6	1	1位韓国 2位チャイニーズタイペイ 3位オーストリア 5位日本
第31回	1991	オランダ (アムステルダム)	26	4	2	2	1位韓国 2位チャイニーズタイペイ 3位オーストリア 4位日本
第32回	1993	チャイニーズタイペイ (台北)	27	2	6	5	1位チャイニーズタイペイ 2位韓国 3位ドイツ 4位日本
第33回	1995	フランス (リヨン)	28	4	3	1	1位韓国 2位チャイニーズタイペイ 3位日本 、ドイツ、スイス
第34回	1997	スイス (ザンクトガレン)	29	2	—	4	1位韓国 2位チャイニーズタイペイ、スイス 8位日本
第35回	1999	カナダ (モントリオール)	34	6	3	2	1位チャイニーズタイペイ、韓国 3位日本
第36回	2001	韓国 (ソウル)	33	4	2	4	1位韓国、2位ドイツ、 3位日本 、オーストリア
第37回	2003	スイス (ザンクトガレン)	34	6	2	4	1位韓国、2位スイス、 3位日本
第38回	2005	フィンランド (ヘルシンキ)	36	5	1	2	1位日本 、スイス、南チロル・イタリア 4位ドイツ、フィンランド 6位韓国他3カ国
第39回	2007	日本 (静岡)	51	16	5	3	1位日本 、2位韓国、3位フランス
第40回	2009	カナダ (カルガリー)	45	6	3	5	1位韓国、2位スイス、 3位日本
第41回	2011	イギリス (ロンドン)	44	11	4	4	1位韓国、 2位日本 、3位スイス
第42回	2013	ドイツ (ライプツィヒ)	45	5	4	3	1位韓国、2位スイス、3位チャイニーズタイペイ 4位日本 、オーストリア
第43回	2015	ブラジル (サンパウロ)	45	5	3	5	1位韓国、2位ブラジル 3位日本 、オーストリア、中国、南チロル・イタリア、チャイニーズタイペイ

2021 年技能五輪国際大会の提案に対する要求（和訳抜粋）

1 目的
（略）

2 決定までのタイムテーブル

ステップ ^o	月 日	詳 細
1	2016 年 10 月総会	CEO は全メンバーからの「関心表明」（EOI）の要請を发出。 この時点からメンバーは、彼らの 2021 年国際大会を主催しようと努力する意思を売り込み、宣伝しても良いが、2021 年国際大会に関連するロゴを使用してはならない。
2	2017 年 1 月 20 日	関心を持つメンバーが事務局に対し「関心表明」を送る締切日
3	2017 年 2 月 3 日	CEO は、関心表明を認め、次の事項を要求することを応募メンバーに送付。 ・もし公式の提案を準備するよう求められた場合、検証訪問を受け入れることの同意の確約 ・当初の提案された候補都市、場所及び日付に加え理事会が要求する他の必要な情報について「詳細説明」を提供すること
4	2017 年 2 月 24 日	応募メンバーのステップ 3 への回答締切日
5	2017 年 3 月 3 日	理事会と CEO は、応募メンバーからの回答を精査し、2021 年技能五輪国際大会の可能な主催のための検証訪問を受けるメンバーに連絡。 検証訪問の日付と提案された準備は、「詳細説明」に関連するより詳細な問や下記第 3 項のポイント 1～4 にある他の主催の基準に関する問とともに応募メンバーに送られる。
6	2017 年 3 月 10 日	応募メンバーは、事務局に対して検証訪問の受入れを確認。
7	2017 年 3 月 27 日	応募メンバーは、問に対する回答を事務局に提出。
8	2017 年 3 月 31 日	理事会及び事務局は、応募メンバーからの回答を精査し、検証訪問を準備する。懸念される項目や要求に合わない可能性のある項目は、生産的に検証訪問を終えることを確保するため、あらかじめ共有される。
9	2017 年 4 月 3 日～ 5 月 26 日	理事会及び事務局による検証訪問。 それぞれの検証訪問の間、入札のためのガイドラインと規則がそれぞれのメンバーとそのステークホルダーと議論される。 それぞれのメンバーは、入札のガイドラインと規則への委任を確認する。
10	2017 年 6 月 2 日	理事会及び事務局は、検証訪問報告書を精査し、理事会はどのメンバーが 2021 年国際大会を主催するための正式な入札に進み、準備をすることができるかを決定する。 理事会は、メンバーがこの段階でブランドに完全に適合しているか考慮するだけである。 理事会は、最小限セクション 3 のガイドラインを含み、すべてのメンバーがその提案書の中に同じ鍵となる項目に焦点を当てることを確保す

		<p>る入札定型書式を提供する。</p> <p>理事会は、いくつかの項目について、また書面の説明及び確認を求めることができる。</p> <p>各入札（参加）メンバーは、WSI より「候補市」のロゴを提供される。それは、全ての市場活動用具と通信に使用できる。</p>
11	2017年6月30日	精査のために入札（書）案を事務局に提出する締切日。
12	2017年7月28日	<p>事務局に最終入札（書）を提出する締切日。</p> <p>理事会及び事務局は、入札（書）を精査し、全ての基準に合致している場合は最終入札（書）として承認する。最終入札（書）は、その後投函され、メンバーに送付される。</p>
13	2017年10月13日	アラブ首長国連邦アブダビにおける総会での入札プレゼンテーションと2021年技能五輪国際大会を主催するメンバーを決定するための投票

3 公式提案（最終提案・入札）を準備するためのガイドライン

入札書は、公式代表とメンバー組織の担当職員が署名した組織の公式レターヘッドと次の事項を含まなければならない。

1. 特定の区域を含む、見込まれるイベント会場の表示
2. 提案日の表示
3. 財政的にイベントを組織する能力の表示(期待される収入と支出の予算概要が十分であること)。ぜひ、いかなる責任（義務）も既に確保されていると明記してほしい。財政的責任は、イベントの前のWSI に対する開催費の支払い及び他の財政的義務を含む。
4. イベントをロジスティックに組織する能力（輸送能力、輸送ネットワーク、式典会場へのアクセスと収容能力、宿泊施設の近さ、宿泊施設の質と量、選手村など）の表示。
5. 全ての権利を有するWSI は、その権利に係るあらゆる申請や契約を承認する必要があるため、大会主催国は、特に広報、マーケティング、メディア、後援に関しての当該権利および責任を詳細に渡って定義したWSI との協定を履行し、申請過程で言明された全ての入札の約束も含む。
協定案は、最終的な提出の一部である必要がある。
協力促進のために提案される協定(合意覚書)へのあらゆる追記は、好意的に受け入れられる(協定の定型書式は事務局が提供する)。投票後の公式な署名式に対して提案された計画は、この時点で公開されなければならない。
6. イベントが現時点の全ての要件、手続き、合意に従って計画され、実施されるという協定書は、憲章、運営規則、競技規則、倫理行動規程、職種定義（インフラリストを含む。）、競技組織ガイド、スポンサーシップの枠組み及び他のすべての公的又は承認された書類から成るWSI の公式文書で、はっきりと定める。
主催メンバーは、最高の、そして最新の技能五輪国際大会のためWSI と協力する。
7. ブランドに従うことの文書化（主催メンバーのブランドブックが存在すること。それはWSI により承認されたもので、ブランドが正しく実施されること。）。イベントのブランド化は、WorldSkills 商標ガイドラインに完全に従うという合意。
8. 競技大会組織者の法的地位、ステークホルダー、ガバナンス、意思決定及び管理組織に関する詳細情報。WSI は、競技大会組織者とメンバー組織及び他のステークホルダーとの関係を認めなければならない。

2023年技能五輪国際大会 基本構想

2017年3月



はじめに

技能五輪国際大会は、22歳以下の青年技能者が約50職種の競技で卓越した技能を競い合う技能の祭典であり、約60カ国・地域から約1,200名もの若者が参加しています。

本県では、2014年度に開催した「技能五輪・アビリンピックあいち大会」の成果と感動を踏まえ、次代の若者にもものづくり技能を継承し、技能尊重機運をさらに高めるため、2019年度の技能五輪全国大会、2020年度の技能五輪全国大会・全国アビリンピックを本県で連続開催いたしますが、さらに、こうした取組を大きなムーブメントとするため、2023年技能五輪国際大会を本県に招致したいと考えています。

愛知県は、製造品出荷額等が38年連続全国一のものづくり県であり、技能検定合格者は延べ33万人を超え、技能五輪全国大会では12年連続で最優秀技能選手団賞を獲得しています。しかし、経済のグローバル化や少子高齢化が進む中、本県の産業競争力を一層強化していくために、ものづくり愛知を支える産業人材の育成・確保は、大きな課題であると考えています。

技能五輪国際大会は、技能や職業教育の重要性を知らしめるムーブメントでもあり、主催者であるWSI(ワールドスキルズインターナショナル)では、「技能の力で世界を発展させる」というビジョンを掲げています。ものづくりで日本をリードする産業首都あいちが、国際大会の開催を通じて、技能を普及・発展させるムーブメントを起こしていくことは、本県の産業と人財力を成長させ、世界にアピールするまたとない機会になるものと思います。

このたび策定した基本構想では、テーマを「技能をめぐる対話(Dialogue over Skills)～創造性あふれる技能と多様な人々が協力し合うことによる、世界の持続的発展～」と掲げ、国際大会にふさわしい競技環境と参加者の思い出に残るおもてなしを提供するとともに、観客の皆様競技を分かりやすく伝える工夫をするなど、参加体験価値の拡大と技能競技大会の社会的価値の拡大に貢献したいと考えております。

日本及び愛知における「ものづくり」と「技能の価値」の発展のため、関係者の皆様と一緒に、2023年の技能五輪国際大会の招致を実現させたいと心から願っています。

2017年3月

愛知県知事
大村秀章



目 次

1	日本及び愛知に招致する理由、意義	02
2	大会基本コンセプト	07
3	開催時期	11
4	開催場所	12
5	事業構成	14
6	技能競技(Skills Competition)	17
7	公式行事(Official Event)	18
8	併催イベント(Special Event)	20
9	大会運営	22
10	広報コミュニケーション	24
11	ムーブメントとレガシー	28
12	推進組織	29
13	今後のスケジュール	30

<参考資料>

- 1 技能五輪国際大会
- 2 愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会

1 日本及び愛知に招致する理由、意義

(1) WSI(ワールドスキルズ・インターナショナル)のビジョン

WSIとは

WSIは**技能の卓越性と能力開発の世界拠点**です。産業界、政府、団体、(教育訓練)機関の国際的な協力と開発を通じ、また草の根コミュニティプロジェクト、技能競技大会、知識交換を通じて、熟練技能者の恩恵と必要性を促進しています。世界の若年技能者たちに最高を競う場を設けることにより、若者、産業界、社会に技能教育訓練の重要性を示しています。

WSIは、世界中で職業教育や、技術、サービス指向の進路における技能の卓越性と開発のために代表して声を上げています。1950年以来、若者とその親、教師、雇用主に対し、**未来は効果的な技能訓練制度にかかっているという意識を啓発**してきました。現在、WSIは75を超える国と地域で45種類以上の技能を代表しています。若者、教育者、産業界と協力しながら、明日の職業のために、今日の人材育成に努めています。

技能競技大会は単なる競技大会ではありません。一つのムーブメントです。技能振興、キャリア形成、技能競技大会、教育訓練、国際協力と開発、調査研究という6つの主要分野で取組を行うことにより、技能の卓越性と能力開発の世界拠点となることを目指しています。現在、国、地域、世界レベルで様々な活動が進行中です。ワールドスキルズ財団は自立した活動を支援し、構築するため、革新やパートナーとの協力の可能性を明らかにするプロジェクトや構想に協力しています。

WSIの理念と使命

ビジョン

技能の力で私たちの世界を発展させる。

使命

技能者への注目と認知を高め、経済的成長と個人的成功の達成における技能の重要性を示すこと。

ポジション

技能の卓越性と能力開発の世界拠点。

WSIの事業領域

技能振興

教育者、政策立案者、産業や他の機関が価値を再定義し、技能の魅力を向上させる技能の権威ある拠点や情報資産の宝庫。

キャリア形成

若い腕の良い技能者達が成功を積み重ね、次世代の技能労働者が、技能の可能性や重要性を発見するよう応援するための知恵と手段にアクセス出来るネットワークを提供。

技能競技大会

国際レベルの技能の卓越性を紹介し、活気を与えるために、技能競技大会は、世界中で開催され、多様な熟練を要する仕事を若者に紹介する。

教育訓練

未来の労働人口に需要の高い技能を獲得させる、新しく革新的な教育訓練方法を開発する教育者や産業のための手段。

国際協力と開発

若者や教育者、産業、政府が出会い、学び、共に技能を開拓出来る世界的なプラットフォーム。

調査研究

世界の技能についての最新情報や、事実、統計、ニュース。

(2)日本及び愛知に招致する理由、意義

①ものづくり王国・愛知(受け継がれてきた創造の歴史)

日本は、「ものづくり」を通じて高度成長を実現してきました。付加価値の高いものづくりと、その背景にある技術力は、日本の大きな特色として世界に広く認知、評価されており、今も日本経済の活力の源泉となっています。

中でも愛知県は、その中心地であり、窯業、木工、発酵・醸造、織物など古くから多彩な産業が発展し、形を変えながら現代まで継承されています。近代に入ると繊維産業を中心に発展し、続いて工作機械や一般機械、航空機産業も発展を遂げました。戦後は、自動車産業が興隆し、基幹産業へと成長したほか、国産ジェット旅客機(MRJ)、ロケット等の航空宇宙産業、ロボット産業、炭素繊維を始めとした素材産業など、世界最先端の産業を生み出し続けています。

2013年度の愛知県の経済規模(GDP)は世界28位に相当し、デンマークと同規模の水準を誇っています。また、2014年の愛知県の製造品出荷額等は43兆8,313億円と第2位の神奈川県(17兆7,211億円)を大きく引き離し、1977年から38年連続して全国1位となっており、日本のものづくりを牽引しています。

②職業訓練と国際貢献の実績

日本の高度なものづくりと技術力を支えているのは、独自の企業内職業訓練システムと言っても過言ではありません。愛知県は、企業等による職業訓練の先進地でもあります。

認定職業訓練校はおよそ100校あり、技能検定合格者は延べ33万人を超え、技能五輪全国大会では12年連続して最優秀技能選手団賞を獲得しています。

また、2016年4月に開校した愛知県立愛知総合工科高等学校では、3年制の本科に加え、全国初となる公設民営による2年制の専攻科を併設し、企業や大学と連携した職業教育訓練に取り組んでいます。

さらに日本は、職業訓練を通じた国際貢献にも取り組んでいます。JICAを中心とした人材派遣、退職した技能者による職業訓練等は、特にアジア圏の技能レベルの向上に貢献しており、WSIが提唱する職業訓練を通じた人材育成と国際協力のモデルを実践しています。

③あいちの産業観光

産業集積を生かした産業観光も愛知県の魅力の一つです。繊維機械と自動車の技術の変遷を通して日本の産業技術史を紹介する「トヨタ産業技術記念館」や、近代陶業発祥の地であるノリタケ本社敷地内に設置された「ノリタケの森」、東海道新幹線を中心に、蒸気機関車から超電導リニアまでの展示を通して高速鉄道技術の進歩を紹介する「リニア・鉄道館」などの産業観光施設が大きな人気を集めているほか、インバウンド向けの産業観光プログラムが積極的に開発されています。

また、世界で8番目となる「レゴランド」が2017年4月にオープン予定となっているほか、隣接する岐阜県と三重県との観光連携に加え、中部北陸9県の自治体、観光関係団体、観光事業者等が協働して推進する「昇龍道プロジェクト」も展開されており、愛知県の観光の魅力はさらに高まりつつあります。

④国際イベントの開催実績

(安全・安心・快適なイベント運営、多様性と持続可能性のメッセージ)

日本及び愛知県は、国際イベントの開催で大きな実績を有しています。特に愛知県では、世界デザイン博覧会、世界インダストリアル・デザイン博覧会、2005年日本国際博覧会(愛・地球博)、生物多様性条約第10回締結国会議(COP10)、持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議など、様々な国際イベントを開催し、成功させてきました。

愛・地球博では、海外39か国の国家元首・首相等を含む世界139か国からの貴賓を、安全・安心・快適にお迎えしており、2016年のG7伊勢志摩サミットでも、テロの脅威が叫ばれる中、その玄関口としての役割を無事果たしました。

「自然の叡智」をテーマに開催された愛・地球博は、21世紀における国際博覧会の意義を再定義した博覧会として、博覧会国際事務局からも高く評価されたほか、COP10やESD世界会議では、現代のグローバル社会で大きな課題となっている地球環境問題に対し、「多様性の保全」や「持続可能な社会」という視点でメッセージを発信しました。

また、これらの国際イベントを通して培われた展示演出、コミュニケーションの技術も日本及び愛知県の大きな特色となっており、2010年のミラノ万博でも日本館が展示デザイン部門で金賞を受賞するなど、国際的な評価を得ています。

⑤MICEへの対応力

日本は、グローバルな都市間競争に対応し、MICE誘致力の向上に取り組んでいます。そして、愛知県の県庁所在地である名古屋市は、日本政府が推進するグローバルMICE戦略・強化都市に選定されています。

愛知県は日本のほぼ中心に位置し、24時間運行可能な中部国際空港、東京・大阪を結ぶ新幹線などの充実した交通インフラが整備されています。中心都市である名古屋市には国際レベルのホテルが集積しており、「なごやめし」と称される食文化、名古屋城などに代表される観光資源も国際的な評価を受けています。さらに愛知県では、中部国際空港に隣接する愛知県国際展示場の整備にも取り組んでおり、愛知県のMICE対応力はますます高まりつつあります。

⑥技能五輪全国大会の連続開催

愛知県では、2019年度は技能五輪全国大会を、2020年度は技能五輪全国大会・全国アビリンピックを開催することが内定しています。また、今後の全国大会についても、定期的に愛知県で開催することを提唱しています。

技能五輪国際大会を単発の国際イベントとして招致するのではなく、全国大会を連続して開催し、その相乗効果により国内外におけるムーブメントの形成に継続的に取り組むことは、技能五輪の発祥地であるスペインを除くと最多(4回目)となる日本開催への理解と共感の獲得につながるものと思われます。

開催年度	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)
技能五輪 全国大会	第52回	第53回	第54回	第55回	第56回	第57回	第58回
開催地	愛知県	中央 (千葉県)	山形県	栃木県	沖縄県	愛知県	愛知県

2 大会基本コンセプト

(1)大会基本コンセプトの考え方

■WSIのビジョン

技能の力で私たちの世界を発展させる

技能はどのように世界を発展させるのか

技能を大切にすることで私たちはどのような社会を実現しようとしているのか

■日本及び愛知県に招致する理由、意義

愛知県に受け継がれてきた「技能」を尊重するDNAと「創造」の精神

様々な国際イベントで愛知県が発信してきた「多様性の保全」や「持続可能な社会」へのメッセージ

単なる競技大会でなく、一つのムーブメント

技能競技大会の知名度や関心をどのように高めていくのか

技能の力で世界を発展させるためのムーブメントに参加する関係者をどのように拡大していくのか

豊富な国際イベントで培ってきた展示演出やコミュニケーションの技術と安心・安全で快適なおもてなし

技能五輪全国大会の連続開催との連携による継続的、持続的な取組の可能性

■2023年技能五輪国際大会の方向性

技能の価値に対する理解と共感を獲得する、国際的な対話と交流の場

産業都市・職業訓練先進地としての特色と、国際イベントの開催実績を生かし、技能競技大会の「参加体験価値」と「社会的価値」の拡大に挑戦する。

■対話と交流のテーマ

創造性

愛知がものづくりの歴史の中で育んできた果てしない創造の取組に着目しながら、創造の基盤となる「技能」の重要性を再認識するとともに、新たな時代の「ものづくり」と「技能」の関係性を探求する。

多様性

国籍、年齢、性別、障害の有無などを超え、多様な人々が「技能」を共通言語として協力し合うことの価値を共有するとともに、そこから生まれる新たなイノベーションの可能性を追求する。

持続可能性

地球温暖化、経済格差の拡大など、現代社会の持続可能性を脅かしている様々な課題に対し、「技能」は何をなし得るのか考察し、発信するとともに、技能競技大会の持続的な発展に貢献する。

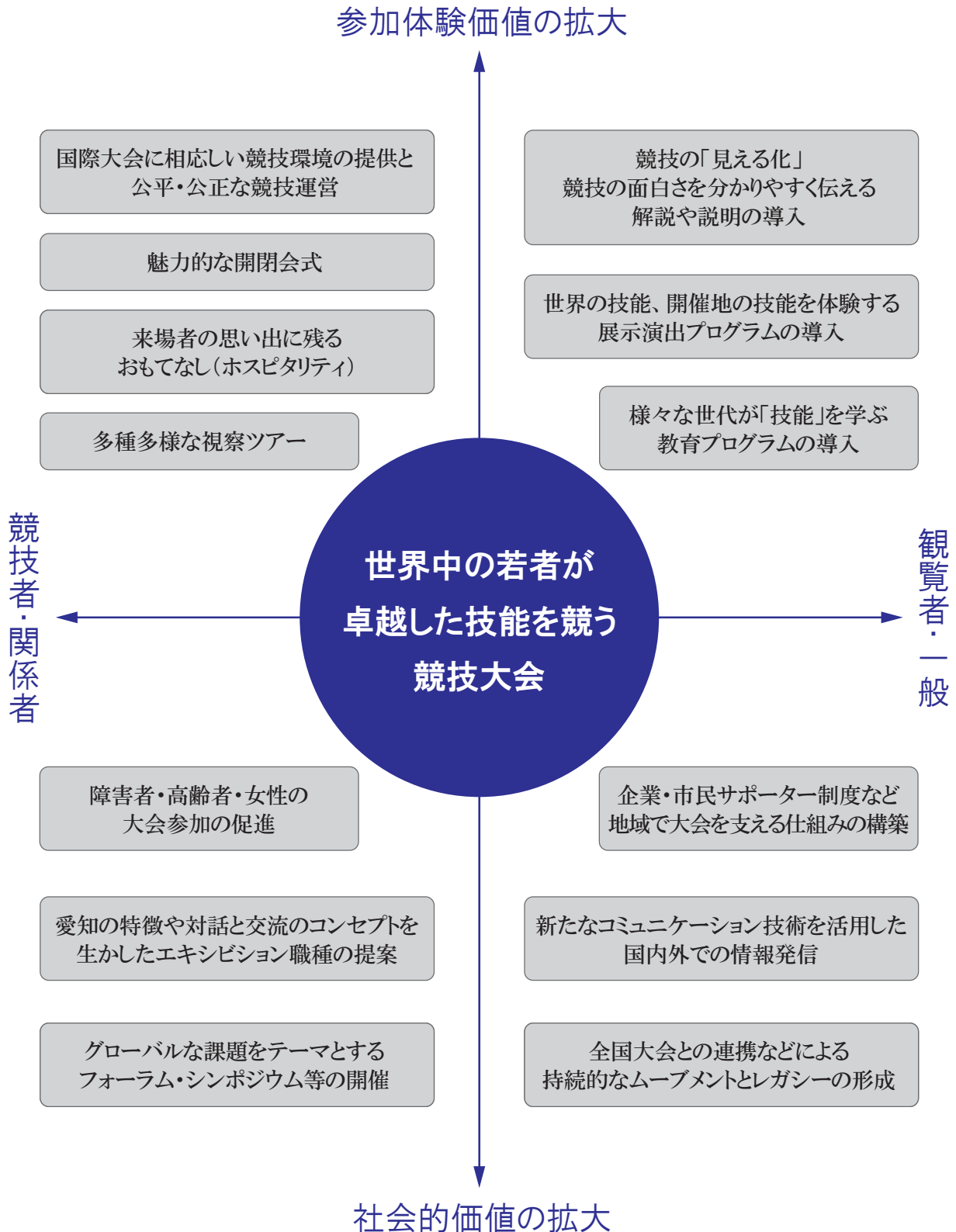
(2)大会基本コンセプト

「技能をめぐる対話 Dialogue over Skills」

創造性あふれる技能と多様な人々が協力し合うことによる、世界の持続的発展

- WSIの「技能の力で私たちの世界を発展させる」というビジョンのもと、技能五輪国際大会は若手技能者とその卓越した技能を披露する場として、大きな成果を上げてきました。職業訓練の重要性、技能者のキャリア形成、国際的な協調と開発などを推進するWSIの取組は、グローバリズムが進展し、地域間の経済格差、若年層の就業機会の確保等が大きな社会課題となるなか、さらに重要性を増すものと予想されます。
- 日本は、高度な技能に裏付けられた付加価値の高いものづくりにより、高度成長を実現してきました。そして、愛知県は、日本・アジアを代表する産業都市であると同時に、職業訓練の先進地であると言っても過言ではありません。日本の高度な技術力を支えてきた企業内訓練システムが国内外で大きな成果を上げているほか、新しいタイプの工業高等学校である愛知県立愛知総合工科高等学校を開設するなど、公的職業教育の充実にも取り組んでおり、WSIが提唱する職業教育訓練制度と国際的協調の先駆的モデルを形成してきました。さらに愛知県は、国際イベントの開催にも豊富な経験を有しています。日本政府と協力しながらMICEへの対応力強化に取り組んでおり、「多様性の保全」や「持続可能な社会の発展」など、技能とも関わりの深い今日的かつグローバルなテーマを世界に発信し続けてきました。
- 愛知県は、こうした産業都市・職業訓練先進地としての特色と国際イベントの開催実績、全国大会の連続開催への取組を生かし、2023年の技能五輪国際大会開催地に立候補いたします。特に、「単なる競技大会ではなく、一つのムーブメントである」ことを志向するWSIのビジョンと呼応しながら、技能五輪国際大会を、「技能の価値に対する理解と共感を獲得する、国際的な対話と交流の場」へと進化させることを目指します。
- 愛知県は、ものづくりの歴史の中で受け継がれてきた「技能」を大切にすることで、時代を牽引する創造的な産業や技術を生み出してきました。「技能」はこれまで、そしてこれからも、多様化する国際社会において共通言語であり続けます。創造性あふれる技能と、技能を媒介として多様な人々が協力し合うことにより、私たちの世界の持続的な発展を目指します。
- 日本及び愛知県は、世界中の若者達が卓越した技能を競い合う競技大会という技能五輪国際大会の中心的価値を尊重するとともに、その価値を、競技者・関係者はもちろん、観覧者や一般社会にも積極的に開いていくことで、技能競技の「参加体験価値」と「社会的価値」を拡大することに挑戦します。「技能をめぐる対話」というコンセプトのもと、新たな技能競技大会のモデルを提示し、WSIのビジョンの実現に貢献するとともに、その成果を広く国際社会と共有していきます。

(3)新たな技能競技大会モデルのイメージ

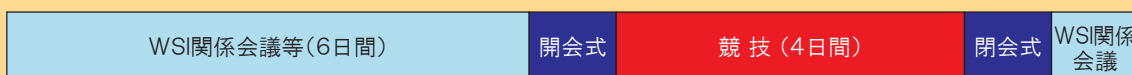


(4)大会基本方針

- ① 国際大会にふさわしい競技環境と公平・公正な競技運営を実現するとともに、産・学・行政・市民の連携により、競技者・関係者の思い出に残るおもてなしを提供します。
- ② 競技の見どころを分かりやすく伝える解説プログラム、世界の技能、日本・愛知の技能を体験する展示プログラム、誰もが楽しくものづくりに参加体験できる教育プログラムの導入により、観覧者の技能競技大会への参加体験価値を拡大します。
- ③ 「創造性」、「多様性」、「持続可能性」など、今日のかつグローバルな課題をテーマとする国際会議やエキシビション職種を実施することで、技能競技大会の社会的価値を拡大します。
- ④ 技能の価値を広く社会と共有するために、多様な主体による大会への参加機会を設けるとともに、放送と通信を融合する新たなコミュニケーション技術等を活用し、国内外に向けて大会の情報発信に取り組みます。
- ⑤ 愛知県が連続して開催する技能五輪全国大会とも連携しつつ、技能尊重機運の醸成に持続的・継続的に取り組むとともに、国内外に継承されるレガシーを追求します。

3 開催時期

2023年10月から11月の10数日間



<設定における留意点>

1 気候が競技環境に最適な時期

温度、湿度ともに快適で、天候も比較的安定している4月～5月、10月～11月が望ましい。

2 技能検定及び技能五輪全国大会と重ならない時期

技能検定(例年6月～8月(前期)、11月下旬～2月(後期))や技能五輪全国大会(恒例的に11月後半)に重ならない時期が望ましい。

3 旅客系(ホテル、エアライン)稼働率の高くない時期

7月～8月など、旅客系の稼働率が高い時期は避けることが望ましい。

4 学生・生徒の参加可能な時期

課外授業の一環として、見学・参加が可能な時期が望ましい。(試験などの考査時期を除く。)

5 利用会場の活用可能な時期

大会会場候補の空港島の愛知県国際展示場は予定が決まっていないが、開閉会式会場の候補となる「ナゴヤドーム」及び「ポートメッセなごや」については、恒例行事(プロ野球など)と重ならない時期が望ましい。

4 開催場所

競技会場:「愛知県国際展示場」

開閉会式・パーティー会場:「ナゴヤドーム」又は「ポートメッセなごや」

< 競技会場 >

愛知県国際展示場(空港島)

開業予定: 2019年秋

敷地面積: 28.7ha

施設面積: 建築面積8.6万㎡(内展示面積6万㎡)

屋外駐車場8.7万㎡ 約3,400台

多目的利用地4.4万㎡

アクセス: [鉄道]名古屋駅から乗換え無し28分

中部国際空港駅から連絡通路で直結

[車] 中部国際空港連絡道路・セントレア東ICから約1分



※イメージ図は、株式会社竹中工務店名古屋支店からの提案に基づく現時点でのイメージであり、今後、設計により変更される場合があります

- 競技会場: 常設展示ホール60,000㎡+屋外仮設建築物約40,000㎡
 - 会議場・併催イベント・レストラン他: 常設会議室、エントランスホール+屋外仮設建築物
- ※ 常設展示場だけでは大会会場として面積が不足するため、屋外敷地に仮設建築物を設置

< 開閉会式・パーティー会場 >

ナゴヤドーム

施設面積: 48,169㎡(内グランド面積13,400㎡)

収容人数: 40,500人(スタンド)

アクセス: [鉄道]名古屋駅からナゴヤドーム前矢田駅(約20分)

[車] 東名高速・名古屋ICより約20分



(写真出典)「ナゴヤドーム」ウェブサイト(<http://www.nagoya-dome.co.jp>)より

ポートメッセなごや

施設面積: 36,282㎡(内展示面積33,946㎡)

収容人数: 第3展示館・式典 約8,000人可能(着席)

第2展示館・パーティー 約3,600人可能(立食)

アクセス: [鉄道]名古屋駅から金城ふ頭駅(24分)

[車] 伊勢湾岸自動車道・名港中央ICより約5分

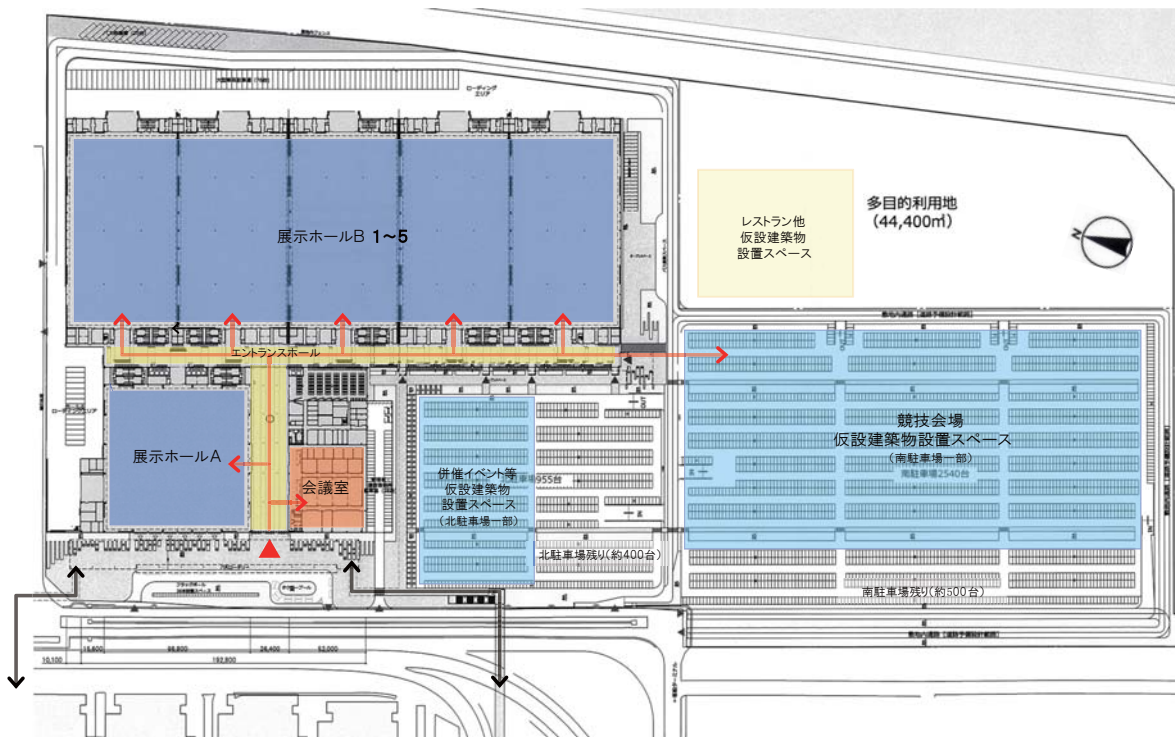


(写真出典)「ポートメッセなごや」ウェブサイト(<http://portmesse.com>)より

<会場利用イメージ>



(C) 2017 Google



(出典)愛知県振興部地域政策課大規模展示場準備室資料から作成

- 競技会場 ①: 展示ホールA(10,000㎡)
- 競技会場 ②: 展示ホールB1~5(計50,000㎡)
- 競技会場 ③: 仮設建築物(南駐車場:約40,000㎡)
- 国際会議等 : 会議室(大中小18室)
- 併催イベント等: 仮設建築物、エントランスホール他
- レストラン他 : 多目的利用地
- 駐車場 : 北駐車場残り(約400台分/約13,000㎡)
南駐車場残り(約500台分/約10,000㎡)

5 事業構成

2023年技能五輪国際大会(以下、本構想では「愛知大会」という。)は、以下の事業で構成するものとします。

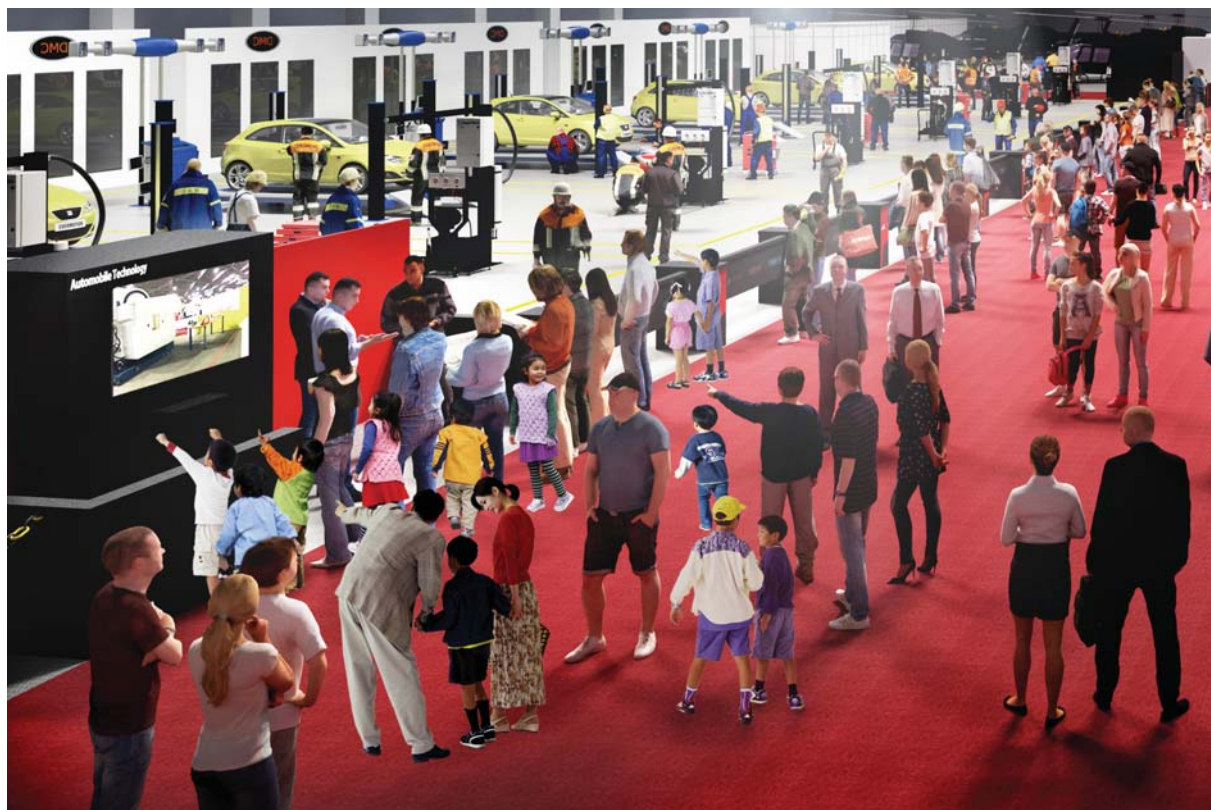
1) 技能競技 Skills Competition

- WSIの「大会組織に関する規定」に則り、愛知大会で実施する公式職種、デモンストレーション職種等を選定
- 愛知大会の対話と交流のテーマ(創造性・多様性・持続可能性)に基づくユニークなエキシビション職種の提案

公式職種・デモンストレーション職種

エキシビション職種

(競技会場イメージ)



2) 公式行事 Official Event

- 大会のテーマや地域の魅力を発信する開閉会式
- WSIの総会、理事会などに加え、創造性・多様性・持続可能性の観点から技能の未来を展望する国際会議を開催
- 世界中の競技者、関係者に、「あいちの産業観光」を満喫してもらい視察ツアーを提供

開閉会式(Opening and Closing Ceremony)

国際会議(Conference)

視察ツアー(Skills Tour)

(開会式イメージ)



3) 併催イベント Special Event

- 技能競技の面白さを伝えるとともに、様々な来場者が技能の魅力に参加体験できる対話形式のプログラムを展開
- 競技内容の面白さを伝える解説プログラム、世界、日本及び愛知の技能を体験する展示プログラム、様々な人が技能の価値を学ぶ教育プログラムを実施

解説プログラム(Skills Guide)

展示プログラム(Global Skills Village, Aichi&Japan Skills Showcase)

教育プログラム(Skills Labo, Junior Skills, Careers Advice, Open Skills)

(展示プログラム会場イメージ)



6 技能競技(Skills Competition)

(1) 基本的な考え方

国際大会にふさわしい公平・公正な競技運営を実現するとともに、創造性・多様性・持続可能性をテーマとするユニークな職種を愛知から提案します。

- 国際大会に相応しい競技環境の提供と、公平・公正な競技運営に努めます。
- WSIでは、「大会組織に関する規定」を定めており、愛知大会においても、同規定を踏まえた公式職種、デモンストレーション職種等の選定を行うとともに、「創造性」、「多様性」、「持続可能性」という3つのテーマを踏まえたエキシビション職種等を愛知から提案していきます。

(2) 公式職種・デモンストレーション職種

公式職種、デモンストレーション職種については、過去の技能五輪国際大会における公式職種を踏まえつつ、WSIとの連携のもとに選定します。

新たな時代を捉えた新規職種の導入についても前向きに検討します。

(3) エキシビション職種

技能五輪国際大会では、公式職種に加え、公式評価対象外となるプレゼンテーション職種、エキシビション職種などが実施されています。

愛知大会では、「創造性」、「多様性」、「持続可能性」という3つのテーマを踏まえ、愛知の特徴を生かしたユニークなエキシビション職種の検討・提案を行います。

創造性

- AI(人工知能)や3Dプリンターなど、次世代のものづくりにイノベーションを起こすことが期待されている技術分野に関する職種
- ロボット、航空宇宙など、愛知の特徴である先端技術に関する職種

多様性

- 障害者と健常者が協働して取り組む職種
- 国際アビリンピックを併催する場合には、国際アビリンピックとの連携による相乗効果にも配慮

持続可能性

- ソーラー発電、蓄電技術、水素燃料、炭素繊維、壁面緑化、水耕栽培など、地球環境の持続可能性に関連する職種
- 陶芸、絞り、盆栽など、愛知及び日本の伝統的ものづくり等に関する職種

7 公式行事(Official Event)

(1) 基本的な考え方

大会テーマや地域の魅力を発信する開閉会式に加え、技能の普遍的価値と未来像を展望する国際会議、あいちの産業観光を体験する視察ツアーを開催します。

- 開閉会式は、大会のテーマ、メッセージを発信する重要な機会となります。愛知大会では、開閉会式において、それぞれにテーマを設定し、「技能をめぐる対話」という大会コンセプトとともに地域の魅力を積極的に発信します。
- 併せて、「技能をめぐる対話」を体現する公式行事として、WSIの総会、理事会を始め、技能の未来を展望する多彩な国際会議を開催するほか、世界中から集まる競技者、関係者にあいちの産業観光を体験していただく多彩な視察ツアーを提供します。

(2) 開会式(Opening Ceremony)

ユネスコ無形文化遺産に登録された「山・鉾・屋台行事」で使われる「山車」を起点に、愛知(日本)に受け継がれてきた技能の粋を表現

- 開会式については、「愛知に受け継がれてきたものづくりの伝統」を、ユネスコ無形文化遺産に登録された「山車」を起点に演出することを想定します。
- からくり、自動織機、自動車、ロボットなど、時代とともに進化してきた「愛知のものづくり」を発信するとともに、その背景にある「技能」をアピールします。

(3) 閉会式(Closing Ceremony)

世界中の参加者が互いの健闘を讃えあい、友好を深める機会とするとともに、ダイバーシティ・コンセプトを表現するアトラクションを展開

- 閉会式については、世界中から集まった競技者や関係者が、互いの健闘を讃え、技能を認め合う、明るく友好的な、参加型のセレモニーとして開催します。
- 世界の技能の多様性を賞賛するとともに、全ての人々が就業機会を得て、生き生きと活躍できるダイバーシティ社会の実現をテーマとしたアトラクションを実施することで、次回の技能五輪国際大会へバトンを渡していくことを想定します。

(4)国際会議(Conference)

WSIの総会、理事会等に加え、 技能のこれまでとこれからを展望する多彩な国際会議を開催

- WSIの総会、理事会のほか、技能のこれまでとこれからを展望するディスカッションなど、多彩な国際会議を開催します。
- 特に、世界の技能者が自らの経験などを語るショートプレゼンテーション(Skills Talk)などを実施することで、「技能をめぐる対話」という大会コンセプトを積極的に追求します。

創造性

- ものづくりに関連する革新的な技術の登場と、それによる技能の今後の動向
- 技能者の創造性を生かす社会とは など

多様性

- 世界の技能の多様性とその価値の発見(世界中の技能者によるショートプレゼンテーション)
- 多様な個性のコラボレーションによるイノベーション実践例 など

持続可能性

- 新しい時代の環境技術と技能競技(新規職種の提案に向けて)
- 技能競技大会の持続可能な発展に向けた国際協調 など

(5)視察ツアー(Skills Tour)

愛知の先端的な産業や職業訓練、 日本のものづくりの奥行きを体感する多彩な視察ツアーを提供

- 世界中から集まる競技者、関係者などに、あいちの産業観光を体験していただく視察ツアーを提供します。
- 愛知のものづくりの現場を見学できる工場見学のほか、日本建築の粋を集めた名古屋城本丸御殿や、トヨタ産業技術記念館、ノリタケの森、リニア・鉄道館など、愛知県内の各種ミュージアムを巡るツアーを造成します。
- 併せて、隣接する岐阜県と三重県、日本の古都・京都を訪ねるツアー、昇龍道プロジェクトとの連携等による中部北陸地域に広がるツアーなど、日本のものづくりの奥行きを感じられるツアーを計画します。

8 併催イベント(Special Event)

(1)基本的な考え方

愛知大会の特色として「競技の見える化」に取り組むとともに、技能の価値と未来に感動的に出会う多彩な対話形式のプログラムを展開します。

- 「技能をめぐる対話」というコンセプトを踏まえ、技能競技の面白さ、技能の持つ価値、技能の未来を幅広い人々と共有する対話形式のプログラムを積極的に展開します。
- 併催イベントは、一般の人には伝わりにくい技能競技のポイントや見所を分かりやすく伝える「解説プログラム」、世界の多様な技能と愛知が受け継いできた技能を体験する「展示プログラム」、そして、ものづくりの面白さを多くの人々、特に次代を担う子どもたちに伝える「教育プログラム」により構成します。

(2)解説プログラム

競技解説 (Skills Guide)

- 技能競技の解説を行うガイド・プログラムを開発します。
- ガイド・プログラムでは、技能者による対面式の解説を重視すると同時に、スマートフォンやタブレットで利用できるセルフガイドも準備します。
- セルフガイドの開発にあたっては、情報関連企業等の協力を得ることも想定します。

(3)展示プログラム

世界の技能 (Global Skills Village)

- これまでの技能五輪国際大会においても継続して実施されてきている「グローバル・スキルズ・ヴィレッジ」を愛知大会でも実施します。
- 「創造性」、「多様性」、「持続可能性」という3つのテーマに即し、世界の参加国・地域が自国の技能を紹介するプレゼンテーション・ブースや、グローバルパートナー・ブースなどの設置も検討します。

日本・愛知の技能 (Aichi&Japan Skills Showcase)

- 日本及び愛知に受け継がれてきた技能を展示紹介します。
- 特に、愛知を中心とした中部地域の伝統工芸分野に着目し、熟練技能者による実演などを行うほか、日本及び愛知を代表する企業によるブース出展なども検討します。

(4)教育プログラム

技能入門プログラム (Skills Labo)

- 幅広い人々、特に次代を担う子どもたちに、体験を通じてものづくりの面白さを伝え、ものづくりへの憧れを醸成する技能入門プログラム(スキルズ・ラボ)を開発します。
- 技能者など、技能競技で取り入れられている職種の専門家と、アーティストやファシリテーターなどの協働により、これまでにない体験プログラムの開発を目指すとともに、プログラム開発を支援する企業スポンサー制度を取り入れるなど、新たな企業参加システムとすることも検討します。

ジュニア・スキルズ (Junior Skills)

- 次代を担う子どもたちに、人と競い合うことを通じ、ものづくりの楽しさや難しさを体験してもらう技能競技大会(ジュニア・スキルズ)の開催を検討します。

キャリア相談 (Careers Advice)

- 技能競技を通して様々な職種に興味を抱いた青少年層を主な対象として、その職種の仕事に就くためには何をなすべきか、アドバイスを行います。
- 実施にあたっては、公的機関や各職種団体等の協力を得ることを想定します。

職業訓練施設の公開、企業見学等 (Open Skills)

- 愛知県内の企業内職業訓練施設、公共職業訓練施設に協力を呼びかけ、職業訓練の現場を見学できるオープン・キャンパスを実施します。競技大会に合わせ、職業訓練の現場を見学、体験できる機会を設けることで、技能及び技能者への関心を高めるとともに、職業訓練の重要性を広く発信していきます。
- 併せて、愛知県内で工場見学などを実施している企業などに、愛知大会開催期間中の特別プログラムの提供を呼びかけ、一体的な広報を行います。
- 競技会場に隣接する中部国際空港でのボーイング787の展示施設や、県営名古屋空港に隣接の日本初の国産ジェット旅客機(MRJ)の製造工場、あいち航空ミュージアムの見学ツアーなどを検討します。
- 自動走行や燃料電池自動車(FCV)、ロボットなどの最先端技術を体感できるプログラムを検討します。

9 大会運営

(1) 基本的な考え方

ISO20121(持続可能なイベント運営のためのマネジメントシステム)を取得し、安全・安心・快適な競技環境を提供するとともに、地域総参加で競技者・関係者の思い出に残る「おもてなし」を提供します。

(2) 宿泊施設

公式参加者には、主に名古屋市中心部のホテルを活用

公式参加者の宿泊は、食事及び公式行事への参加、交通を含めたパッケージプランとして提供するように大会規定で示されており、サンパウロ大会の実績から約3,600室が必要になります。また、部屋のランクも対象者に応じて概ねの目安があり、これらの条件に適した部屋数・ランクのホテルが多くある名古屋市中心部を主に活用します。

一般来場者(観覧者)数は、サンパウロ大会の実績から1日当たり65,000人程度と想定され、そのうちの1割が宿泊を伴う来場とした場合、約6,500室が必要になりますが、名古屋市も含めたホテル群で対応可能です。

(3) 交通輸送

公式参加者には、シャトルバスを活用

一般来場者には、公共交通機関での来場を推奨

学生来場者には、団体用バスの受入れ環境を整備

公式参加者の交通手段は、期間中利用可能な特別パスによる公共交通機関の利用が望ましいが、宿泊場所によっては、乗り換えを要するため、確実な移動の観点からシャトルバスを活用します。

なお、サンパウロ大会の実績から、シャトルバスを活用する招待者を含む公式参加者は約8,000人程度と想定され、バスは最大、1日およそ160台必要となることが予想されます。

一般来場者(サンパウロ大会の実績から約26万人)の交通手段は、愛知県国際展示場の駐車場の不足が予想されるため、鉄道(中部国際空港駅)利用を推奨しつつ、別途、臨時駐車場(会場とシャトルバスで結ぶ。)の確保を検討します。

小中高校生及び特別支援学校等の学生来場(サンパウロ大会の推定から約5万人)は、各学校と会場を結ぶ団体用バスでの来場が想定され、250台必要となることが予想されるバスの乗降、待機場などの環境を整備します。

(4)安全対策

安全衛生、救急・救護、災害、犯罪への万全な対策を実施

競技会場には、中央労働災害防止協会（JISHA）の安全衛生診断を受けて、万全な安全対策を行います。

大会参加者等の怪我や疾病に備えて、会場への救護所の設置や、緊急搬送先協力病院との連携、消防の全面的な協力の下、競技期間中においては救急車の配置を検討します。

火災や災害の緊急時に備え、自衛消防隊を組織するとともに、地元消防署職員の常駐巡回と緊急車両の出動態勢を整え、さらに保安・立入制限の管理のため、会場の主要箇所に警備員を24時間体制で配置し、手荷物検査・金属探知機等の導入を検討します。

(5)おもてなしプログラム

競技者等休憩・交流スペース

- 競技者、関係者のための休憩・交流スペースを設けます。
- 特に、ケータリング・サービスの充実を目指します。ハラルフードなど、多様な文化に対応するほか、愛知の魅力発信の一環として「なごやめし」の提供を検討します。

一校一國運動

- 愛・地球博でも実践され、過去の技能五輪国際大会でも実施されている一校一國運動を導入します。
- 大会の開催を契機として、愛知県の若者が世界の多様な文化に触れる機会を創出するとともに、大会後にも継承される国際交流事業とすることを目指します。

サポーター

- 大会運営をサポートするボランティア制度を構築します。
- これまでの各種国際イベントの開催経験を踏まえ、参加者の主体性を生かしたサポート事業を考案していきます。
- 地元の大学生を活用した通訳ボランティアの養成を検討します。

多言語対応観光システム

- 大会開催に合わせ、愛知県の国際観光対応力を強化することを目指し、多言語観光システムの構築に取り組むことを検討します。
- ホテル、飲食店などでも利用できるよう、スマートフォンなどの普及端末を利用したシステムとすることを想定し、AI(人工知能)翻訳の実践の場とすることで、民間事業者の協力を得ることも検討します。

10 広報コミュニケーション

(1) 基本的な考え方

招致活動期間、開催準備期間を通し、技能五輪国際大会の知名度向上と社会的価値の発信に努めるとともに、放送と通信を融合する新たなコミュニケーション技術などを活用し、国内外への情報発信に努めます。

(2) 広報戦略の推進ステップと活動内容

招致活動期 [2017年～2019年]

技能五輪国際大会の知名度向上を図るとともに、招致活動に対する産・学・行政・市民の参加を促進します。

広報戦略の専門家等が参加する広報コミッティによる広報戦略の策定、招致活動への連帯を象徴する招致シンボルマーク、マスコットキャラクター等を策定するほか、県民向けシンポジウム、招致期間中の技能五輪全国大会・全国アビリンピックなどの機会を捉え、県民及び関係者に国際大会招致に取り組むことを周知します。

併せて、2018年のディスティネーション・キャンペーン、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、同年愛知県で開催するワールドロボットサミット、2025年の大阪万博の招致など、日本全体のMICE招致戦略とも連携しながら、経済団体、企業等による招致活動への参加と協力を要請していきます。

海外に対しては、2017年のアブダビ大会等において、主にWSI関係者に対し、愛知大会のコンセプト、愛知の魅力をPRするなどの招致活動を展開していきます。

国内広報

- 広報コミッティの設置(有識者等による広報戦略策定)
- 招致シンボルマーク、マスコットキャラクター等の策定
- 県民向けシンポジウム等の開催
- 技能五輪全国大会・全国アビリンピック等でのPR
- 日本全体のグローバルMICE戦略と連携したPR(2018年ディスティネーション・キャンペーンなど)
- 経済団体、企業等へのPR
- 各種広報ツールの制作
- 招致ホームページ・SNS等の開設と運用 など

国際広報

- WSI関係者に対する愛知大会のコンセプト、愛知の魅力をPR
- 国、民間などとの協力による招致活動の展開 など

開催準備期 [2019年～2023年]

愛知大会の開催決定後は、大会の開催に向けた準備活動を支援する広報コミュニケーションを展開します。特に、技能競技の社会的価値の発信に取り組むことで、技能の力で世界を発展させるムーブメントに参加する企業、団体、学校、市民等を拡大していくことを目指します。

国内においては、競技紹介映像の制作などにより、技能競技の魅力発信に努めるほか、2019年度の技能五輪全国大会と2020年度の技能五輪全国大会・全国アビリンピックの愛知開催のタイミングを生かした広報活動を推進します。協賛スポンサー、市民ボランティアの募集などはもちろん、併催イベントとして計画している解説プログラムや教育プログラムの先行開発と全国大会での試行など、新たな参加の仕組みを提案し、多彩な関係者の大会参加を目指します。

国際社会においては、「技能をめぐる対話」というコンセプトを実践するために、国際シンポジウムなどの先行開催に取り組めます。

併せて、2019年度・2020年度に愛知県で開催する技能五輪全国大会にWSI関係者やアジア諸国の技能競技関係者を招待することを検討します。技能五輪全国大会を技能に関する国際的な対話と交流の場として積極的に活用し、技能振興における日本の国際貢献を明確にすることを目指します。

国内広報

- 技能競技紹介映像等の制作
- 2019年度技能五輪全国大会と2020年度技能五輪全国大会・全国アビリンピック(愛知開催)でのPR
- 2019年度技能五輪全国大会と2020年度技能五輪全国大会・全国アビリンピック(愛知開催)への企業等参加促進 [解説プログラム・教育プログラム等の先行開発と試行]
- 2019年ラグビーワールドカップとの連携
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックとの連携
- 2020年ワールドロボットサミットとの連携
- 各種広報・告知ツールの制作
- 大会ホームページ・SNS等の開設と運用 など

国際広報

- 国際シンポジウムの先行開催
- 技能五輪全国大会へのWSI関係者やアジア諸国の技能関係者等の招待 など

開催期間 [2023年]

開催年となる2023年からは、愛知大会への集客促進を目的とした広報コミュニケーションを展開します。国内においては、日帰り旅行圏、宿泊旅行圏などを設定し、それぞれのエリアにおいて効果的、効率的な広報、広告宣伝を実施するほか、旅行代理店などによるツアー販売なども展開します。併せて、愛知県を訪れる世界のゲストに歓迎を伝えるウェルカムバナーの設置なども検討します。

開催期間中には、マスコミの取材拠点となるメディアセンターを会場に設置することを検討するほか、海外メディアに対する情報配信サービスとして、ミラノ万博でも実施された動画等のクラウド配信サービスを実施することも検討します。日本での現地取材が困難な参加国に対する大会情報の新たな配信手法として有効に機能させ、国内外における大会の情報発信を活性化させるとともに、放送と通信を融合する新たな取組とすることで、通信関連、情報関連企業の大会サポートを実現していくことを目指します。

国内広報

- 集客圏に応じた広報、広告宣伝活動
- 旅行代理店等を通じたツアー商品販売
- 来場者用プログラム等の作成
- ウェルカムバナーの設置
- メディアセンターの設置 など

国際広報

- 動画クラウド配信サービス(Skills Cloud)の提供
- 国際シンポジウムの開催 など

成果伝達期 [2023年～]

大会開催後は、大会の成果を関係者、一般社会、国際社会と広く共有するための広報コミュニケーションを展開します。

大会の成果をまとめた記録集などを作成することはもちろん、大会後に継承されるレガシーの一つとして、解説・教育プログラムなどの継承と普及、国際シンポジウムの継続開催、技能振興に貢献した個人・団体等を表彰する顕彰制度の創設などを検討します。

国内広報

- 公式記録集、公式記録映像などの作成
- 大会ホームページを活用した、インターネット上における記録保存
- 解説プログラム・教育プログラムなどの継承と普及 など

国際広報

- 国際シンポジウムの継続開催
- 顕彰制度の創設 など

11 ムーブメントとレガシー

(1) ムーブメントの形成

技能五輪全国大会との連携を生かし、多彩な関係者に対し、技能の力で社会を発展させるムーブメントへの参加を促進します。

- 国際大会に先立ち、全国大会を連続開催することのメリットを最大限に生かし、WSIが目指す技能の力で世界を発展させるムーブメントの形成に努めていきます。
- 特に、技能競技大会を、技能をめぐる豊かな対話と交流の場へ成長させようとする愛知大会のコンセプトを踏まえ、併催イベントとして計画している解説プログラム・教育プログラムの先行開発と全国大会での試行、技能のこれまでとこれからを展望する国際シンポジウムの開催などに積極的に取り組みます。
- また、これらの具体的な行動を通して、行政、経済団体、企業、教育機関、NPO/NGO、市民など多彩な関係者に対し、技能の力で世界を発展させるムーブメントへの主体的な参加を呼びかけていきます。

(2) レガシーの形成

技能競技の中心地としてのステータスを獲得するとともに、国内及びアジアを始めとした国際社会におけるムーブメントの拡大に貢献します。

- 愛知県は、上記の取組を通して、ものづくり王国・愛知、職業訓練先進地・愛知、産業観光都市・愛知としての地位をこれまで以上に確かなものにすると同時に、技能競技及び技能教育の中心地となることを目指します。
- 国内においては、全国大会の定期開催、愛知大会で開発する解説プログラム、教育プログラムの継承と普及などにより、技能競技の持続的な発展に貢献することを目指します。
- 併せて、技能を通じた国際協力に貢献することを目指し、技能に関する国際会議の継続的な開催、技能振興に係る人材育成セミナーの開催や研修生の受け入れ、国際的な技能振興に貢献した個人・企業等を顕賞する制度の創設などを検討します。
- 日本のものづくりの中心地である愛知県が、技能競技においても中心地となることで、日本のものづくりと技能を改めて世界に発信するとともに、技能の力により私たちの世界を発展させるムーブメントを国内外で拡大していくことを目指します。

<愛知の視点から>

ものづくりの発展

職業訓練の発展

産業観光の発展

<国内の視点から>

全国大会の定期開催

解説プログラムの継承・普及

教育プログラムの継承・普及

<国際貢献の視点から>

国際会議等の継続開催

人材育成セミナー等の開催

顕賞制度の創設

12 推進組織

(1) 基本的な考え方

招致期間、開催準備・実施期間に、それぞれ活動の中心となる推進組織を設置します。

技能五輪国際大会の招致においては、国が主体となることが求められています。愛知県としては、本構想をもとに国に開催提案を行うとともに、国として招致に取り組むことが決定した場合には、国とともに、大会の招致、開催準備、運営に取り組むことを想定します。

(2) 推進組織と活動内容

2023年技能五輪国際大会招致委員会(仮称)

- 国による愛知大会招致決定を受け、招致活動の主体となる招致委員会を設置
- 国、愛知県と関係自治体、関係機関、経済団体等により構成
- プロポーザルシートの作成及び招致活動 など

2023年技能五輪国際大会組織委員会(仮称)

- WSI総会における日本開催決定を受け、招致委員会を改組し、大会の実施主体となる組織委員会を設置
- 国、愛知県と関係自治体、関係機関、経済団体等により構成
- 大会の実施準備、大会運営、成果継承 など

13 今後のスケジュール

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
国際大会		(2021年開催国決定) アブダビ		(2023年開催国決定) カザン		(2025年開催国決定) 未定		愛知 (目標)
全国大会	山形	栃木	沖縄	愛知	愛知	未定	未定	未定
招致活動		2023年技能五輪国際大会 招致委員会(仮称)			2023年技能五輪国際大会 組織委員会(仮称)			
	招致調査	基本構想(県)	国による検討・招致決定	基本構想(国)	プロポーザルシート作成・提出	開催決定	基本計画	実施計画
		解説・教育プログラムの先行開発		解説・教育プログラムの拡充	全国大会における解説・教育プログラムの試行		解説・教育プログラムの拡充	
		招致支援広報		開催準備広報		集客広報		開催

< 參考資料 >

1 技能五輪国際大会

(1) 技能五輪国際大会とは

「技能五輪国際大会」は、国際的に技能を競うことにより、参加国の職業訓練の振興及び技能水準の向上を図るとともに、青年技能労働者(満22歳以下)の国際交流と親善を目的に、2年ごとに開催されています。約60カ国・地域から約1,200名の選手が参加し、50職種程度の競技で技能を競う大会です。

(2) WSI(ワールドスキルズインターナショナル)とは

技能五輪国際大会の運営組織で、76カ国・地域の団体(2016年10月現在)が加盟しています。日本は、中央職業能力開発協会(JAVADA)がメンバーとなっています。

(3) 選手の参加資格

- 出場する競技大会の開催年に満22歳以下である者(一部競技職種を除く)
- 各国・地域1職種につき1名または1組
- 国際大会の日本代表選手の選考は、国際大会が開催される前の年に開催する技能五輪全国大会において行われ、参加資格を満たす優勝者(成績優秀者)が日本代表として選出され、技能五輪全国大会で実施されない一部の職種については、各業界団体等が選考会や推薦等により選出

(4) 技能五輪国際大会で実施する競技職種 [アブダビ大会]

ポリメカニクス	情報ネットワーク施工	製造チームチャレンジ	メカトロニクス
機械CAD	CNC旋盤	CNCフライス盤	石工
ビジネス業務用 ITソフトウェア・ソリューションズ	溶接	印刷	タイル張り
自動車板金	航空機整備	配管	電子機器組立て
ウェブデザイン	電工	工場電気設備	れんが積み
左官	広告美術	移動式ロボット	家具
建具	建築大工	貴金属装身具	フラワー装飾
美容/理容	ビューティーセラピー	洋裁	洋菓子製造
自動車工	西洋料理	レストランサービス	車体塗装
造園	冷凍空調技術	ITネットワークシステム管理	グラフィックデザイン
看護	構造物鉄工	プラスチック金型	ビジュアル販売促進
試作モデル製作	建設コンクリート施工	パン製造	産業機械組立て
重機メンテナンス	3Dデジタルゲームアート※	貨物輸送※	

WorldSkills Abu Dhabi 2017 公式HPより引用 ※ アブダビ大会からの新規職種

(5) 開催実績

回	開催年	開催国	開催都市	参加 国数	参加 選手	日本 選手	日本メダル獲得数			要知県 選手	愛知県メダル獲得数			金メダル獲得上位3カ国	備 考	
							金	銀	銅		金	銀	銅			
1	1950	スペイン	マドリッド												初開催	
2	1952	スペイン	マドリッド												2年連続2回目	
3	1953	スペイン	マドリッド												3年連続3回目	
4	1954	スペイン	マドリッド												4年連続4回目	
5	1956	スペイン	マドリッド												5年連続5回目	
6	1957	スペイン	マドリッド												6年連続6回目	
7	1958	ベルギー	ブルッセル												初開催	
8	1959	イタリア	モデナ												初開催	
9	1960	スペイン	ヒホン												3年振り7回目	
10	1961	ドイツ	デュースブルグ												初開催	
11	1962	スペイン	ヒホン	10	199	8	5	1		1	1			①スペイン②日本	2年振り8回目	
12	1963	アイルランド	ダブリン	12	227	14	10		2					①日本②アイルランド③西ドイツ	初開催	
13	1964	ポルトガル	リスボン	12	199	17	12	4		1	1			①日本②イギリス③ポルトガル、スペイン	初開催	
14	1965	イギリス	グラスゴー	11	200	19	6	5	2	2		1		①イギリス②日本③スペイン	初開催	
15	1966	オランダ	ユトレヒト	11	212	20	9	3	2	2	2			①日本②オランダ③イギリス、イタリア	初開催	
16	1967	スペイン	マドリッド	11	218	20	5	7	2	2	1	1		①スペイン②日本③西ドイツ	5年振り9回目	
17	1968	スイス	ベルン	14	249	20	6	2	5					①スイス②日本③韓国	初開催	
18	1969	ベルギー	ブルッセル	15	260	23	9	2	4					①日本②スイス③西ドイツ	11年振り2回目	
19	1970	日本	東京	15	274	30	17	4	3	2	2			①日本②西ドイツ、韓国、スイス	初開催	
20	1971	スペイン	ヒホン	15	273	26	10	3	5	3	1	1		①日本②スペイン、スイス	4年振り10回目	
21	1973	ドイツ	ミュンヘン	15	281	27	5	5	8	3	1			①西ドイツ②韓国③日本、スイス	12年振り2回目	
22	1975	スペイン	マドリッド	17	291	26	4	7	5	3		2	1	①スイス②韓国③スペイン④日本	4年振り11回目	
23	1977	オランダ	ユトレヒト	16	267	26	7	4	3	3	1			①韓国②西ドイツ③日本	11年振り2回目	
24	1978	韓国	釜山	14	239	27	1	5	6	5		2	2	①韓国②スイス③オーストラリア他3カ国⑦日本	初開催	
25	1979	アイルランド	コーク	14	276	28	7	8	1	2	1			①韓国②日本③スイス	16年振り2回目	
26	1981	アメリカ	アトランタ	14	266	28	5	8	4	4	2	1		①韓国②日本③スイス、西ドイツ	初開催	
27	1983	オーストリア	リンツ	18	309	28	4	5	4	8	1	3	1	①韓国②台湾③オーストリア④日本	初開催	
28	1985	日本	大阪	18	307	34	11	8	4	8	5	2		①韓国②日本③台湾、スイス	15年振り2回目	
29	1988	オーストラリア	シドニー	19	354	30	6		3	9	4		3	①韓国②日本③台湾他2カ国	初開催	
30	1989	イギリス	バーミンガム	21	382	27	3	6	1	8	2	1	1	①韓国②台湾③オーストリア⑤日本	24年振り2回目	
31	1991	オランダ	アムステルダム	24	411	26	4	2	2	9	3	1	1	①韓国②台湾③オーストリア④日本	14年振り3回目	
32	1993	台湾	台北	25	434	27	2	6	5	9	2	3	2	①台湾②韓国③ドイツ④日本	初開催	
33	1995	フランス	リヨン	28	474	28	4	3	1	9	3	2		①韓国②台湾③日本、ドイツ、スイス	初開催	
34	1997	スイス	ザンクトガレン	30	519	29	2		4	8	2		3	①韓国②台湾、スイス⑧日本	29年振り2回目	
35	1999	カナダ	モンリオール	33	625	34	6	3	2	9	4	1		①台湾②韓国③日本	初開催	
36	2001	韓国	ソウル	35	616	33	4	2	4	7	3	1	2	①韓国②ドイツ③日本、オーストリア	23年振り2回目	
37	2003	スイス	ザンクトガレン	36	689	34	6	2	4	10	5	2	2	①韓国②ドイツ③日本、オーストリア	6年振り3回目	
38	2005	フィンランド	ヘルシンキ	37	660	36	5	1	2	6	1		1	①日本、スイス、南チロル(イタリア)④ドイツ、フィンランド	初開催	
39	2007	日本	静岡	46	812	51	16	5	3	13	5	2	1	①日本②韓国③フランス	22年振り3回目	
40	2009	カナダ	カルガリー	46	845	45	6	3	5	13	1	2	1	①韓国②スイス③日本	10年振り2回目	
41	2011	イギリス	ロンドン	48	925	45	11	4	4	13	5	2	1	①韓国②日本③スイス	22年振り3回目	
42	2013	ドイツ	ライプツィヒ	52	986	45	5	4	3	20	3	3	2	①韓国②スイス③台湾④日本	初開催	
43	2015	ブラジル	サンパウロ	59	1,189	45	5	3	5	16	4	2	2	①韓国②ブラジル③日本、中国、台湾、オーストリア、南チロル(イタリア)	初開催	
44	2017	アラブ首長国連邦	アブダビ												初開催	
45	2019	ロシア	カザン												初開催	
46	2021	未定														
合 計					14,468	956	218	125	108	208	66	34	27			

※第1回(1950年)～第10回(1961年)、日本は不参加・記録無し

2 愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会

(1) 愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会開催要領

(目的)

第1条 2023年の技能五輪国際大会の本県への開催招致に向けて、県としての技能五輪国際大会基本構想の策定について検討するとともに、国際アビリンピックについても、2023年頃の大会を招致することを念頭に、招致に向けた検討を行う、愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会(以下、「委員会」という。)を開催する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌するものとする。

- (1) 技能五輪国際大会基本構想及び国際アビリンピックの基本構想の策定のための検討に関すること。
- (2) その他、技能五輪国際大会及び国際アビリンピックの招致に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会の委員は、別表のとおりとする。

- 2 委員会に委員長を置く。
- 3 委員長は愛知県産業労働部労政局長が指名する。
- 4 委員長に事故がある時は、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。

(運営)

第4条 委員長は、委員会を招集し、主宰する。

- 2 委員は、やむを得ない理由により出席できないときは、自らが指名する者を代理として出席させることができる。
- 3 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、愛知県産業労働部労政局産業人材育成課(業務委託先:株式会社アサツーディ・ケイ)において処理する。

(その他)

第6条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要領は、2016年11月14日から施行する。

(2) 愛知県技能五輪国際大会基本構想策定委員会委員名簿

区分	氏名	団体名役職
技能五輪 関係者	岡部 眞幸	職業能力開発総合大学校教授
	釜石 英雄	中央職業能力開発協会技能振興部長
	中西 義裕	一般社団法人愛知県専修学校各種学校連合会副会長
	西島 保	公益社団法人愛知県技能士会連合会理事長
	真下 和雄	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構愛知支部長
企画・広報 有識者	紫牟田 伸子	紫牟田伸子事務所代表
	福井 昌平	株式会社コミュニケーション・デザインング研究所代表取締役社長
	横山 陽二	名古屋外国語大学現代国際学部国際教養学科准教授
経済団体	柴山 忠範	愛知県経営者協会専務理事
	田中 豊	名古屋商工会議所企画振興部長
	森 浩英	一般社団法人中部経済連合会企画部長
行政機関	間所 陽一郎	愛知県産業労働部労政局長

(区分ごとに氏名五十音順、敬称略)

(3) 検討経緯

- 第1回委員会 [2016年12月12日] :基本コンセプト・基本方針に関する検討
 第2回委員会 [2017年1月20日] :大会開催概要や競技・式典、各プログラム等の検討
 第3回委員会 [2017年2月17日] :基本構想(案)についての検討

2023年技能五輪国際大会 基本構想

2017年(平成29年)3月

[発行]

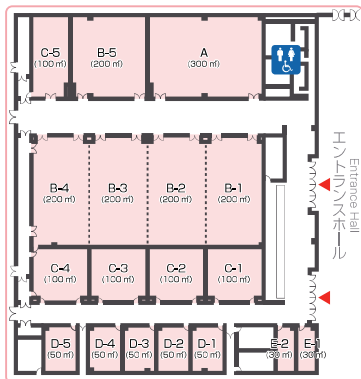
愛知県産業労働部労政局産業人材育成課技能振興・技能五輪グループ
〒460-8501 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
TEL. 052-954-6375(ダイヤルイン)

[製作]

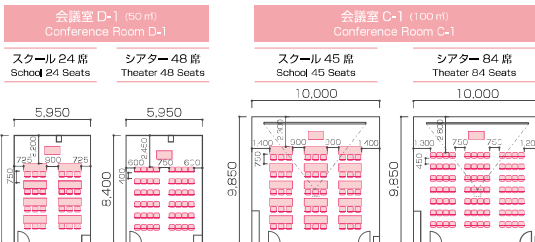
株式会社アサソーディ・ケイ
〒105-6312 東京都港区虎ノ門一丁目23番1号 虎ノ門ヒルズ森タワー
TEL. 03-6830-3811(代表)

会議室 Conference Rooms

レイアウト使用例
Examples of Layout



机 1,800×600	Desk 1,800 x 600
椅子 500×500	Chair 500 x 500
円卓 φ1,800	Round table φ1,800



資料6

会議室 B-1 (200㎡)
Conference Room B-1

シアター 192 席
Theater 192 Seats

島組 108 席
Island 108 Seats



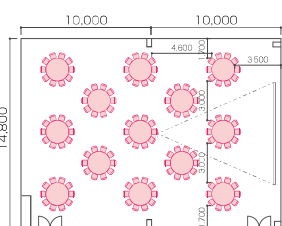
会議室 B-1 ~ B-4 一体利用 (800㎡)
Use of conference rooms B (1 to 4) as one room

スクール 375 席
School 375 Seats



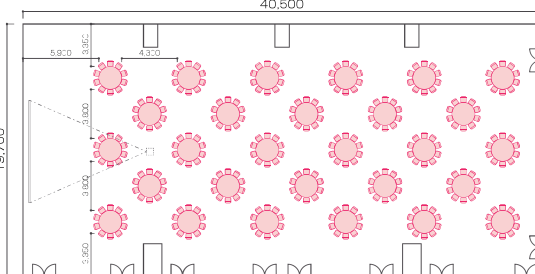
会議室 A (300㎡)
Conference Room A

パーティー 130 席
Party 130 Seats



会議室 B-1 ~ B-4 一体利用 (800㎡)
Use of conference rooms B (1 to 4) as one room

パーティー 280 席
Party 280 Seats



〈会議室 構成〉 Conference Room Composition

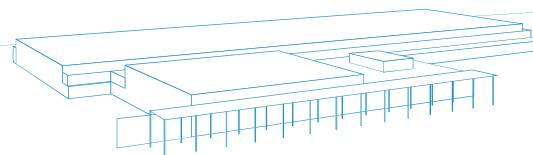
面種 Space	室数 Number of Rooms	天井高 Ceiling height
会議室A Conference Room A	1室 1 room	5m
会議室B-1~B-4* Conference Rooms B (1 to 4)*	5室 5 rooms	5m
会議室C-1~C-5 Conference Rooms C (1 to 5)	5室 5 rooms	3m
会議室D-1~D-5 Conference Rooms D (1 to 5)	5室 5 rooms	3m
会議室E-1、E-2 Conference Rooms E (1 to 2)	2室 2 rooms	3m

*B-1 ~ B-4は、最大800㎡の一体利用が可能
*Conference Rooms B (1 to 4) can be used as a one room (800㎡)

愛知県国際展示場

Aichi International Exhibition Center

フロアマップ／レイアウトイメージ
Floor Plans / Layout Images



Aichi 2019
EXHIBITION CENTER

愛知県国際展示場

愛知県振興部地域政策課 国際展示場準備室

Exhibition Site Section, Policy Division,
Department of Regional Development and Tourism, Aichi Prefecture

052-954-6849

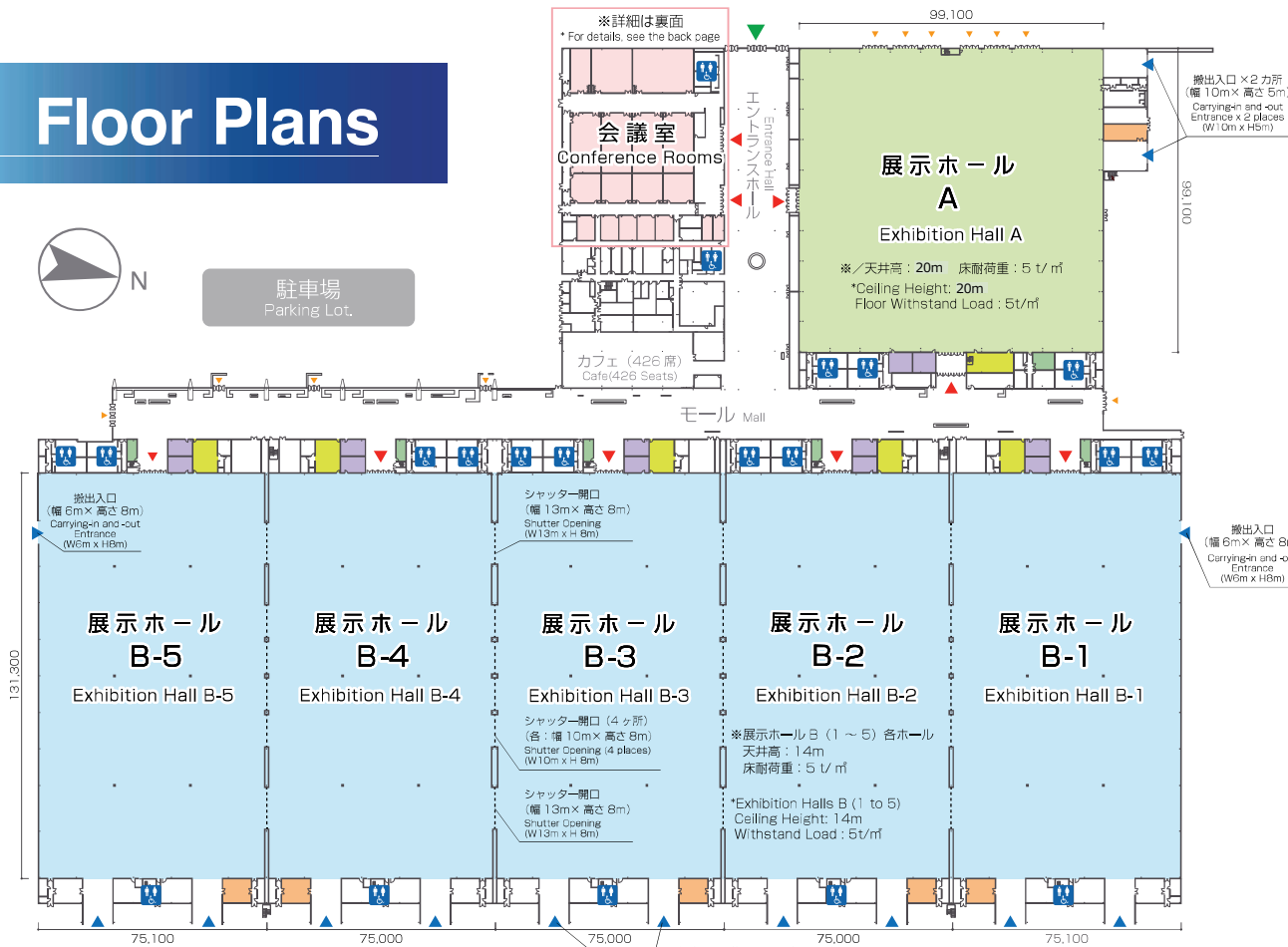
tenji@pref.aichi.lg.jp

www.aichi-ex.jp

Floor Plans



駐車場
Parking Lot.



※各展示ホールにはシャワー室、給湯室を配備
モールには1,000人ベンチを配備

*Exhibition Halls equipped with a shower room and a room with facilities for boiling water
The mall has benches for 1,000 people

一 凡 例

Legend

- 男子トイレ/女子トイレ/多目的トイレ
Men's Rest Room / Women's Rest Room / Multipurpose Restroom
- 主催者事務室
Organizer's Office
- 商談室
Room for Business Meeting
- 多目的室
Multipurpose room
- 主催者用倉庫
Storage Space for Organizer
- メインエントランス
Main Entrance
- サブエントランス
Sub-entrance
- 出入口
Entrance Door
- 搬出入口
Carrying-in and-out Entrance

〈諸室概要〉 Overview of Facilities

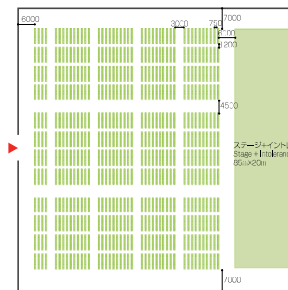
	展示ホール A Exhibition Hall A	展示ホール B (1～5) Exhibition Hall B (1 to 5)
面積 Space	10,000m ²	10,000m ² ×5室 10,000 m ² x 5 halls
構造 Structure	柱のない空間 有効高 20m Area without pillars, Effective Height: 20 meters	柱間隔25.0~36.0m 有効高14.0m Space between pillars: 25.0 to 36.0 meters, Effective Height: 14.0 meters
小間・席数 Units / Seats	展示(小間) Exhibition (Units)	348
	展示(小間) Exhibition (Units)	400
	1席/10.000m ² 利用割合 For the use of one hall: 10.000m ² .	
シアター(席) Theater (Seats)	6,500	シアター(席) Theater (Seats) 6,300
スクール(席) School (Seats)	4,995	スクール(席) School (Seats) 6,075

※上記はいずれも2017年2月時点の情報です。今後の設計、建設において、変更の可能性があります。
*The above information is as of February 2017 and subject to change depending on the progress of the construction.

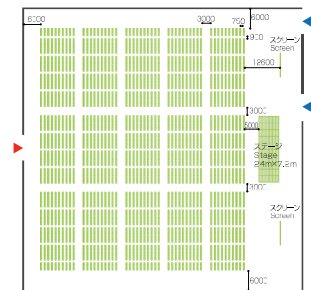
展示ホール A Exhibition Hall A

レイアウト使用例
Examples of Layout

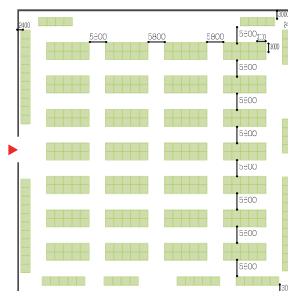
コンサート Concert



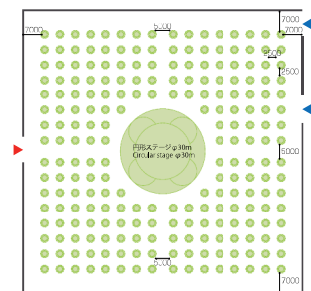
シアター Theater



展示会 Exhibition



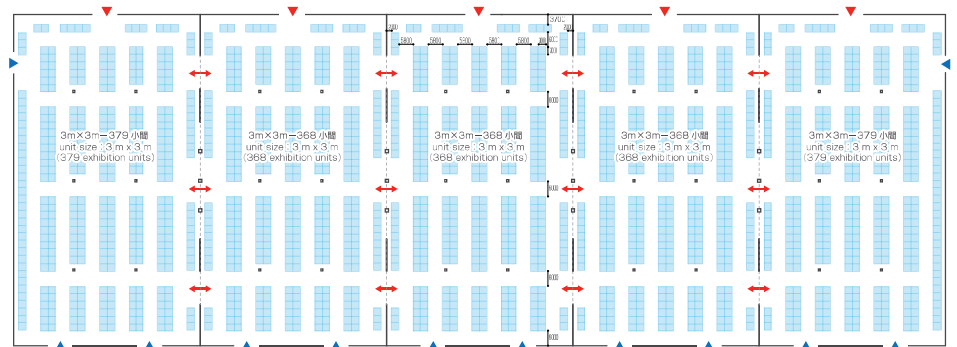
パーティー Party



展示ホール B (1～5) Exhibition Hall B (1-5)

レイアウト使用例
Examples of Layout

展示会 Exhibition



※展示ホールB (1～5) 一体を上記サンプルのとおり利用で約1,862小間の利用が可能。(小間: 3m×3m、小間通路: メイン通路6m リブ通路5.8mの場合)
*When using the Exhibition Halls B (1 to 5) as a one hall as shown in the above example, the hall accommodates approx. 1,862 units.
(In the case where the unit size is 3 meters x 3 meters, the width of the main aisle is 6 meters and the width of the sub aisle is 5.8 meters)

第44回技能五輪国際大会（WSC2021）開催意思表明に伴う 検証訪問（和訳）

目的

検証訪問の目的は以下の通りである。

- 開催意思表明を提出する加盟国／地域が、技能競技大会開催に関する必須基準を満たしているかどうかを検証
- 加盟国／地域を導き、前回大会の経験を共有することにより、技能競技大会の正式な入札プロセスを向上させる
- イベントの計画を WSI のビジョン、使命、計画文書により即したものにするため、加盟国／地域に助言する
- 加盟国／地域に WSI に対する財政的責任を理解させる

検証チームは、申請国にとって戦略的に有益または重要なセールスポイントである提案内容を他の加盟国／地域に拡散、または議論したりしないように、留意することが重要である。

本文書に掲載の疑問点やトピックは、訪問中に対処することとする。疑問点に関する対応は協力的なものであり、主催側が疑問点の理由や原理を理解すること、ならびに WSI がその返答内容を理解することを実現できるように尽力する。

検証チームは訪問により発見したことを文書化し、訪問により得た詳細情報や推奨事項を理事会に発表する。必要な基準を満足することに成功した加盟国／地域は、期限までに正式な入札提案をすることが認められる。

以下の基準は、技能五輪国際大会の開催にあたり、必要不可欠な基準である。

- 加盟国／地域は世界人権宣言に基づき、全ての外国籍のイベント参加者に対してその人権を保障できるようにしなくてはならない。
- 加盟国／地域は、それ相応の規模の国内大会または地域大会の運営経験がなくてはならない。
- 大会開催組織は、(運営・管理において)十分に加盟国組織とつながりを持っていないといけない。
- 財政支援の状態が整っており、確保されなくてはならない。
- ブランドの規則を十分に遵守しなくてはならない。約束のみではなく、実施が必須である。
- WSI は大会開催組織の理事会および／または運営委員会に籍を置く。WSI（理事会および最高経営責任者）は定期的な情報提供を行うこととし、開催国の理事会と協議する。
- 理事会へ提案する費用（第一には主たるパッケージ内容）は、妥当な額面でなくてはならない。

補足資料

ドロップボックスの「WSC WSC2021」を参照。

1. 入札の理由

- 技能五輪国際大会を開催したい理由は何か？
- 技能競技大会を開催することは、自身の国／地域の職業教育訓練計画にどのように合致するか？
- 技能五輪国際大会が終了後、残したい遺産（功績）は何か？
- 来場者はどのような人々になるか？希望する来場対象者はどのような人々か？
- 来場者の予測数は何名か？
- 貴国／地域に与える影響はどんなものと予測するか？また有益となるのはどのような分野か？

2. 政府関係者の後援

- 本入札を後援する主要な関係者は誰か？彼らが技能五輪国際大会の開催を後援する理由は何か？また、どの分野を後援する予定か？
- 入札を取り止める、または入札決定後に競技大会開催を取りやめるとすると、どのような状況においてか？
- 重要な職業教育訓練関係者から受ける後援の規模はどの程度か？
 - 政府（国家/連邦、州/地域および地元の所属団体）の後援はあるか？政府および野党双方からの支援か？
 - 教育機関からの後援はあるか？
 - 企業からの後援はあるか？
 - 地方自治体（都市/地方）からの後援はあるか？
- 政府（国家および地方自治体）の安定性はどうか？
- 選挙の周期 – 大会の開催前に変更が予想される時期および頻度はどのようであるか？
- 大会前に政府が変更した場合、その影響はどのようなものと予測するか？
- 大会前に省庁が変更した場合、その影響はどのようなものと予測するか？

3. 運営・管理体制

- 加盟国/地域はどのような運営体制を取っているか？（例：関係者・職員・理事会員等）
- 大会開催組織はどのように組織され、どのような体制を取る予定か？大会開催組織と加盟国/地域団体間の法的・構造的関係性はどのようなものか？加盟国/地域側における大会の運営管理者は誰か？
- 大会開催組織とその加盟国/地域団体との関係性は WSI に承認を受けることになっているが、それは可能か？
- 大会開催組織の理事会および/または運営委員会に WSI の代表を派遣する手配となっているが、それは理解しているか？
- 大会開催組織の所在地はどこになるか？加盟国／地域団体も同じ都市に所在しているか？

4. 財政

- 予算はいくらか？（スポンサー額・現物支給額・現金）
 - 歳入
 - 支出
- 予測される助成金はいくらか？
 - 政府（国家/地方自治体）
 - 職業教育訓練機関
 - 企業（詳細は5項を参照）
- WSI に対する財政的責任が、開催費 EUR 955,242 であることを理解しているか？ OG6046、OG6049、OG6050 を参照。
- 大会開催組織は資金提供組織からの制限に対し、資金上どの程度の影響力（管理力）を持てるか？
- 国/地域外で金銭を支出する場合（ある場合）、どのような制限があるか？
- 財政的リスクは何か？ ターゲットのスポンサーを獲得できなかった場合はどのように対処するのか？
- スポンサー、加盟国/地域または WSI から貴国へ出荷される装置および他部材の出荷に係る輸入税および関税について、意見はあるか？（例：マーケティング部材）
- 貴国/地域へ金銭を持ち込む際に係る税金および関税について、意見はあるか？（例：大会開催組織に代わり WSI が販売する会議チケット）
- WSI のスポンサーシップの枠組み、および開催者の契約内容に対するその影響力を理解しているか？
- 全体イベントプレゼンター（OEP）の当てはあるか？
- パッケージは通常、開催国/地域の通貨で提供、販売される。一方で、WSI の承認に基づき、使用する為替レートの合意および透明性を条件として米ドルを使用する国/地域もある。主要な国際通貨に対し、開催国通貨の安定性はどうか？

5. 企業の後援

- 既にスポンサー契約を約束している企業はどこか？ またどのような支援を約束しているか？（例：現金・現物支給による後援）
- 貴国が目的とする後援の種類は何か？（例：現金・現物支給）
- 自国の技能競技大会におけるスポンサーおよびパートナー数はいくつか？ それらの企業から、技能五輪国際大会においてはどのような期待をしているか？
- WSI のグローバル・パートナーと紛争問題を抱えているか？（WSI のグローバル・パートナーが技能五輪国際大会における先買権を保有していることを理解すること）
- 貴国において、全ての職種競技に関わる業界企業が存在するか？ 貴国が（強固な）基盤を持っていない可能性のある職種競技についてはどうか？（例：カナダにおける石工職種）

6. 会場

- 提案する大会競技会場はどこか？
- 提案する技能競技大会の開催日はいつか？（8月から11月の間であること - OG1200 参照）
- 屋内スペースの大きさは？
- 技能競技大会に使用可能な追加屋外スペースの大きさは？
- スペースに内に使用制限はあるか？
- 会議室はいくつあるか？（大きさと部屋数）
- 提案する開会式会場とその収容規模（9千名以上収容する必要あり）

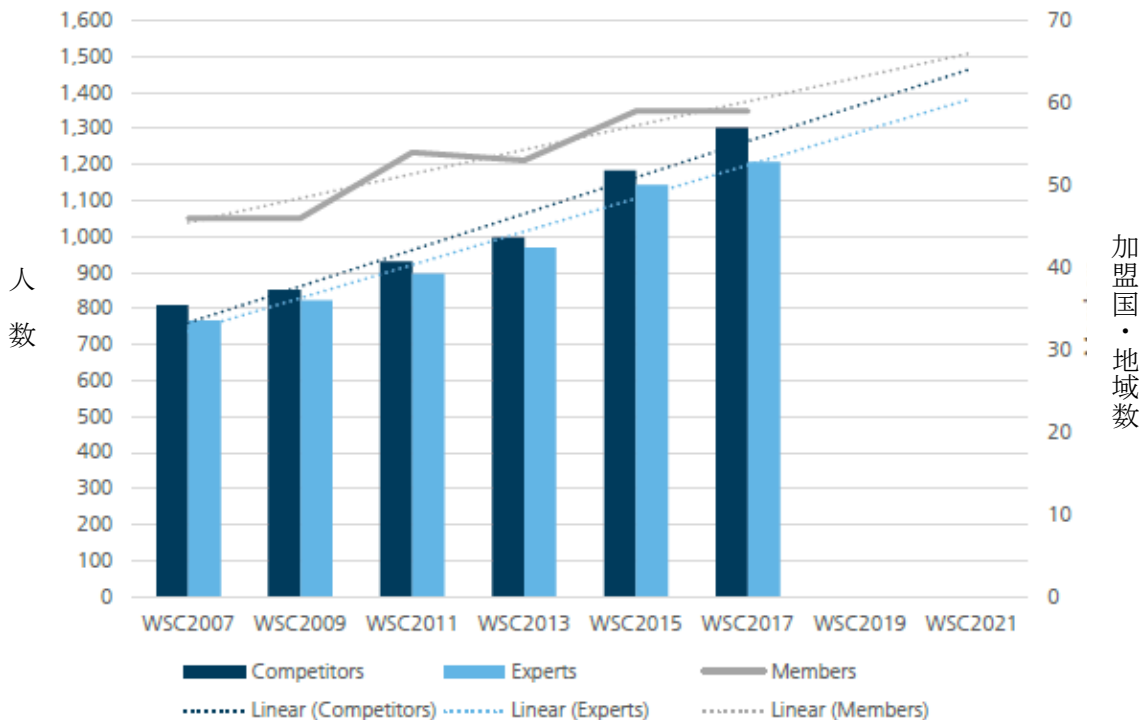
- 提案する閉会式会場とお別れパーティの会場とその収容規模（2会場は同じ敷地内でなくてはならない。異なる会場の場合、閉会式会場とお別れパーティ会場の距離はどのくらいか？）（閉会式会場の収容人数は9千名以上、お別れパーティは3500名以上ある必要あり）
- 会場は、スポンサーシップの看板やブランド表示において「クリーン」であるか？（即ち、全敷地内の一部として会場内外の企業スペースがイベント用に必要であり、一般向けのスペースであってはならない。）
- 大会会場において「必ず使用しなくてはならない」パートナー（物流、IT、映像音響機器、ケータリングなどの企業）があるか？あるいは使用業者への制限はないか？
- 業界企業およびイベント向けの安全衛生を担当する国内の当局があるか？
- 提案する会場では、過去にどのような種類のイベントが開催されており、それらのイベントの参加者数は何名か？

参考

注：2019年までに、持続可能性の達成目標のため、妥当な予測増加分の調整を鑑み、最低減の会場規模の要件の設定が必要となる。会議室および会議施設を除き、最低9万～12万平米が必要になると予測される。

	WSC2007	WSC2009	WSC2011	WSC2013	WSC2015	WSC2017
選手数	810	852	931	999	1,184	1,303
エキスパート数	767	823	898	969	1,143	1,207
加盟国/地域数	46	46	54	53	59	59
来場者数	219,000	152,000	200,000	205,000	259,000	
敷地面積	60,000 m ²	100,000 m ²	90,000 m ²	100,000 m ²	213,000 m ²	

参加者数の推移



7. 宿泊施設

- 利用可能なホテルはどこか？アクセスの容易さ、距離、客室数、質、食事の提供はどうか？最低 4 千名分のパッケージを用意しなくてはならない。
- 提案する選手村はあるか？アクセスの容易さ、距離、客室数、質、食事の提供はどうか？
- 3つ星から5つ星ホテルの価格帯はいくらか？ツインベッドルームは選べるか？
- ホテル～競技会場～開閉会式会場の移動手段はどうか？
- 会議室のあるホテルはいくつあるか？（多くのチームがホテル内での選手とのミーティング用に会議室を要望するため）
- ホテルは、要求する時間枠で、必要な量の朝食を準備できるか？（例：ホテルに 300 名の選手が宿泊している場合、AM6時半～7時半の間に 300 食の朝食を準備することになる）
- 選手用の夕食はどうか？
- ホテル内無料インターネットサービス
- 選手、チームリーダー、エキスパート（チーフおよび副チーフ・エキスパート）、通訳、公式代表、技術代表、技術代表補佐、スポンサー、オブザーバー、公式オブザーバー、事務局員、理事会員用のパッケージが必要

8. ロジスティクス

- 加盟国/地域の到着場所は何箇所あるか？（例：空港、電車の駅など）
- 提案するホテル～競技会場間の移動手段は何か？
- 提案するホテル～開会式会場あるいは閉会式会場およびお別れパーティ会場の間の移動手段は何か？

- 開催者は競技会場内で多くの食事を提供しなくてはならない - 大会中の作業場、部屋内、昼食、夕食。例：C-2、C4、C1～C3 - この点に関し問題はありますか？
- (大会開催と WSI 事務局用に) 開催者はたくさんのボランティア人員を用意しなくてはならない。 - 必要なボランティアを確保することに問題はありますか？
- 国内外に工具箱を輸出入するにあたり、起こり得る問題はありますか？
- 加盟国/地域のビザ取得において、起こり得る問題はありますか？

9. インフラ

- (インフラリストの装置や部材は大会開催組織により提供されるため、) 大会で使用する機材や部材の確保に関してどのように計画しているか？ (例：2005年国際大会時のように職業教育訓練施設を更新するといった戦略)
- 解体および処分に関する計画は？
- 公共設備に関する計画は？ - ガス、空調、電気、水、高速インターネット
- 貴組織自身のパートナーに全てを依頼する予定か？または会場 (開会式、閉会式、お別れパーティの会場) に望ましいまたは契約中の業者がいるか？ (即ち、その業者を使用しなくてはならないか？)
- 会場には、有益となるインフラ設備が備えられているか？
- 特定の装置について、輸入、使用、訓練を許可されていない国および地域はあるか？ (ある場合)
- 貴組織のインフラの供給者およびパートナーは、持続可能性に関する基準の資格を有しているか？または貴国内または国際的な持続可能性に関する基準の資格を有する供給者のみとの契約を考えているか？

10. インターネットアクセス

- 開催国/地域において、インターネットアクセスに関してどのような制約があるか？ (ある場合)
- 事務局は、準備会議、CPW、大会時の間、途切れることのない持続的なネットアクセスを、オフィス内およびホテル内双方において必要とする。
- 事務局は、準備会議、CPW、大会時の間、以下のサービスへの無制限のアクセスを必要とする。ドロップボックス、Eメール、スラック、スカイプ、WSIのウェブサイトに基づいたシステム。
- 貴国/地域のアクセス制限により必要とするサービスにアクセスできなくなった場合、どのような方策を講じるか？
- 大会中、Youtube、フリッカー、フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、その他イベントを配信するためのサービスを使用する目的で、追加の高速インターネットアクセスが必要となる。
- 世界中から来る加盟国/地域代表およびメディアは、自身の組織と大会について交信するため、各自のリソースにアクセスする必要がある。こうしたアクセスは、CPWや大会中に大会会場とホテル双方で行われる。
- その他のサービスも、入札プロセス中から大会実施まで必要となることがある。大会の運営および広報活動に必要とされるサービスへのアクセスが許可されなくてはならない。

11. 広報活動およびマーケティング

- 現在メディアパートナーがいるか？
- 国際的メディアへ大会を拡散宣伝する方策は何か？後援可能な国際的ジャーナリストに参加を依頼するのか？
- 大会開催組織として、その地元や地域での宣伝活動同様に、各加盟国/地域や海外コミュニティに対し、宣伝活動資料を投資および供給する必要がある。
- ソーシャルメディア (フェイスブック、ツイッター、Youtube) にアクセス制限のある国や地域はあるか？
- その他、必須のウェブベースの業務管理のためのサービス (Email、ドロップボックス、スラック、

スカイプ等)に使用制限はあるか？

- 名称や組織を含め、100%ブランド指針を遵守しているか？WSI ブランド指針に則り、技能五輪国際大会で使用できるのは、WSI のロゴやブランドのみである。入札する加盟国／地域組織においても、100%WSI のブランド指針に沿っていなくてはならない。
- 貴国において、「WorldSkills」の標章登録をしているか？(EU の加盟国／地域は、EU 圏内で WSI が実施した登録によりカバーされている。)(登録証書または確認証書を WSI の事務局へ送付のこと。)

12. 大会開催経験

- 当該加盟国／地域および大会開催組織の、こうした規模のイベントの運営経験についてはどうか？(安全衛生・ケータリング・移動手段・イベント管理・エキスカッション・開閉会式・メディア)
- 当該加盟国／地域は地域大会または国内の競技大会の運営経験はあるか？ある場合、職種競技数、選手数、期間、会場について記載すること。
- 国内または地域の技能競技大会において、持続可能性に関する方針および戦略はあるか？ある場合、どのようなものか？
- ワークショップ・マネージャーの手配元はどこか？貴組織とワークショップ・マネージャーとの関係性はどのようなものか？彼らの役割責任に関する期間契約や責任につき、どのように保障するか？全作業場にワークショップ・マネージャーを配置すること、および彼らに1つ前の技能五輪国際大会に参加させること(必須事項)について、どのように実施するか？
- WSI は、先行する大会の管理方法(例えば WSC2017)について、大会開催組織が技能五輪国際大会を経験することが非常に有意義と考える。大会開催組織の人員に関し、どのような計画があるか？

13. 職種競技以外の活動について

会場内

- 技能五輪国際大会の一環として、以下の価値ある活動に関し、どのような方策があるか？
 - 職業体験
 - 技能や就職機会の紹介
 - プレゼンテーション職種、未来の職種、伝統職種など
 - プロジェクトや戦略における、(技能競技大会以外の)他の5つの注目領域を紹介
 - ワールドスキルズ・ヴィレッジおよび展示スペース
 - スキルアウト(競技後のハッピーアワー)
 - スキルマネジメント(職種管理)チームのレセプション

会場外

- 一校一国サポートプログラムをどのように実施するか？
- エキスカッションについてどのような計画があるか？(選手・チームリーダー・公式代表・エキスパート・技術代表向け)
- 企業訪問についてどのような計画があるか？(必須ではないが、来場者向けには付加価値になり得る)

14. 会議プログラム

- 会場内には、どのような会議施設があるか？（部屋の大きさ、部屋数、専用の会議施設）
- WSI 加盟国／地域の技能担当の大臣を招待し、各国大臣による技術職業教育訓練サミットへ出席してもらうための調整をすることに関し、貴国内の技能担当の省庁からサポートを得ることができるか？

15. 大会準備週間（CPW）

- CPW は技能競技大会に組み込まれた一つの活動である。CPW は技能競技大会の 8 ヶ月前に開催され、理想的には大会の開催年に実施するのが望ましいが、可能か？
- 提案する会場はどこか？（理想的には、必要な各種会議室を備えたホテルが望ましい。（全体会議室、分科会用小部屋多数、事務局用の部屋、大会開催組織用の部屋、一校一国サポートプログラム用会議室）
- CPW 会場と他の競技大会会場の距離はどのくらいか？

16. チャンピオンおよびユース・イニシアティブ

- 大会中にユース・フォーラムを開催する予定があるか？（WSC2017 に同時開催する国際ユース・フォーラムを参照のこと）
- 大会中、WSC および国内の職種競技チャンピオンを参加させる予定はあるか？その場合、どのように実施するか？
- 2018 年総会および 2020 年総会にワールドスキルズ・チャンピオンズ・フォーラムへ WSC チャンピオンを派遣する予定か？

17. 都市および国／地域

- 総合的なアクセス性 – 開催都市への加盟国／地域の渡航のしやすさ。空路、鉄道、道路。例：加盟国／地域が利用する、国際航空便のルートはどのようなものか？
- 都市内の移動 – 加盟国／地域および来場者の、開催都市内の移動のしやすさ。渋滞、公共交通機関、タクシー等
- 都市の安全性 – 当該都市の安全に関する国際的な認識および当該都市の実際の安全性
- 都市のインフラ – 会場の周りにどのような施設があるか？（例：緊急を要する物品購入のためのハードウェアショップ）
- 文化的慣習 – 国際的なイベントを開催する事で影響が懸念される文化的慣習はあるか？例：大会でのアルコールの支給

18. 入札の準備

検証訪問の間、入札準備手順および加盟国／地域との関わりについて議論する時間が設けられる。倫理行動規程は入札プロセスにも当てはまり、全員がこの点に関する詳細を把握していることが重要である。

第 44 回技能五輪国際大会会場における仮設建築物の建築状況

外観



内部



空港インフラの状況

関西国際空港及び中部国際空港の合計		22カ国・地域
欧州	5カ国・地域	
北米・中南米	2カ国・地域	
中東	1カ国・地域	
アジア	12カ国・地域	
その他	2カ国・地域	

(参考)

中部国際空港の合計		13カ国・地域
欧州	2カ国・地域	
北米・中南米	2カ国・地域	
中東	1カ国・地域	
アジア	8カ国・地域	
関西国際空港の合計		22カ国・地域
欧州	5カ国・地域	
北米・中南米	2カ国・地域	
中東	1カ国・地域	
アジア	12カ国・地域	
その他	2カ国・地域	

宿泊インフラの状況

1 調査対象

三つ星以上のホテル(調査会社の調査基準による)

2 国際大会で使用する条件等

- (1) 食事対応(ハラル対応、朝食はbuffet、朝食場所の広さなど)
- (2) 選手はツインルームのツイン使用またはダブルベットルーム・ツインルームのシングルユース。
- (3) 競技会場までの専用シャトルバスを利用して90分以内

3 宿泊キャパシティについて

(1) 30分圏内(選手中心)

	条件	部屋数	収容人数	備考
①	食事、部屋タイプの条件を満たしている	72室	136人	
②	部屋タイプの条件を満たしている	1,208室	1,867人	部屋数は、ダブル、ツインルームの合計
③	30分圏内の条件を満たしている	2,828室	3,487人	部屋数は、②にシングルルーム数1,620を加えたもの

※収容人数はツインルームのツイン使用を条件に算出

(2) 31分以上60分以下の圏内(エキスパート、通訳中心)

	条件	部屋数	収容人数	備考
①	食事、部屋タイプの条件を満たしている	490室	490人	
②	部屋タイプの条件を満たしている	7,693室	7,693人	部屋数は、ダブル、ツインルームの合計
③	60分圏内の条件を満たしている	24,351室	24,351人	部屋数は、②にシングルルーム数16,658を加えたもの

(3) 61分以上90分以下の圏内(オブザーバー)

	条件	部屋数	収容人数	備考
①	食事、部屋タイプの条件を満たしている	429室	429人	
②	部屋タイプの条件を満たしている	2,183室	2,183人	部屋数は、ダブル、ツインルームの合計
③	90分圏内の条件を満たしている	8,055室	8,055人	部屋数は、②にシングルルーム数5,872を加えたもの

中部国際空港及び周辺地域の会議室等の状況

中部国際空港セントレア

セントレアホール（仕様）（計 340 m²）

	面積	天井高さ
ホール	340m ² （約 20m×約 17m）	約 5.8m
ホワイエ	153m ² （約 9m×約 17m）	

・劇場形式

ステージ	面積 63m ² （約 13.5m×約 4.7m）、ステージ高 0.6m
スクリーン	300 インチ（約 6.6m×約 3.7m）
天井吊物装置	美術バトン 1、照明バトン 3
音響反射板	一式（上部+サイド）
同時通訳ブース	4 ブース
収容人数	最大 330 名（固定席 242 名 移動席 88 名）

・フラット形式

スクリーン	250 インチ（5.5m×3.1m）
天井吊物装置	照明バトン 1
収容人数	約 200 名（立食パーティー時）

会議室（計 496 m²）

部屋番号	面積	席数	連結使用	部屋タイプ
R-1	123m ²	63 席	可 (最大 150 席)	会議室
R-2	62m ²	24 席		会議室
R-3	130m ²	63 席		会議室
R-4	42m ²	18 席	可 (最大 36 席)	会議室
R-5	47m ²	18 席		会議室
R-6	43m ²	8 席	不可	応接
R-7	49m ²	8 席	不可	応接

http://www.centrair.jp/business/event/conference_room/shiyou/

〔空港島内施設〕 セントレアホテル（計 130 m²）

会場名	面積	坪	ディナー	buffet	スクール	シアター	口の字型
全スパン	130m ²	39.3 坪	60 席	60 名	60 席	80 席	42 席
第 1 室	79m ²	23.9 坪	40 席	40 名	40 席	50 席	30 席
第 2 室	51m ²	15.4 坪	20 席	20 名	20 席	30 席	24 席

<http://www.centrairhotel.jp/party/>

〔空港島内施設〕 東横 INN 中部国際空港本館（計 285.29 m²）

会議室	床面積	定員
大会議室 (最小利用人員 20 名)	174.49 m ²	100 名
中会議室 (最小利用人員規定なし)	82.5 m ²	30 名
小会議室 (最小利用人員規定なし)	28.3 m ²	8 名

<http://www.toyoko-inn.com/hotel/00148/osusume.html>

〔空港近隣施設〕 J ホテルりんくう（計 116 m²）

	MR-1	MR-2	MR-1 + 2	MR-3
面積	45m ² (14 坪)	45m ² (14 坪)	89m ² (27 坪)	26m ² (8 坪)
スクール形式	18 席	18 席	42 席	12 席
シアター形式	36 席	36 席	60 席	16 席
口の字	18 席	18 席	40 席	12 席

※空港島対岸のりんくう地区のホテル。りんくう常滑駅から徒歩 1 分。中部国際空港駅ーりんくう常滑駅間は、名鉄電車で 3 分。

<http://www.j-hotel-rinku.com/meeting/index.html>

〔空港近隣施設〕 イオンホール（計 298.39 m²）

	面積
イオンホール A	140.22 m ² (42.42 坪)
イオンホール B	158.17 m ² (47.85 坪)

※イオンモール常滑⇄中部国際空港間、シャトルバスで 15 分

<http://tokoname-aeonmall.com/special/lists/aeonhall>

（注）会議室等の床面積、主要人数等は、いずれも各 Web ページから転記したものである。

技能五輪国際大会の主催国の決定のための投票の状況

回数	主催大会年	投票時期	場所	プレゼンテーション 実施国	投票状況	主催決定国	備考
1	2013年	2009年8月	カナダ カルガリー	ドイツ フランス	ドイツ 23 フランス 22	ドイツ	
2	2015年	2011年10月	イギリス ロンドン	スペイン	満場一致でスペイン に決定	スペイン	後に辞退
		2012年5月	韓国 チェジュ島	ブラジル	議長提案の結果、 誘致を承認	ブラジル	
3	2017年	2013年7月	ドイツ ライプツィヒ	アラブ首長国 連邦(UAE)	満場一致でUAEに 決定	UAE	
4	2019年	2015年8月	ブラジル サンパウロ	ベルギー フランス ロシア	1回目 2回目 ベルギー 5 ー フランス 24 26 ロシア 28 31	ロシア	